



# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2017

発表概要集

Student Forum in Osaka

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

# 目 次

○はじめに	1
○次 第	2
○発表概要	
学生発表① 関西大学 人間健康学部 安田ゼミ KELP（関大型体験学習研究会）による地域での活動について	3
学生発表② 大阪電気通信大学 地域連携プロジェクト入門 ねやファーム（寝屋川市の農家と学生を結ぶマッチングサイト）	8
学生発表③ 森ノ宮医療大学 メディカルスポーツトレーナー研究会「MST」 ジュニアスポーツ選手のサポート	12
学生発表④ 追手門学院大学 北摂総合研究所 「見山の郷商品開発プロジェクト」 追手門学院大学生の地域連携活動として「見山の郷の課題解決」に参加する	20
学生発表⑤ 大阪経済大学 人間科学部 人間学科 相原ゼミ スポーツツーリズム	26
学生発表⑥ 大阪府立大学 「地域活動演習」防災グループ 堺市南区御池台小学校区の防災活動	33
学生発表⑦ 大阪経済法科大学 BLP 特別演習 河内木綿プロジェクト 呉ゼミ 授業の一環での地域貢献活動	41
学生発表⑧ 近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 田中ゼミ 川西市黒川エリアの古民家を活用したコミュニティカフェの運営	46
学生発表⑨ 近畿大学 経営学部 キャリア・マネジメント学科&李ゼミ 「北条鉄道利用応援キャンペーンの展開」 「NPO 法人原始人会の知名度アップと環境整備」	52
学生発表⑩ 千里金蘭大学 生活科学部 児童教育学科他 キッズシティきんらん	61
学生発表⑪ 大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース 地域の魅力発見と発信、地域の皆さんのコミュニケーション作り	70
学生発表⑫ 大阪産業大学 地元のEもんAとこづくりプロジェクト デザインの力でじもとの課題を創造的に解決する	101
学生発表⑬ 大阪人間科学大学 人間科学部 医療心理学科 言語聴覚専攻 宮地ゼミ 言語発達に遅れがある子どもたちの発達援助	109
学生発表⑭ 大阪市立大学 アルティメットサークル 颯和 アルティメットを活用した地域親善大使事業	114
○当日の風景	121
○学生フォーラム企画メンバー活動の様子	122
○広報用チラシ（2種類）	125
○参加者アンケート集計	129

## はじめに

特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪  
地域連携部会

本フォーラムは、会員大学の学生が地域と関わりながら取り組む研究活動やフィールドワーク、ボランティア活動等の内容について発表し交流することを目的に年に一度開催しています。このような発表交流会を通じて、学生の地域連携に取り組む意識の高揚や自己点検を促進するとともに、地域との連携を行ううえでの配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体関係者等で共有し、会員大学の地域連携活動を醸成する機会としています。

4回目を迎える今回は、学生主体のフォーラムをテーマとして、5大学18名の有志学生が本フォーラムの企画・運営メンバーとしてミーティングを重ね、「学生による、学生のためのフォーラム」が実現しました。

また、発表については、会員42大学に公募し、エントリーのあった13大学14事業全てに発表いただきました。当日は学生による司会進行のもと、多方面におよぶ研究活動やフィールドワーク等について発表があり、学生同士による活発な意見交換と委員による講評が行われました。発表を通じて、大学の特性や地域固有の事情を踏まえたユニークな「地域連携」が体现されていることを互いに理解し、それを自らの活動に応用、工夫することにより、実のある地域連携活動への展開に繋げる契機となりました。

本事業は次年度以降も継続的に開催することとしており、発表された内容を大学コンソーシアム大阪のホームページ等で公開するなどして学生が取り組む地域連携活動を集約したデータベースを構築し、広く共有、活用するとともに、情報発信に繋がりたいと考えます。

この報告集は、14事業の発表を取りまとめたものであり、会員大学や関係各位の地域連携活動にお役立ていただければ幸いです。なお、発表交流会開催に際しまして、ご協力いただいた関係各位におかれましては、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

平成30（2018）年1月

# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2017 次 第

◆日 時：2017(平成29)年10月1日(日) 10:00-16:30

\*交流茶話会：16:30-17:30

◆会 場： 大阪国際交流センター 2階 さくら東・西

	時 間	発表大学	内 容
第1部	10:00-10:15	開会あいさつ(趣旨説明・推進委員 紹介)	
	10:15-10:35	学生発表① 関西大学 人間健康学部 安田ゼミ	KELP(関大型体験学習研究会)による地域での活動について
	10:35-10:55	学生発表② 大阪電気通信大学 地域連携プロジェクト入門	ねやファーム(寝屋川市の農家と学生を結ぶマッチングサイト)
	10:55-11:15	学生発表③ 森ノ宮医療大学 メディカルスポーツトレーナー研究会 「MST」	ジュニアスポーツ選手のサポート
	11:15-11:25	休 憩	
	11:25-11:45	学生発表④ 追手門学院大学 北摂総合研究所 「見山の郷商品開発プロジェクト」	追手門学院大学生の地域連携活動として「見山の郷の課題解決」に参加する
	11:45-12:05	学生発表⑤ 大阪経済大学 人間科学部 人間学科	スポーツツーリズム
	12:05-12:25	学生発表⑥ 大阪府立大学 「地域活動演習」防災グループ	堺市南区御池台小学校区の防災活動
	12:25-12:30	時間調整	
	12:30-13:30	昼食休憩	
第2部	13:30-13:50	学生発表⑦ 大阪経済法科大学 BLP特別演習 河内木綿プロジェクト	授業の一環での地域貢献活動
	13:50-14:10	学生発表⑧ 近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 田中ゼミ	川西市黒川エリアの古民家を活用したコミュニティカフェの運営
	14:10-14:30	学生発表⑨ 近畿大学 経営学部 キャリア・マネジメント 学科&李ゼミ	北条鉄道利用応援キャンペーンの展開 NPO法人原始人会の知名度アップと環境整備
	14:30-14:50	学生発表⑩ 千里金蘭大学 生活科学部 児童教育学科他	キッズシティきんらん
	14:50-15:00	休 憩	
第3部	15:00-15:20	学生発表⑪ 大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 表現教育 コース	地域の魅力発見と発信、地域の皆さんのコミュニケーション作り
	15:20-15:40	学生発表⑫ 大阪産業大学 地元のEもんAとこづくりプロジェクト	デザインの力でじもとの課題を創造的に解決する
	15:40-16:00	学生発表⑬ 大阪人間科学大学 人間科学部 医療心理学科 言語聴 覚専攻 宮地ゼミ	言語発達に遅れがある子どもたちの発達援助
	16:00-16:20	学生発表⑭ 大阪市立大学 アルティメットサークル 颯和	アルティメットを活用した地域親善大使事業
	16:20-16:30	推進委員からの講評・閉会あいさつ	
	16:30-17:30	交流会・茶話会	

# 発表概要

## 学生発表①

活動テーマ	KELP（関大型体験学習研究会）による地域での活動について
活動場所	堺市、田辺市
連携先	堺市、田辺市
活動主体	関西大学 人間健康学部 安田忠典准教授ゼミ

## 1. 活動概要

ゼミ活動は地域連携ではなく体験学習がテーマ。アドベンチャープログラム（AP）を軸に、互いの自己変容を支えあうための「学びの場づくり」を「体験学習のサイクル」にのせて向上させていく。今年度は、これまでの活動を受けて6つのプロジェクトを同時進行させる。13名の4回生がそれぞれのプロジェクトリーダーを務め、3回生のゼミ生、新たに創設したKELP（関大型体験学習研究会）に所属する学生（1～3回生）らが協力してプロジェクトを推進。

### ①関大・さかいECOベンチャークラブの創設プロジェクト

関西大学、堺市、田辺市の三者の相互提携に基づいて、堺市の小5～高3までの青少年を公募し、年間を通じて「堺エコロジー大学」の事業として自然体験活動を実施しようというプログラム。昨年度まで5年間にわたって継続してきた「熊野本宮子どもエコツアー」をクラブ化し、より活発な活動を実践していく。

### ②田辺市との協働による地域活性化プロジェクト

田辺市では昨年度に引き続き、同市扇ヶ浜海水浴場における海の家「KU cafe」運営。40日間におよぶ現地での合宿生活を通して、地元の皆さんと地域の課題を共有し、海の家以外の活動をも開拓。七夕祭りのスタッフ、田辺祭りへの参加、ビーチフィットネス教室の開講、ヤーヤー祭り・扇ヶ浜祭りへの参加、ビーチサッカーフェスティバルの開催など

### ③香ヶ丘地域活性化プロジェクト

キャンパスが所在する堺市堺区香ヶ丘地区の活性化を、地域住民の皆さんと推進。いわゆるシャッター商店街と化している香ヶ丘商店街に、コミュニティカフェ「ここいま」をオープン、ここと淡水魚水族館&カフェ「雑魚寝館」を拠点に、障がい者、高齢者、貧困世帯等の交流の場を創出。この夏、それらを集約した事業として「夏休み自由研究フェスティバル」と「夏だ、夜店だ、とめくパルファンストリート」を実施した。

### ④和歌山県・田辺市の「企業の森」事業への参画「関大の森」プロジェクト

田辺市本宮地区に4ヘクタールの森を管理。学生やECOベンチャークラブの活動フィールドとして、キャンプ場を開拓中。その作業を通して、地元の古老らから防災に関する記憶や知識に関する聞き書きを実施中。

### ⑤AP研修プロジェクト

おもに学内のアドベンチャープログラム用施設に、さまざまな外部の団体を招き、学生のファシリテーションによってAP研修を行う。

大阪市教員、堺市中堅（8-10年目）教員、特別養護老人ホームハートピア堺、NPO 法人み・らいず、堺市内の全児童養護施設、摂津市子ども会、母子支援施設南さくら園、英名高校サッカー部など。

#### ⑥ KELP（関大型体験学習研究会）プロジェクト

上記のプロジェクトはこれまでゼミ活動を通して開拓してきたものであるが、これらのプロジェクトへゼミ学生以外の学部生を参加可能とするために研究会を創設。ここで、ゼミ学生によるアドベンチャープログラム研修を受けた学生は、地域活動に参画することができるようになる。また、学内の活性化のために、KU café を学内でも週4日間営業している。これは地域住民の方々にもご利用いただいている。

## 2. 年間計画

<p>4月 ECO ベンチャークラブ第1回 KELP カフェ KELP トレーニング</p> <p>5月 熊野田植え 水辺の楽校（ECO ベンチャークラブ第2回） 3回生 AP 研修 熊野合宿 ハートピア釣り大会 KELP カフェ KELP トレーニング</p> <p>6月 堺キャンパス祭 ECO ベンチャークラブ第3回 摂津市 AP 南さくら園 AP ハートピア職員 AP 堺市教員センター AP 水上安全法講習会 KELP カフェ KELP トレーニング</p> <p>7月 海の家 七夕まつり 田辺祭り ECO ベンチャークラブ第4回 KELP カフェ KELP トレーニング</p>	<p>8月 海の家 自由研究フェスティバル パルファンコリース祭り 大阪市教員 AP 英明高校 AP ヤーヤー祭り エコツアー 扇ヶ浜祭り 田辺市役所秀麗会 ビーチフィットネス ビーチサッカーフェスティバル ECO ベンチャークラブ第5回</p> <p>9月 堺市商工会議所とのワークショップ こどもエコツアー振り返り会 関大の森開拓団</p> <p>10月 堺市児童養護施設 AP 研修（4週連続） ECO ベンチャークラブ第6回 関大の森開拓団</p> <p>11月、12月 関大の森開拓団</p> <p>1月 ECO ベンチャークラブ第7回 関大の森開拓団</p> <p>2月 関大の森開拓団</p> <p>3月 ECO ベンチャークラブ第8回、 関大の森開拓団</p>
--	--

### 3. 活動成果

最大の成果は、学外のさまざまなコミュニティに学生が参画し、ともに暮らすことがはじまっている点である。もちろんそれは、わたしたち学生にとっては学びの場でもあり、多様な人々とともに生きる場でもある。体験学習がその目的とする「フルバリュー」すなわちすべての人々に居場所がある場づくり、の具体的な体験を重ねることができる人生の道場が徐々に充実してきた。

一方で、それは地域の側から見れば、過疎、高齢化、環境、文化や行事の衰退といったコミュニティの危機に対する、新しい提案となっている。学生との協働は、間違いなく地域の活性化に対して多くのヒントをもたらしている。

昨年度、最終的には内閣特命大臣表彰、堺市長環境表彰、学長特別表彰、学部卒業研究優秀賞を受賞。各方面から活動への評価が高まってきている。

### 4. 地域からの評価

一言で示すなら「信頼」  
楽しい場が拡張していくことに、とくに地域の中堅から若手が盛り上がってくれている。

### 5. 参考 WEB サイト

Facebook ページ「関西大学人間健康学部安田ゼミ」  
[http://www.kansai-u.ac.jp/Fc\\_hw/index.html/](http://www.kansai-u.ac.jp/Fc_hw/index.html/)

### 6. 活動メンバー

関西大学人間健康学部

4 回生 上村翔也、大谷璃央、帯山桜、木原加南子、小林真希、瀧川充紀、竹本壮志、堂岡央丞、日野正嗣、藤井貫太郎、松田拓也、宮川里菜、矢本桜子

3 回生 安達聡太、安東翼、植田進太郎、岡部紘大、神崎愛永、神田祐樹、喜多彩友美、澤田晃誓、高橋美南、田中美紗緒、徳原秀光、中井健士郎、中尾有希、中澤行俊、長尾秀樹、西浦玲、野田紬、萩寄佑樹、藤川彩帆里、藤田寛太、前川和輝、松本ほのか、水野柊、森智治、吉村優希

### 7. 担当教員

関西大学人間健康学部 准教授 安田忠典

### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	関西大学
所属先・職名	人間健康学部 人間健康学科 4 回生
氏 名	瀧川充紀
連絡先	電 話 080-4482-1133
	メー ル atsuki.workout.1030@gmail.com



## KELP（関大型体験学習研究会）による 地域での活動について

関西大学 人間健康学部 安田忠典准教授ゼミ

### 2017年度の活動

これまでゼミ活動を通して開拓してきた地域連携活動を、学部全体に開放するためKELP（関大型体験学習研究会）を創設。  
KELPで定めるAP研修を受講した学生は各プロジェクトに参加可能に。

#### 【堺市での活動】

大和川水辺の楽校  
香ヶ丘商店街夏祭り  
自由研究フェスティバル

#### 【田辺市での活動】

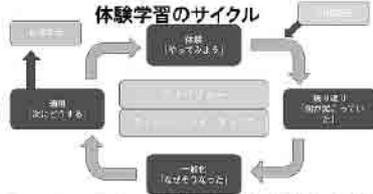
KU cafe at 扇ヶ浜の経営  
「関西大学の森」（和歌山県 企業の森事業）の整備

#### 【堺市・田辺市・関大の連携活動】

関大・さかいECOベンチャークラブの創設

### 関大型体験学習とは

アメリカで開発されたAP(アドベンチャープログラム)という教育手法(グループによる冒険的な活動を通して参加者の自ら変容を促す)に、日本文化のエッセンスを加えて改良した関大独自の手法。  
「体験学習のサイクル」「フルバリュー」「チャレンジ・バイ・チョイス」などの理念に基づいて「みんなに距離感がある場づくり」を目標とする。学内でのトレーニングを経て、地域社会で生の経験を積むという流れ。



※ フルバリュー：「お互いの価値観を尊重しよう」という関大APの活動目標  
※ チャレンジ・バイ・チョイス：参加者は特設への選択の自由が保証される

### 堺市での活動①

#### 大和川水辺の楽校

キャンパス近郊の大和川での自然体験プログラム。近隣の自治会や教育機関、民間企業などが力を合わせて住民主導で運営している全国でも稀な全世代参加型の地域活動。



**水辺の楽校**  
共催：安しんやさかい、宇治の森協議会（国土交通省近畿地方整備局大和川河川事務所、川川管理センター）、大和川水辺の自然体験会（市民団体）、大和川河川環境協議会（市民団体）、堺市教育委員会、堺市環境（水環境）事務局、関大  
関大：KELP  
近畿山形県自治体協議会（新井第一助也、新井第二助也、ニュー森第一助也、ニュー森第二助也、ニュー森第三助也、森山住孝、クラン・アブニュー、新井助也）

#### 香ヶ丘商店街祭り



堺キャンパス近郊にある香ヶ丘商店街は現在シャッター商店街。  
一商店街を盛り上げるために、普開催されていた夏祭りを拡大させ地域のみなさんと共に復興させた。

### 堺市での活動②

#### 自由研究フェスティバル

「家庭の事情により夏休みの宿題である絵日記を書けない子どもの存在」

そういった子ども達に楽しい経験をしてもらい思い出の場として開催

**学**のブース  
画いマパワット、布衣紙体験、教科プリント、紙飛行機作りetc.

**遊**のブース  
ガレー、持ち運びがし、アイス、から揚げetc.

**食**のブース  
ブル、アムステルダム、お肉、ドッグボール、アイスブレッキングetc.

### 田辺市での活動①

#### KU cafeの経営

主催者：関西大学人間健康学部・堺キャンパス 体験学習研究室（安田准教授ゼミ3・4年生、KELPメンバー1・2年生）  
経営者：南紀みらい株式会社  
授業者：田辺観光協会



去年好評であったハワイアンキチーフ

変更点  
・外壁の塗り替え  
・メニューの追加（ホットドッグ等の軽食類）



### 田辺市での活動②

#### <新たな試み>

イベントの主催

・ビーチサッカーフェスティバル2017  
参加者：田辺市、大阪市などから

・ビーチフィットネス  
参加者：地元の高齢者



### 田辺市での活動③

#### <成果>

地元の祭りへの参加

田辺祭り、マーマー祭り、扇ヶ浜祭り

今年新たに

#### 七夕祭り



一関係の深まりから祭りへの参加が増えた

### 田辺市での活動④ <地域からの評価>

**南紀みらい株式会社**

- ・若者が運営することで、海水浴場に「明るさ」と「活気」が生まれた
- ・隣の海の家の和歌山大学が運営していることも相乗効果
- ・地元の新聞にも取り上げられ宣伝された
- ・2年目ということでイベント開催などの新しいチャレンジをしてくれた
- ・来年は、3年目ということでマンネリ化も考えられるが新しいアレンジを加えてほしい

**田辺観光協会**

- ・ハワイアンテイストで今までの海の家にないメニューを提供している
- ・イベントでは学部の特徴を出してくれていた
- ・若者の海離れが進む中、海に入らずとも海に近さを運んでくれる仕掛けを学生のスキル活かした形でやっている
- ・大学生が海の家を運営することで今までにない活気生まれ新しい取り組みが増えた
- ・大学生が運営していることでメディアへの露出が多く巨収効果に繋がっている

### 堺市・田辺市・関大連携事業① 堺エコロジー大学設立の経緯

2009年1月 堺市の環境問題への取り組みが政府から認められ、環境モデル都市に認定される。

2009年3月 低炭素都市「クールシティ・堺」の実現を目指す決意を宣言。

2010年 「クールシティ・堺」の実現を目指す具体的な取り組みの一つとして、産学民官の連携による新たな環境教育、人材育成の事業「堺エコロジー大学」を設立。

### 堺市・田辺市・関大連携事業② 関大・さかいエコベンチャークラブ

APをベースに年間8回の自然体験活動を行う。愉快でスリリングなアウトドア活動の環境学習プログラム

**年間プログラム**

4/16	AP体験
5/6	大瀬川水辺の楽遊
6/4	季節祭
7/29-30	大橋キャンブ
8/26-27	八咫の火祭り
— ここまで終了 —	
10/29	根張釣り体験
12/27-28	仙人風呂キャンプ
3月上旬	閉校式

過去5年にわたり堺エコロジー大学の環境事業の一つとして、堺市・田辺市・関西大学の三者連携を基に行われていた「関西本谷子どもエコツアー」を軸に完成。

### 堺市・田辺市・関大連携事業③ 私たちが考える環境教育

- ・環境問題を考えるにあたって必要なことは、環境に関する知識だけではない。
- ・APの考え方に基づいたECOベンチャークラブの活動を通して、平等に意見を言い合い、お互いを認め合える関係をつくり、自主的に考えて動く態度などが身につく。

↓

これからの環境問題に対してもこうした「フルバリュー」な場をつくり、話し合い、自主的に考えて行動できる人材を育成。

→持続可能な環境共生都市の実現 = 地域連携

### まとめ① KELP版 笑顔の体験学習サイクル

今年、実際にさまざまなチャレンジをすることでこのサイクルがより深まり、活動は活発、多くのコミュニティに参加することができた。

### まとめ②

これまでかわりを結んできた多くの地域が抱える少子高齢化や人口流出といった「縮小」に向かう問題に対して、私たちは関大型体験学習法という「拡張型」の学びの技法を用いた「さらなるチャレンジ」を繰り返し実践した。

それによって、各プロジェクトにおいて活動が拡張し「次に何をやるか」という話し合いが途切れることなく続いている。

また、私たち自身も、体験学習を基盤としてのグループ活動を通して、常に前向きに、楽しんで活動することができるチーム（コミュニティ）をつくることができました。

## 学生発表②

活動テーマ	ねやファーム（寝屋川市の農家と学生を結ぶマッチングサイト）
活動場所	大阪府寝屋川市初町18-8 大阪電気通信大学 F号館2階ラーニングスペース
連携先	JA 北河内豊野支店様、同JA 所属農家様、大阪電気通信大学
活動主体	大阪電気通信大学 地域連携プロジェクト入門

### 1. 活動概要

本ビジネスプランは農家には、農業を体験したい学生を提供し、学生には、農業を体験する場を提供するプランです。農家と学生をつなぐ場（Web ※資料1 やイベント開催）を提供し地域活性化や後継者不足を解決する役割を果たします。学生参加者の月会費（1000円）と Web ページの広告収入を予定しています。

### 2. 年間計画

- 4月
- 5月 定例会議
- 6月 定例会議、サークル「ねやファーム」の設立。
- 7月 定例会議。
- 8月 定例会議、ビジネスにおける調査。
- 9月 定例会議、マッチングサイトの開設。
- 10月 定例会議、宣伝・PR 方法の検討、地域連携フォーラム in 大阪への参加。
- 11月 定例会議、宣伝・PR、イベント（農業まつり・学祭）に参加。
- 12月 ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテストへの報告準備。
- 1月 ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテストへの報告。
- 2月 定例会議、本年度の総括と今後の方針の検討。
- 3月 定例会議、次のステップに向けて活動を開始する。

### 3. 活動成果

- 本プロジェクトは現在進行中であるため、現時点での成果として
- ワガヤネヤガワベンチャービジネスコンテスト2016 グランプリ（「農業部門」同時受賞）
  - 農家様との提携
  - JA 豊野北河内様との提携
  - 広報活動を目的とした、サークル「ねやファーム」の設立
  - 他大学への取材
  - 大学祭への出展
  - 寝屋川市主催の農業イベント寝屋川農業祭りへの参加

### 4. 地域からの評価

--

## 5. 参考 WEB サイト

寝屋川市 ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト2016

[http://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization\\_list/shimin\\_seikatu/sangyoshinkoshitsu/vbc/contest\\_past/1499912837451.html](http://www.city.neyagawa.osaka.jp/organization_list/shimin_seikatu/sangyoshinkoshitsu/vbc/contest_past/1499912837451.html)

大阪電気通信大学 新着情報2017.01.25「ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト2016」において、グランプリ（「農業部門賞」同時受賞）と「協働部門賞」を受賞しました

<http://www.osakac.ac.jp/news/2017/1042>

SankeiBiz 学生のビジネスプランを募集する「ワガヤネヤガワ・ベンチャービジネスコンテスト2016」でグランプリと部門賞を受賞—大阪電気通信大学

<http://www.sankeibiz.jp/business/news/170128/pr11701280913003-n1.htm>

## 6. 活動メンバー

工学部 環境科学科 3年 小島拓人、清水和樹、清水奎佑

工学部 基礎理工学科 3年 廣田大地、鍋島史也、中島裕介

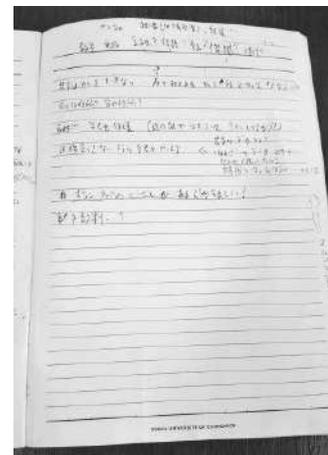
## 7. 担当教員

工学部環境科学科 教授 川口雅之

## 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪電気通信大学	
所属先・職名	大学事務局 研究支援室	
氏 名	荻野純哉	
連絡先	電 話	072-820-3827
	メー ル	ken-shien@osakac.ac.jp

## 9. 活動の様子



# 「ねやファーム」

## 寝屋川市の農家と学生を結ぶマッチングサイト

コンソーシアム大阪2017/10/1  
発表者：大阪電気通信大学  
小島、鍋島、廣田、清水

寝屋川市ワガヤネヤガワベンチャービジネスコンテスト補助金助成事業

## 2 「ねやファーム」とは？

**設立目的**  
学生と農家をマッチングするサイト  
・学生には農業を身近に感じて、農業への参加の興味をもって貰う  
・農家には若者の興味を応援して貰い  
・将来に農業を繋げる事を目的としたサイト

**設立のきっかけ**  
・企画者が農業高校の出身で農家が居る問題を身近に感じていた、何かしたいと思った。

**活動の目標**  
・第一歩として100人のサイト登録者を目指し  
・学生の農業への体験機会を作っていく。



## 3 「ねやファーム」のなりたち

**農業高校時代**  
・農業高校でも「農業がしたい学生」という生徒が少ないという現状  
・野菜を年間を通して育てる授業を受けて野菜を育てる楽しさを  
もっと広めたいと思った。

**大学入学〜コンテスト応募まで**  
・「地域連携プロジェクト入門」という授業でグランプリ受賞を目標に研究  
・地域の農家さんや学生にインタビューを行った結果グランプリ受賞

**現在まで**  
・今年4月から本格的に活動し、9月にはマッチングサイトを開設



## 4 「ねやファーム」の完成までの歩み

**2017年 歩み**

1月	ワガヤネヤガワベンチャービジネスコンテスト グランプリ発表会2016 農業部門賞、グランプリ受賞
4月	メンバーの新加入、 JA北河内様と同JA所属農家様との提携開始
8月	寝屋川市からの補助金支給開始
9月	マッチングサイトの開設（運用開始）



## 「ねやファーム」の選考評価

ワガヤネヤガワベンチャービジネスコンテスト最終審査コメント（抜粋）

- 「農家の後継者不足は深刻で増大中、若年層との受け継ぎになりうるプランと兼業、農家と若者の双方に有益で生産性にも期待できる。」
- 「社会問題の一つを着眼点にしている」
- 「学生と農家をつなぐ場を学生の側から提案しており、SNSや学園祭の利用など積極的に進めている」
- 「国や地域の課題を良く把握している」



## 6 今の農業の問題への橋渡し

**サイト参加者視点**  
それぞれの問題点  
・学生は「農業はしんどい、大変、儲からない」というイメージ  
・農家さんは「高齢化、過疎化、後継者がいない」という現実

**このままだと**  
・今後10年で更に深刻になり、農業と言う大切な産業の継続が見込めない

**これらを変えるには**

- ・イメージの改善
- ・受け入れ態勢の構築
- ・実際の作業の改善

➔

- ・農業参加機会の創出
- ・参加への窓口
- ・将来に向けての研究

## 7 マッチング方法

**参加者登録**  
・農家さんと学生に登録してもらい  
(権利などの収穫体験などを通じて実際に働いてもらう機会を提供)

**参加登録方法**  
・農家さんとは、既に契約を実施済  
・学生は登録フォームから登録、SNSのアカウントを利用して登録もできる。  
(希望する体験を登録すれば実施案内を受け取る事ができる。)

**参加方法**  
・サイト内に設置された予約フォームから日時を選択し登録  
→希望がマッチングしたら参加案内を送信

## 「ねやファーム」の仕組み

申請・参加

学生 ↔ サイト管理運営 ↔ 農家さん

学生側：規格外の野菜を預える  
自分のスキルアップ  
農業を体験して貰う

農家さん側：労働力のお手強い  
将来の就業者増加

サイト管理運営：イベントや企画を開催

農家のこづからを  
ずっと考え、応援する

9 「ねやファーム」のこだわり1

「聞く」から始まるマッチングサイト作り

- ・ねやファーム開発にあたりこだわったのは、「聞く」という事でした。
- ・寝屋川市の農家さんにとって欲しい物や希望は、検索しても出てきません。
- ・そこでJAや農家さん本何人も訪ねて直接インタビューを行うことにより農家さんの生の希望などを得ることができました。
- ・また学生にも農業のイメージや農業に興味があるかどうかを確かめるためのインタビューを何回も行い知りたい情報を確認し

マッチングサイトを作る際の、ウェブデザインやコンテンツの改良などに反映してきました。こうした生の声を「聞く」ことにより、ねやファームは誕生し、これからも進化していきます。

**立地**

- ・大阪市内から約40分という近い場所で農業体験ができる
- ・本大学からは歩いて5分で体験できる場所もある

地域のメリットを有効に活用しアピールする。

10 「ねやファーム」のこだわり2

「見る」への簡単さ

- ・インターネット上で、確認や予約できる仕組みにすることでより馴染みやすいスマホによる利用拡大を目指す。
- ・TwitterなどのSNSアカウントを用いたログインで会員登録の手間を省略
- ・コース別に分けることにより希望に合った体験ができる
- ・好きな日時、時間で予約できる仕組みの導入

学生

農家

11 「ねやファーム」の活用例

**学生**

- ・ある学生がワカヤネヤガワベンチャービジネスコンテストの応募に必要な実験をする際に必要意図を提供してくれる農家さんの紹介
- ・今まで農業に興味はあったが電話の音さを感じていた学生に農業体験に参加できる機会の提供を実現

**地域**

- ・本大学職員の方で「大学祭で地元産の野菜を販売してほしい」という要望があり、野菜の提供をしてくださる農家さんの手配と朝市出展協力など実施

12 「ねやファーム」今後の活動予定

<<外部への情報発信として>>

- コンソーシアム大阪参加
- 他大学との交流（先行事例調査）
- 大阪電気通信大学祭 大学祭イベント参加（朝市の出展協力）
- 寝屋川農業祭り（マッチングサイトの宣伝）
- ワカヤネヤガワベンチャービジネスコンテスト2017 中間報告

<<運営面>>

- マッチングサイトのシステム改善
- JA様との関わりによる情報共有化

13 「ねやファーム」大学祭出展

<<展示>>

- 活動の紹介や、寝屋川市の農業の現状
- 本活動の宣伝
- 学生に農業について興味を持ってもらう

<<販売>>

- 農家さんや本学とコラボした、朝市の出展
- 地元産野菜のおいしさのアピール
- 寝屋川で農業をやっていることのアピール




14 「ねやファーム」今後の目標

<<運営上の目標>>

- 第一目標として学生参加者の登録を100人
- 学生に魅力を感じてもらえるプラン作りの開発
- より親しんでもらうためのアプリ開発

<<将来の目標>>

- 企業や大学等とコラボした、作業機器や農業プランの開発
- 機器のリース
- 野菜の販売ルートの提案



15

ご清聴ありがとうございました。

ねやファーム  
(<http://neyafarm.com>)



**学生発表③**

活動テーマ	ジュニアスポーツ選手のサポート
活動場所	舞洲スポーツアイランド、大和高原ボスコヴィラなど
連携先	森ノ宮医療大学
活動主体	森ノ宮医療大学 メディカルスポーツトレーナー研究会「MST」

**1. 活動概要**

主にジュニア世代のスポーツ現場にトレーナーブースを設置し、選手のサポートをしています。現場では固定や筋肉サポートに対するテーピング、外傷や熱中症などに対する応急処置、ストレッチを講座という形で「なぜストレッチをしなくてはならないのか」「このストレッチではどこの筋肉が伸びるのか」などの話も交えながらチームに指導させて頂いています。スポーツには怪我は付きもので完全に失くすことはできません。しかし少しでも怪我を少なくする、怪我をしてしまった場合は迅速な処置を行いできるだけ早く現場復帰できるようにすることは可能です。現在日本は2020年の東京オリンピックに向けてスポーツ界が盛り上がっている状態です。今のジュニア世代は2020年以降の日本スポーツ界の盛り上がりを維持・向上していくのに重要な世代となります。一人でも多くの選手が楽しくそして最高のパフォーマンスができるように私たちはサポートしています。

**2. 年間計画**

平成29年度年間活動計画

**【活動現場】**

- 5月：森ノ宮サッカーフェスティバル トレーナーブース
- 6月：ボスコヴィラアカデミーセレクション トレーナーブース
- 7月：森ノ宮U-15 SUMMER FESTA トレーナーブース  
ボスコヴィラ 高校サッカー交流戦 トレーナーブース
- 8月：南港北中学校 テーピング講座・トレーナー派遣  
鉢伏合宿（高校陸上競技長距離ブロック）トレーナー派遣
- 9月：奈良県連少年スケートボード大会 トレーナーブース  
森ノ宮サッカーフェスティバル トレーナーブース
- 11月：森ノ宮サッカーフェスティバル トレーナーブース
- 12月：ボスコヴィラ高校サッカー交流戦 トレーナーブース  
1年生スチューデントトレーナー認定試験
- 2月：森ノ宮カップ U-12 トレーナーブース  
ボスコヴィラアカデミーセレクション トレーナーブース
- 3月：春季高校 ボスコヴィラ サッカー交流戦 トレーナーブース  
1・2年生赤十字救急法救急員認定試験

**【勉強会】**

- 1年生：毎週水曜日（90分）
- 2・3年生：毎週木曜日（90分）
- 全学年：毎週金曜日（180分）

### 3. 活動成果

様々な現場でテーピングやストレッチなどを選手または保護者、監督にさせて頂くことにより「今度うちのチームにも来てほしい」というお言葉を貰う機会が増えました。これは選手が少しでも良い環境で練習や試合をさせたいとい監督などの意向だと考えられます。「体が軽くなった」「痛めた足が痛くなくなった」などのお言葉も頂くことも増え、少しずつではありますが楽しく良いパフォーマンスができる選手が増えていると考えられます。実際大学近隣の中学校からトレーナー派遣の依頼を頂いて、選手のサポートをさせて頂いています。そこでしっかりサポートさせて頂くことによりチームが試合などで良い結果を残せば中学校内でのスポーツは盛り上がります。中学校が盛り上がればその地域も盛り上がります。これからも中学校やスポーツ大会との連携を深め、地域だけに止まらず日本のスポーツ界の盛り上がりを維持・向上させていきます。

### 4. 地域からの評価

森ノ宮医療大学が主催する少年サッカー大会は、健全なサッカー少年の育成と同年代選手の交流を目的としており、本会の目的と一致しております。また、スポーツで生じる怪我を予防するため、大会中に選手の体のケアや予防法の指導を行っていることは、地域活動に大きく貢献していると考えます。本会は大会期間中に必要となるスポーツ飲料の提供などを通じて、今後も活動を支援していきます。

大阪咲洲ロータリークラブ会長 小林和油

### 5. 参考WEBサイト

メディカルスポーツトレーナー研究会 MST Facebook  
<https://www.facebook.com/morinomiya.mst/>

### 6. 活動メンバー

鍼灸学科 3年：石田涼太郎、治部力哉  
鍼灸学科 2年：和田有稀奈、小林春輝、清水美月、原田大吾、楠健太郎、吉田遙、豊田将吾  
理学療法学科 2年：藪田孝明、高地希実

### 7. 担当教員

鍋田智之、高崎雷太、高橋秀郎

### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	森ノ宮医療大学	
所属先・職名	保健医療学部 鍼灸学科 3年	
氏 名	石田涼太郎	
連絡先	電 話	080-3847-7481
	メー ル	morinomiya.mst@gmail.com

9. 活動の様子

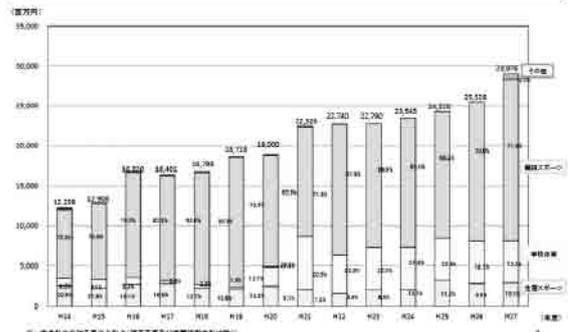




## ジュニアスポーツ選手のサポート ～未来のアスリート～

文部科学省における競技スポーツ・学校体育・生涯スポーツ関係予算の推移

○平成27年度予算案では約290億円であり、近年では増加傾向である。  
□競技スポーツ関連予算が大きな比重を占めている。



文部科学省における競技スポーツ・学校体育・生涯スポーツ関係予算の推移より

### オリンピック後の経済成長率

開催都市 (国)	前年度の成長率	開催都市の成長率	翌年の成長率
ソウル (韓国88年)	12.2	11.6	6.7
バルセロナ (米国96年)	2.5	0.8	-1.3
アトランタ (米国96年)	2.7	3.7	4.4
シドニー (豪州00年)	10.7	8.8	4.5
アテネ (ギリシャ04年)	5.9	4.3	2.2
北京 (中国08年)	14.2	9.6	9.2
ロンドン (米国12年)	1.1	0.2	1.7

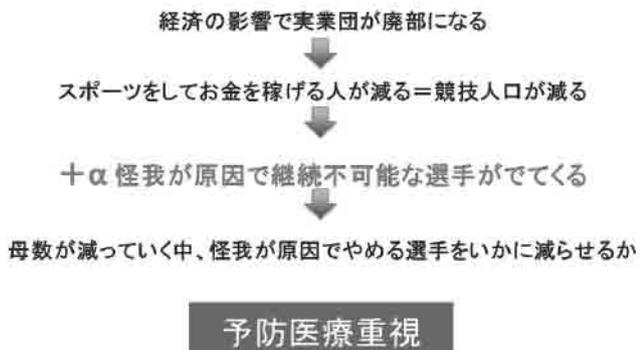
※一部を除いてオリンピック開催後の成長率の低下が起こる

### 2020年以降

日本スポーツ界の  
経済が低下する可能性がある。



### 予測



### 予測

現在の日本は少子高齢化社会

必然的に競技人口も  
減少することが考えられる



## MST

### メディカルスポーツトレーナー研究会

# M S T

#### 【メンバー】

鍼灸学科 3年 石田涼太郎、治部力哉  
2年 和田有稀奈、小林春輝、清水美月、原田大吾、楠健太郎、  
吉田遥、豊田将吾

理学療法学科 2年 飯田幸明、高地希実

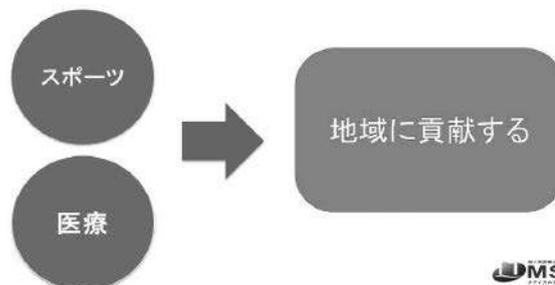
#### 【活動日】

1年生：水曜日(90分)  
2,3年生：木曜日(90分)  
全学年：金曜日(120分)



## 目的

- ・学内で学習したことを学外で実践し知識・技術の向上
- ・選手が抱える問題点の解消(怪我・コンディショニングなど)
- ・怪我への意識付け→選手生命の延長



## 主な活動現場

- ・ 森ノ宮サッカーフェスティバル
- ・ 森ノ宮U-15 SUMMER FESTA
- ・ ポスコヴィラアカデミーセレクション
- ・ ポスコヴィラ 高校サッカー交流戦
- ・ 奈良県連少年スケートボード大会
- ・ JPFF(日本プライベートフットボール協会)
- ・ 南港北中学校 女子バスケットボール部

MSTとしての現場だけでなく、  
個々がそれぞれの現場で活動中



## 活動内容

### 応急処置



### スポーツドリンクの提供



### 選手・保護者・指導者への講



### 選手の要望に応える



## 私たちにできること

地域と連携し、  
ジュニア選手のサポートを行うこと



## 地域連携 I



## 森ノ宮カップ

### U-12大会

(2017.2.11~12)



### U-15大会

(2017.7.10)



#### U-12 参加チーム

HAVANT! KANSAI FC  
 阿倍野FC  
 FC FELLOW  
 北野FC  
 東賢キティドル  
 シリウスFC  
 栄正FC  
 福野FC  
 NAGASAKA FC  
 南港サウスマンFC  
 フレンドFC  
 FC REGATE 三宮  
 宇都利シユコガ坂  
 FC法成  
 大塚FC  
 コスモス泉南  
 豊田FC  
 シュエーゴイFC  
 鶴平FC  
 FC DMK BOY  
 奈良スクワットFC  
 富田神火山FC  
 櫻井FC  
 レボナ遊覧

#### U-15 トーナメント表



## トレーナーブースの設置



スポーツマッサージ

ストレッチ

テーピング



## ストレッチ講座



正直ストレッチはマンネリ化しやすい...  
だからこそストレッチの重要性を伝えています。



## 怪我の対処法の説明

### オスグッドについての説明



### テーピング指導



怪我への意識を持ってもらう  
怪我をせず、長くスポーツができる



## 地域連携 II

### ストレッチ・テーピング講座 ～より良い環境で部活動を！～



大阪市立  
南港北中学校

## 中学生に向けたテーピング・ストレッチ指導



### 当日のスケジュール

- ①ケガの起こりやすい環境
- ②テーピングの特性
- ③テーピング実習
- ④テーピングの応用
- ⑤ストレッチの重要性



## 中学生に向けたテーピング・ストレッチ指導

巻き方の指導  
(インプット)



生徒同士で巻きあう  
(アウトプット)



## チームトレーナーへ

練習前後の  
コンディショニング



大会に帯同



## 選手の声

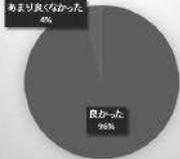
ストレッチ講座前、  
自宅でストレッチをしていましたか？



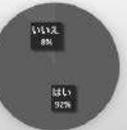
ストレッチ講座を受けてストレッチ  
に対する意識が変わりましたか？



トレーナーブースで受けてどうだったか？



今後も大会などにトレーナーブース  
があればいいと思いますか？



## MSTの活動で選手に変化を！！

コンディショニングの意識を変える  
選手の可能性を最大限広げる  
高いレベルでプレーする喜びを与える



ケガの防止、選手生命伸ばす  
能力の向上、自信がつく  
競技の継続、次のステージへ



ケガや伸び悩みが原因で  
プレイヤーを断念する選手を減らす



## 2020年以降に向けて

東京オリンピック・パラリンピック以降も・・・

スポーツを盛り上げていく



未来のスポーツ界を担う  
ジュニア選手の育成が重要



## 2020年以降に向けて

ジュニア選手を全力でサポート

ケガの防止

選手生命  
伸ばす

競技の継続



コンディショ  
ニング

パフォーマンス  
向上



ご清聴ありがとうございました



学生発表④

活動テーマ	追手門学院大学生の地域連携活動として「見山の郷の課題解決」に参加する
活動場所	茨木市 見山地域 他
連携先	農事組合法人 見山の郷 交流施設組合
活動主体	追手門学院大学 北摂総合研究所「見山の郷商品開発プロジェクト」

### 1. 活動概要

見山の郷商品開発プロジェクト（略称：MSP）は、追手門学院大学生の地域連携活動として、「参加学生へのマネジメント学習機会の提供」と「見山の郷の課題解決」を目的としている。農事組合法人 見山の郷の目的は、「都市と農村の交流の場を作ること」、「新鮮な商品（野菜・加工品）を販売すること」、「安心・安全・地産地消の実現」である。しかし、「構成員の高齢化」、「競合の直売所の出現」という課題を抱えている。MSPは、その課題を学生主体のプロジェクトを通して解決することに挑んでいる。具体的な活動内容として、第1期（2013年度）：現地調査活動、第2期（2014年度）：商品開発「おうてもん赤しそ塩あんぱん」、第3期（2015年度）：商品開発「見山ジュレ」、第4期（2016年度）：「見山ジュレ」の販売促進、現在、第5期（2017年度）として新商品の開発を実施中である。

### 2. 年間計画

本年度は、見山の郷側から「若者をターゲットとした飲食スペースで提供するメニュー開発」の要望があった。そこで、学生メンバーで案を出し合い、若者に人気の「パンケーキ」を開発することに決定した。見山産の米粉を主に使用し、特産品である赤しそ等を混ぜ込む案が進んでいる。見山の郷のキャラクター「ほっこりさん」の焼き印を押し、差別化と見山の郷の知名度向上を狙う。

5月18日（木） 見山の郷へのプレゼンテーション

7月19日（水） 見山の郷担当者と新商品開発打ち合わせ会議

8月中 米粉パンケーキ試作

10月7日（土） 見山の郷収穫祭 参加予定

11月4日（土）・5日（日） 追手門学院大学大学祭「将軍山祭」にて試験販売予定

12月～翌年1月 報告書作成・次年度に引き継ぎ

### 3. 活動成果

MSP第1期は、調査・研究を活動の中心として進めた。追手門学院大学主催の「北摂セミナー」ならびに、はなやか関西主催「関西の食文化シンポジウム」にて研究発表を行った。第2期は、見山の郷の六次産業化推進を図るために、見山の郷の特産品を使用した商品開発を開始。学生が考案し、米粉・赤しそ・小豆を使用した「おうてもん赤しそ塩あんぱん」の配布活動を実施した。また、見山の郷での「収穫祭」に参加した。その後、見山の郷の定番商品となり、現在も販売中である。第3期は、「おうてもん赤しそ塩あんぱん」の販売によりMSPの商品企画能力が認められ、茨木市産学連携スタートアップ支援補助金を獲得した。これにより、「見山ジュレ」の開発を行った。「見山ジュレ」は若者・ファミリー層にターゲットを向けた六次産業商品の開発をコンセプトに、赤しそ味・ゆず味の2種類を作成した。第4期では、「見山ジュレ」の販売促進・販路開拓をおこない、これも見山の郷の定番商品となっている。

#### 4. 地域からの評価

第2期以降、「見山の郷 収穫祭」ではMSPが子供向けクイズ大会を担当するなど、信頼を得て連携を密にしている。見山の郷の特産品に関する食育クイズを考案し、地元野菜への興味関心の向上に努めている。このような活動を通じて、地域との「架け橋」となり、「街づくり」や「製品開発」に挑戦している。第3期では、「見山ジュレ」の開発を企画し、茨木市産学連携スタートアップ支援事業に採択され、本格的に商品企画を実施した。「見山ジュレ」は見山の郷でも販売されており、特に若い層に人気が高い。

社会からの評価としては複数のマスコミに取り上げられている（『朝日ファミリー』2015年8月28日号、茨木市JA広報誌『Primmavera』2015年10月号、『日本経済新聞』2015年10月8日号）。これらは、MSPの活動の紹介であるが、同時に見山の郷の知名度向上にも貢献していると考えられる。

また、茨木市主催の「学生リサーチプログラム」に参加し、「いばきた（＝茨木市北部地域）」のフィールドワークをおこない、「いばきた」を10倍楽しむ方法をテーマに地域住民に向けてプレゼンテーションをおこない、一定の評価を受けた。

#### 5. 参考WEBサイト

「見山の郷ホームページ：見山の郷×大学生」 [http://miyamanosato.com/?page\\_id=105](http://miyamanosato.com/?page_id=105)  
「追手門学院大学 村上喜郁ゼミ Facebook」 <https://www.facebook.com/467437760003413/>

#### 6. 活動メンバー

リーダー：大野順也、サブリーダー（パンケーキ担当）：中嶋いずみ、サブリーダー（顔出しボード担当）：西岡咲稀、サブリーダー（イベント担当）：片岡芳朋、（研究発表担当）藤本優子  
メンバー：浅蔭詩織、大谷玲央菜、小倉彩、北村志保、椎畑萌、重光竜樹、福嶋なつみ、八ツ本稔（以上、3回生）、川野里紗、田山友理絵、島田直美、山下大輝、山田大貴、近澤憲人、木村駿、藤井優樹、西本翔太、川井脩平（以上、2回生）

#### 7. 担当教員

追手門学院大学 経営学部 准教授 村上喜郁

#### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	追手門学院大学	
所属先・職名	経営学部 マーケティング学科 3回生	
氏 名	藤本優子	
連絡先	電 話	090-7871-4007
	メー ル	fujitsubo.newmeron@docomo.ne.jp

## 9. 活動の様子



見山の郷での会議



イオンでの「見山ジュレ」販売



見山の郷見学会

**M** 見山の郷  
**S** 商品開発  
**P** プロジェクト  
**MSP**

しんどいけれど  
 面白いことがしたい  
**第5期メンバー募集中**

MSPは、農事組合法人見山の郷と追手門学院大学のコラボ・プロジェクトです。一昨年・去年の活動で「見山ジュレ」の開発・販売を行いました。今年度は新商品の開発を行う予定です。金曜日の昼休みを中心に、課外活動も行います。

**説明会**  
**4月28日(金)昼休み○○教室**

今期のMSPメンバー募集チラシ

# 見山の郷 商品開発 プロジェクト



de愛・ほっこり  
見山の郷 × 追手門学院大学  
MI YAMA NO SATO

## 目次

MSPとは …【1】	社会からの評価 …【18】
見山の郷の概要 …【2】	MSPの成果 …【19】
見山の郷の目的 …【3】	今後のMSPの課題 …【20】
見山の郷が抱える課題 …【5】	まとめ …【21】
MSPの組織図 …【8】	プロジェクトメンバー …【22】
MSPの活動内容 …【9】	

## MSP とは

# 見山の郷 商品開発 プロジェクト

M S P

追手門学院大学生が、見山の郷がある茨木市見山地区をフィールドとして地域連携活動をしている。

見山の郷の商品開発を通して、地域の課題解決とマネジメント学習に取り組んでいる。具体的には、2014年より研究活動・商品開発を中心に取り組んできた。

【1】

## 見山の郷の概要

総合名称  
農事組合法人  
見山の郷交流施設組合  
(組合設立 平成13年11月8日)

施設名称(愛称)  
“de愛・ほっこり”「見山の郷」



【2】

## 見山の郷の目的

### ①都市と農村の交流の場

地域の活性化と人づくりを目的とした、都市と農村の交流活動を推進し、都市近郊立地の優位性を活かし、多様化したニーズに対応した地産地消の発展と担い手の育成を推進している。

### ②新鮮な商品 野菜・加工品

農産物の販売については、有機質肥料を主体に低農薬栽培を推進し、新鮮で安心できる農産物の提供に向け、生産農家と連携を図るとともに、地区の特産品・新品目の開発に努め、生産農家の所得増大を目指している。

## 見山の郷の目的

### ③安心・安全・地産地消

加工品については、品質・食味の向上を目指し、多様化する消費者ニーズに対応した加工品を開発し、健康に留意した安全な加工品を提供するとともに、郷土食の伝承を図ることにより、加工部門の発展に努めること。



【4】

## 見山の郷が抱える課題(1)

### 高齢化

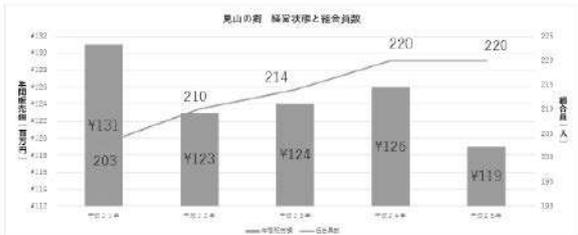
▶ 常連客の年齢層：60歳以上

▶ 現在の組合員数220名：平均年齢60歳  
生産力・販売力が低下→高齢化が原因



【5】

## 見山の郷 経営状況と組合員数



【6】

## 見山の郷が抱える課題(2)

### 競合の直売所の出現

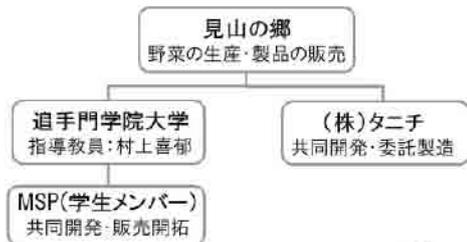
ここ数年の間に、商圏内に競合の新しい店舗が設立された。それにより、経営環境が厳しくなったことも売り上げ低下の原因の1つであると考えられる。

こういった競合に対して、どのような差別化を図り、集客数を上げるのかも、今後の大きな課題である。

【7】



## MSPの組織図



【8】



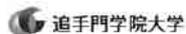
## MSPの活動 第1期(2013年度)

MSPは2013年7月に発足。当初からの商品開発は困難であったため、見山の郷の調査・研究を活動の中心とした。

この研究結果の発表は、追手門学院大学主催の北摂セミナーと、はなやか関西主催の「関西の食文化シンポジウム」にて行った。



【9】



## MSPの活動 第2期(2014年度)

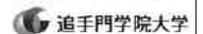
第2期の活動は、六次産業化を図るために、見山の郷の特産品を使用した製品開発を開始した。学生が意見を出し合い、米粉・赤しそ・小豆を使用した「おうてもん赤しそ塩あんぱん」を開発した。そしてMSPの宣伝や地域連携のために、様々なイベントに参加してきた。

MSP イベント参加

見山の郷「収穫祭」、イオンでの販売  
追手門学院大学 オープンキャンパス  
追手門学院大学 大学祭「將軍山祭」



【10】



## おうてもん赤しそ塩あんぱん(1)

「おうてもん赤しそ塩あんぱん」は見山の郷の特産品を主に使用している。パンに追手門学院大学の公式キャラクター「おうてもん」くんの焼き印を入れることは子供向けの工夫である。キャラクターの絵が描かれていると、手に取ってもらいやすくなるということである。

また、パンそのものが大学の広報になる仕組みになっている。高齢化対策として、ターゲットを若者や家族にした。現在見山の郷で通常販売している。



【11】



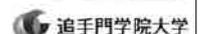
## おうてもん赤しそ塩あんぱん(2)

追手門学院大学オープンキャンパスにて「おうてもん赤しそ塩あんぱん」の配布を実施した。これは地域連携という大学の活動を沢山の高校生やその保護者に知ってもらうためである。

今年のオープンキャンパスでは2日間合計200個の配布を行った。こういった若者向けの活動を毎年継続していくことが、若年層のPRとなっている。



【12】



## MSPの活動 第3期(2015年度)

おうてもん赤しそ塩あんぱんの販売により、MSPの商品開発能力が認められ、「平成27年度茨木市産学連携スタートアップ支援事業」に採択された。2作目「見山ジュレ」を開発。この内容については地域連携学生フォーラム2015で発表した。

MSP 「見山ジュレ」商品化

見山ジュレも六次産業課商品として開発。見山の郷の特産品である赤しそ・ゆずを使用している。新しい市場を開拓するため、ターゲットを若者・家族とした。こちらも現在見山の郷で通常販売中である。



【13】



## MSPの活動 第4期(2016年度)

第4期は見山ジュレの販売促進を主たる目的と設定し、活動を行った。具体的には、販路開発と商品PRを行った。

学生による食育活動「大阪中学生サマーセミナー」、茨木市学生リサーチプログラム、「2016年度追手門学院大学学生表彰 優秀賞」を受賞した。



【14】



## 茨木市主催 学生リサーチプログラム

第4期で茨木市主催 学生リサーチプログラムに参加。これは、茨木市北部地域の地域活動をしている団体に、見山の郷を中心とした茨木市北部地域通称「いばきた」の魅力を発見して提案する活動のことである。「放課後いばきたリア充旅」「いばきたグラム」という2チームを編成し、発表した。

「いばきたリア充旅」では、茨木市内に大学が多いにも関わらず、放課後は茨木以外で遊んでいる学生がほとんどであるというところ目をつけた。従って、放課後にそのまま茨木で遊べる若者向けの観光プランを、シチュエーションごとに分けて提案した。

放課後 いばきた リア充旅



追手門学院大学

## 茨木市主催 学生リサーチプログラム

「いばきたグラム」では、今若者の間で話題になっている「インスタグラム」に投稿することを目的とした、1日観光プランを作って発表した。

現在見山の郷でも「インスタグラム」を活用されている。インスタグラムを使って、いばきたの写真映える風景や食べ物の情報を「ハッシュタグ」で拡散することにより、魅力をより多くの方に知ってもらうことを目的とし、提案した。

いばきたグラム



【18】

追手門学院大学

## MSPの活動 第5期 (2017年度)

第5期は、見山の郷に設置する顔出しボードを作成した。見山の郷のキャラクター「ほっこりさん」をモチーフとしている顔出しボードである。顔出しボードを設置する目的は、来場者の高齢化対策である。子供やファミリー向けを目的に作成した。

次に見山の郷の茶店で販売予定の「見山おじさんのもちもちバンケーキ」の開発である。特産品の米粉を100%使用したヘルシーなバンケーキ。味はプレーン味とゆず茶味の2種類で特産品の良さを感じてもらおうという目的である。



追手門学院大学

【17】

## 社会からの評価

マスコミにも取り上げられ、社会からの注目も集めている。

- ①『サンケイリビング』  
2016年10月29日号
- ②『ふたりごと文庫  
ニッポン手仕事図鑑』  
2017年9月1日号
- ③『日本農業新聞』  
2017年9月4日号



【18】

## MSPの成果

成果として、見山の郷のブランド戦略に貢献したといえる。例えば、「見山ジュレ」のように、「見山」という名前を商品名に入れることにより、商品そのものを見山の郷の広告とした。その考え方が定着し、「見山あられ」という商品も見山の郷で開発された。

また、見山の郷の問題である、高齢化・競合店の出現への対策として六次産業化を図った。また、見山の郷の生産能力の不足を補うためにOEMという生産形態をとった。



追手門学院大学

## 今後のMSPの課題

- ① 見山の郷の知名度UP  
近隣地域での知名度だけ → 大阪、近畿全般を目指す。
- ② リピーターを増やす  
若者のリピーターを増やしていくため、新しい商品の開発や、問題解決に努める。



【20】

追手門学院大学

## まとめ

- MSP** MSPは、地域連携活動として見山の郷の六次産業化に寄与。
- MSP** 学生が見山の郷が抱える課題の解決に、商品開発を通じて挑戦
- MSP** 若者の考え方と活力を商品に取り込むことで、新しい年齢層の顧客を開発
- MSP** 参加学生にとって、PBLによるマネジメント学習



【21】

追手門学院大学

## プロジェクトメンバー

リーダー：大野順也  
 サブリーダー（バンケーキ担当）：中嶋いずみ  
 サブリーダー（顔出しボード担当）：西岡咲稀  
 サブリーダー（イベント担当）：片岡芳朋  
 （研究発表担当）：藤本優子  
 メンバー  
 (3年生)：浅藤詩織、大谷玲央菜、小倉彩、北村志保、椎畑明、重光竜樹、福岡なつみ、八ツ本悠  
 (2年生)：川野里紗、田山友理絵、畠田直美、山下大輝、山田大貴、近澤憲人、木村駿、藤井優樹、西本翔太、川井脩平

【22】

追手門学院大学

## 学生発表⑤

活動テーマ	スポーツツーリズム
活動場所	大阪府
連携先	関西ワールドマスターズゲームズ事務所、ラグビーW杯事務局
活動主体	大阪経済大学 人間科学部 相原ゼミ

### 1. 活動概要

スポーツツーリズムのテーマのもと、2021年に開催される「関西ワールドマスターズゲームズ2021」での外国人観光客獲得に向けた施策を考えるために、日本で開催される世界大会である2019年のラグビーW杯・2020年の東京オリンピック・パラリンピックを土台としてそれぞれの事務局に出向きインタビューなどを行い、最終目標は関西として観光客の増加を目指している。

### 2. 年間計画

4～6月 テーマ決め  
7、8月 インタビュー、プレゼン資料作成  
9月 プレゼン練習  
10月 本番

### 3. 活動成果

観光客獲得において大切なのはこちら側（日本人）から観光地などを提案するよりも、相手側（外国人観光客）に日本の魅力ある場所や施設など自分たちで発見してもらうことにあるということが分かった。

### 4. 地域からの評価

特になし。

### 5. 参考WEBサイト

特になし。

### 6. 活動メンバー

人間科学部3年 佐川友昭、天野航祐、山口壱路、田中千尋、國澤夏実、清水礼美

### 7. 担当教員

人間科学部 准教授 相原正道

## 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪経済大学	
所属先・職名	人間科学部 人間科学科 3年	
氏 名	佐川友昭	
連絡先	電 話	
	メー ル	h157099ts@osaka-ue.ac.jp

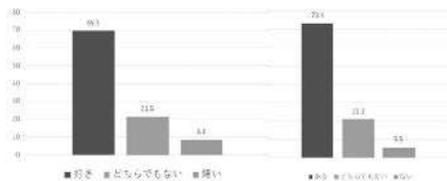
# 日本を生涯スポーツ社会へ

相原ゼミ C班 佐川友昭 山口孝路 天野航祐  
田中千尋 國澤夏実 清水礼美

みなさん！  
週に何回運動を  
していますか？

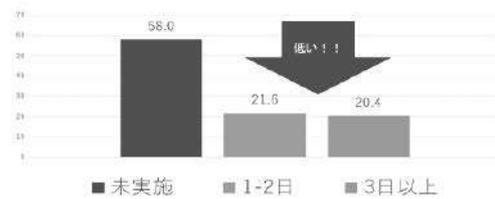
## 成人のスポーツ好き・実施意欲アリ 約7割！！

### 好き嫌い・スポーツ実施意欲



## 実施率

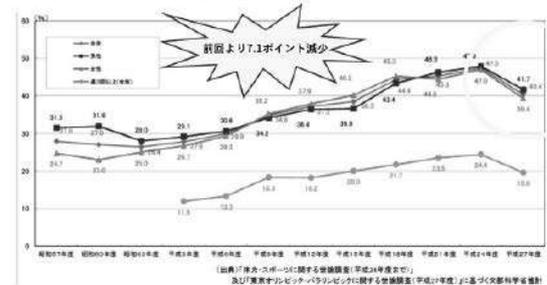
### スポーツ・運動実施状況



## 未実施の理由として・・・

- 仲間がない
- する場所・機会がない
- 特に理由はなし
- 時間がない

## 日本のスポーツ実施率



スポーツ基本計画（平成24年策定）において、  
「できるかぎり早期に、成人の週1回以上のスポーツ実施率が  
3人に2人（65パーセント程度）週3回以上のスポーツ実施率が  
3人に1人（30パーセント程度）となることを目標とする。」

これを達成するにはまだまだです・・・

そこで！！

大会を契機として

2019 第1回関西学生選手権大会  
2020 関西学生選手権大会  
2021 第2回関西学生選手権大会

1日1部4,000万人動員  
2026年までに  
両部化率約3割に

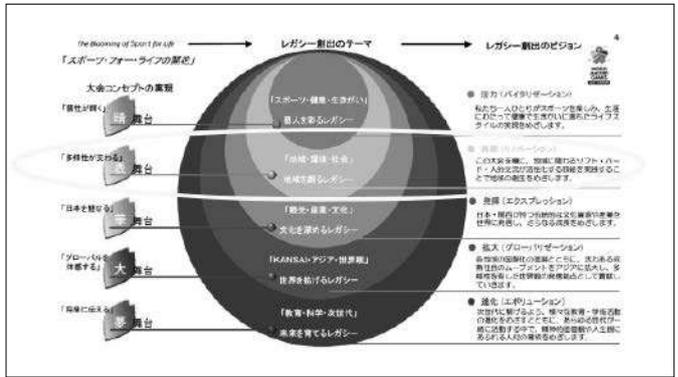
スポーツのイベント  
を3年連続日本で  
開催。  
2/3は関西で行わ  
れる。

- 「みる」スポーツへの機運を「する」スポーツへ
- 生涯スポーツを核とした日本の活性化・地域創生

16  
Copyright © The Organizing Committee of the Kansai Youth Masters Games 2021. All rights reserved.

## ワールドマスターズゲームズをフル活用する！

- ・関西の広範囲で開催されること。  
(大阪、京都、兵庫、滋賀、奈良、和歌山、徳島、鳥取、岡山)
- ・オリンピックの翌年開催のため、スポーツ気運が高まっていること。
- ・ワールドマスターズの出場制限は、年齢しかない。  
⇒ 3つのイベントの中で1番  
「みるスポーツ」から「するスポーツ」になりやすい。



## 2. 地域を創るレガシー：「地域・環境・社会」の再創（リノベーション）

**ビジョン**  
この大会を機に、地域に関わるソフト・ハード・人的交流が活性化される取組を  
実践することで地域の創生をめざします。

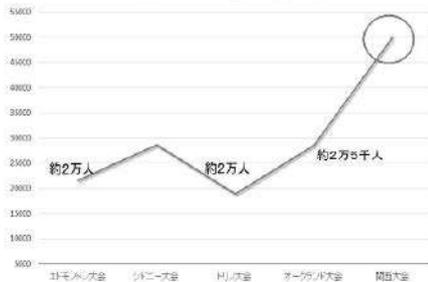


## 現状と課題①

### ・関西ワールドマスターズゲームズの参加者を増加させる



過去大会の参加者人数



関西大会  
目標参加人数  
約5万人



## 国別の関西大会参加者目標

- ・オセアニア・・・7000人
- ・北米・・・5000人
- ・ヨーロッパ・・・5000人
- ・アジア(日本を除く)・・・3000人
- ・日本・・・30000人!



## 過去大会の国別参加者数(一部)

	エドモントン大会	シドニー大会	トリノ大会
日本	168	211	215
オセアニア	1677	21484	2979
北米	16368	3171	5638
ヨーロッパ	2352	2434	5505
アジア(日本を除く)	340	500	83
アメリカ	61	168	177



えっ!?  
大丈夫!?

## 過去大会からみて...

イタリア(トリノ)大会に注目!!

	2005年 エドモントン大会	2009年 シドニー大会	2013年 トリノ大会
イタリア	23人	43人	2741人

イタリアでの開催であったにもかかわらず、イタリア人参加者は3000人未満  
 $23人 \times \text{約} 119\text{倍} = 2741人$   
 $43人 \times \text{約} 63\text{倍} = 2741人$

	2005年 エドモントン大会	2009年 シドニー大会	2013年 トリノ大会
日本	186	221	215

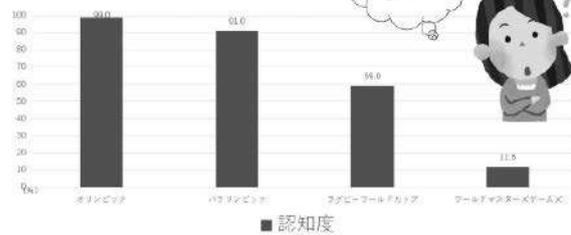
日本の目標人数は30000人  
 $186人 \times \text{約} 161\text{倍} = 30000人$   
 $221人 \times \text{約} 135\text{倍} = 30000人$   
 $215人 \times \text{約} 139\text{倍} = 30000人$

## 現状と課題②

### ワールドマスターズゲームズの認知度をあげる



## 各大会の認知度



あれ...  
低い...

近畿での認知度  
9.5%!

## 関西大学生に対する取り組み

- ワールドマスターズゲームズ2021関西に付随するビジネスを担う人材の育成
- 大会を活用した学習機会の提供
- ボランティア人材の育成



ささえる  
スポーツ

若い世代にも  
「する」「見る」  
スポーツに  
できないか?

## 提案①

・観戦に来た、主に大学生（29歳まで）に事前キャンプでスポーツを実際に体験してもらう

また、WMG参加者と学生との交流の場としても活用する（外国人との交流も期待ができる）

・各種競技会場を大会一週間前（事前キャンプ）と大会後3日程度利用可能にする

⇒大会参加者が試合前に練習・調整することができる

⇒競技に興味のある学生たちが実際に競技体験できる

⇒競技者と学生が同じところにいるため、交流できる  
交流によって試合当日に学生が知り合った方の応援に行くかも！？国際交流のチャンス！？



## 提案②

SNSを利用した、割引などのキャンペーン実施

⇒Instagramの特徴を活かして  
キャンペーンを行う



## インスタのキャンペーン事例

1. プレゼントキャンペーン

2. 特定の写真投稿&リグラムキャンペーン

3. 来店促進キャンペーン

リグラムとは、自分のアカウントで他の投稿を再投稿する。Twitterでいうリツイートにあたる機能である

### 1. プレゼントキャンペーン

フォロワーに対して何らかの形でキャンペーンに応募してもらい、当選者にはプレゼントを贈るというキャンペーン。

#（ハッシュタグ）を用いるか } 2パターンが多い  
応募用ページに誘導するか

- ・応募が気軽
- ・わかりやすいハッシュタグで、ユーザー間の拡散を狙える

### 2. 特定の写真投稿&リグラムキャンペーン

テーマに沿った写真をハッシュタグ付きでユーザーに投稿してもらい、その中から優れた作品を企業側がリポストするキャンペーン。

⇒プレゼントキャンペーンと併用されることも多い

リグラムされたユーザーは「より多くの人にみてもらいたい」という願望が満たされる  
コミュニティや投稿を活性化させる仕組みになっている

### 3. 来店促進キャンペーン

SNSから実際に現地訪問を促すキャンペーン。

主催者側の投稿を見せると… 割引に！  
またはプレゼントが貰える！  
現地の写真を撮って投稿すると… 特典Get！ Etc..

- ・現地に足を運んでもらうきっかけを提供する
- ・ユーザーの投稿でリアルな様子が拡散される
- ⇒イベント参加促進に

WMGでも  
活用したい！！

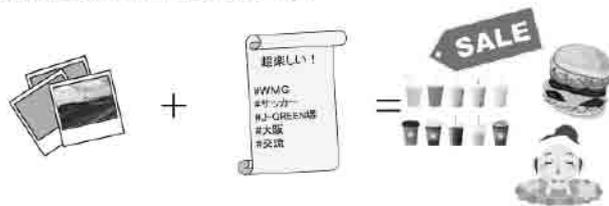
### プレゼントキャンペーンと来店促進キャンペーンの事例を活用！

当選者にプレゼント？ → No!

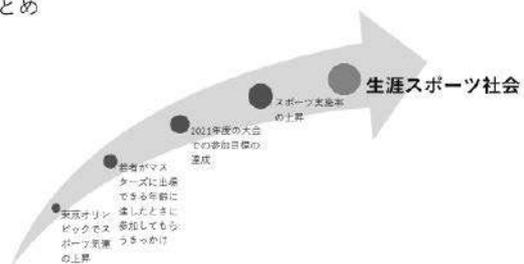
- ①WMG参加者、観戦者である
  - ②インスタにハッシュタグ（#関西ワールドマスターズゲームズ）をつけて投稿する
- ①と②を満たした方全員に開催地（会場）の最寄駅から会場までのバス料金無料バスをプレゼント！

### さらに...

各種競技参加者の利用する施設（会場）の写真とハッシュタグ（#関西ワールドマスターズゲームズ #WMG #サッカー など）をつけた投稿の提示で周辺施設の利用料金が割引に！



### まとめ



### 出典

- ・大阪都市魅力創造戦略2020
- ・大阪府 府民文化部 文化・スポーツ室 スポーツ振興課
- ・ワールドマスターズゲームズ2021関西 <http://www.wmg2021.jp/>
- ・スポーツ 基本計画 文武科学省ホームページ [http://www.mext.go.jp/a\\_menu/sports/plan/](http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/plan/)

ご清聴ありがとうございました

学生発表⑥

活動テーマ	堺市南区御池台小学校区の防災活動
活動場所	堺市南区御池台小学校区
連携先	堺市役所危機管理室、御池台校区連合自治会、大阪市立大学 CERD
活動主体	大阪府立大学 「地域活動演習」防災グループ

## 1. 活動概要

平成28年度に堺市危機管理室から本学へ防災に関する活動連携の依頼があり、本学と大阪市立大学との連携で堺市内校区の避難所運営マニュアルに関する活動を行うこととなった。この活動は地域の課題を学生も参加し、解決を図る本学COC事業に寄与するため、COC事業の1つである「地域活動演習」が参画することとなった。同授業で防災グループを構成し、学生主体の活動として堺市南区御池台小学校区の防災活動を行うこととなり、校区自治会との意見交換、基本的な防災の研修、地域の災害リスク確認のための「防災まち歩き」の企画・実施、小学校からの要望で5年生を対象とする防災訓練の企画等を実施した。この活動は、自治会が作成した防災マップの更新、同自治会が作成する避難所運営マニュアルの内容確認と地域の災害リスク等を記載する校区カルテの内容確認等であり、校区連合自治会の理解や学校PTAとの連携等、今後の活動の基盤が整備された。

## 2. 年間計画

平成28年3月：堺市危機管理室・大阪府立大学・大阪市立大学での打合せ  
 同年4月から7月：「地域活動演習」防災グループ受講生の防災に関する知識・技術の修得  
 ⇒ 大阪市立大学CERDによる講座、学外実習の履修  
 同年9月：堺市危機管理室・本学・大阪市大・堺市南区御池台校区連合自治会による打合せ、本学で同自治会向け防災講座・グループワーク等の実施（学生による実施支援）  
 同年10月：防災グループ学生による防災活動の実施準備他  
 同年11月：同自治会での防災まち歩きの実施と学生による実施支援（土曜日で学生の参加）  
 同年12月：堺市南区御池台小学校での防災訓練の実施（平日のため、学生は準備支援のみ）  
 同上：本学学生による防災・消防の活動成果を個人やグループで発表（外部評価委員や自治会役員等を含めた評価）  
 平成29年3月：堺市危機管理室から本活動が評価され、平成29年度以降も継続

## 3. 活動成果

学生主体の防災活動は、災害ボランティア以外、本学初の試みで教職員も経験者が少なく、学外に広く経験者・専門家等を集めることが最初の課題であった。しかし、学生である強みを活かし、他大学の研究者や地域の自治体・自治会の方々とは率直に話すことができ、人脈形成やそれら専門家等の知見を習得することができた。

実際の地域の特徴や事情等も教科書等の書籍に記載されているような事柄だけでなく、新たな発見や固有の事情等があり、防災活動を検討する場合、論理的な検討のほかに多面的に検討することや様々な意見・要望が地域の人から寄せられること身近に経験できた。

最も貴重な成果は、防災のように時期・規模・場所・様態に様々な条件がある場合、必要性があっても、単純に解決できるものではなく、制約条件の中で地域のニーズに応えつつ、最善策を考慮する難しさ、行政・大学・企業・地域の連携と理解が重要との認識ができたことである。

#### 4. 地域からの評価

連携した地域である堺市南区御池台小学校区連合自治会からは、平成28年12月に本活動の学生発表会を開催した際、同自治会役員が出席し、本学学生の活動を高く評価し、今後も継続してほしいとのコメントを発表会でいただいた。堺市危機管理室からも同様のコメントがあり、平成29年3月に平成29年度も同活動を継続し、新たな対象地区として堺市北区五箇荘小学校区が決まり、平成29年度の「地域活動演習」防災グループの受講生が活動を行っている。大阪市立大学CERDとも連携が継続しており、平成29年度同大学が連携する大阪市阿倍野区での活動に、本学「地域活動演習」防災グループの学生も招かれ、平成29年5月に阿倍野区役所周辺の防災まち歩きを実施した。本学と隣接する堺市中区土師小学校区連合自治会との連携も従来から進めており、堺市中区役所との連携も含め、今後活動内容を検討している。

#### 5. 参考WEBサイト

平成28年度「地域再生」副専攻「地域活動演習」受講学生による発表会を開催  
<http://www.osakafu-u.ac.jp/news/nws20161226-3/>

#### 6. 活動メンバー

環境システム学類 3年 川口紗緒里、緑地環境科学類 3年 土田美月  
教育福祉学類 4年 岡田真理、同学類 3年 西村征輝、看護学類 4年 辻 優子

#### 7. 担当教員

大阪府立大学 山本章雄 特命副学長

#### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪府立大学
所属先・職名	COC事務局 専門役（コーディネーター）
氏 名	深谷清之
連絡先	電 話 072-254-8309
	メー ル ckf25779@osakafu-u.ac.jp

#### 9. 活動の様子



概要

災害時、障がい児・者は、健常者より難しい事態に直面することが予想されるため、避難所生活や備蓄品について、地域での事前対策が重要となる。今回は、その課題と提案として、以下の2つに着目する。

(1) 生命を維持するための物資の供給

飲料水は、救援物資の到着まで、ほとんどの場合不足しないが、配給・炊き出しの食料は炭水化物中心となり、身体的・精神的に食べることができない人も出てくるので、備蓄品の種類を増やす必要がある。

(2) 清潔面と排泄面

清潔面では、貴重な水を節約しようという意識から手洗いが減り、結果的に皮膚病や食中毒、それらの集団感染につながる。これには、手指消毒薬や温感ウェットティッシュの活用が、対策として考えられる。

排泄面では、屋外トイレは女性や子供、高齢者や障がい者には利用しづらく、備蓄品や救援物資には、障がい者がよく使う中間サイズのおむつがない。対策は、トイレは洋式で、生理用品も常備した女性用を多く設置し、屋内トイレは女性に優先的に使用させる。また、屋内の使い勝手の良い場所に、手すり等のあるトイレを設置し、パーティショントイレ、おむつ等の交換スペースも設置する、などが考えられる。

【まとめ】

物品の整備に限らず、災害時の避難者全員が、避難生活の中で個々の強みを活かせるよう、話し合い、お互いに理解して、物事に取り組むことのできるような社会づくりが、何よりも重要と考える。



内容

★テーマの選択の理由

「障がいをお持ちの方々の生活に関わる仕事に就きたい」という思いから大学に入学したので、今回は、今まで学んできた看護・保健師・養護・助産・支援学校教育の視点から、防災について改めて考える機会としたい。

★学んだこと

①避難所となる学校には、エンシュアリティの備蓄が不十分である場合が多いこと、②妊婦さんや小さなお子さんを持つお母さんへの支援については、地域の取り組みがまだ十分に整備されていないこと、③食物アレルギーのある方への対応が不十分で、健康被害が出ていること、④避難所での生活において、十分な情報の収集ができず、必要な支援を受けられない場合があること、など。

スライド

1. テーマ選択の理由

◆障がいをお持ちの方々の生活に  
深く関わる環境で働いていきたい

→今までに学んできた  
看護・保健師・養護・助産・支援学校教育の視点から  
防災について改めて考える機会としたい。

3. 問題点として認識した事項、  
解決のための提案とその評価

災害時の障がい児・者の生活を営む上での必要な配慮や備え、  
その為の事前の避難所備蓄や地域の中での対策について

→課題はたくさんあり、そのすべてを議論することはできない。  
以下の2つの点に着目して検討を行う。

事前確保のための物資  
水・食料

感染予防のための  
清潔・排泄

★問題点

災害時に、障がい児・者が生活する上で必要な配慮や備え、またそのための事前の避難所備蓄や地域の中での対策について。

障がいをお持ちの方は平成27年度時点で、1億2,709万5千人の国民のうち、身体障がい者393万7千人、知的障がい者74万1千人、精神障がい者320万1千人だが、誰もが予期せぬ災害時の備えについて、万全の準備ができていないと言えない。

★解決策・提案

見直されうるべき課題はたくさんあるが、今回は人の生命・生活に直結する2点(①生命維持のための物資「水・食料」と、②感染予防のための「清潔・排泄」)に着目する。

**★生命を維持するための物資の供給について**

飲料水は、自販機の設置率の高さやコンビニの店舗数、備蓄のペットボトルが十分に普及していることから、救援物資の到着まで、ほとんどの場合、不足しない。

食料は、配給・炊き出しによって賄われるが、炭水化物中心となり、身体的・精神的に、他の人と同様のものを食べることができない人も出てくる(一般的に配給される食事が食べられないわけではないが、加齢とともに食べ物を噛み、飲み込む嚥下能力の落ちた方、消化吸収が出来ない方、こだわりが強く、渡される食事が食べられない方など)。

解決策としては、コスト面が課題となるが、備蓄品の種類等を増やす(アレルギー食や経腸栄養剤等も含む)ことが考えられる。またプライバシーの保護も課題の一つである。

**生命を維持するための物資の供給**

◆水:  
飲料水はペットボトルの普及により、比較的不足しない。

◆食料  
配給・炊き出しによって賄われる。  
⇒炭水化物中心(おにぎり・パン・麺等)

**身体的・精神的に他の人と同様のものが食べられない人がいる**  
Ex 高齢者 / 既病・既傷状態を行っている人 / アレルギーがある人  
精神障がい者 / 発達障がい者

**★清潔面について**

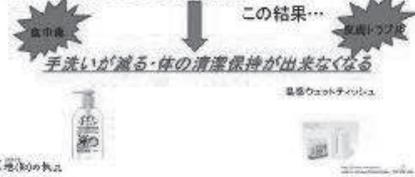
災害時は手を洗うことすら難しくなり、貴重な飲み水となる水を節約する意識が働き、手洗いが減る。

結果、皮膚病や食中毒が発生し、集団感染のリスクも上がる。解決策は、アルコール手指消毒薬や温感ウェットティッシュの活用が考えられるが、自助を促す必要があるので、広報ツールとしてパンフレット等の作成、小・中・高校や特別支援学校の教育の一環として保健指導に取り入れることも必要といえる。

この提案・解決策には、コスト面が課題となる。

**感染予防に関連した排泄と清潔**

◆清潔  
現代では蛇口をひねると水・お湯が出る環境である。一手洗いがトールなどなく、一人では手すら洗えない。災害時は水を節約しようという意識がある。



**★排泄面について**

屋外にあるトイレは、女性や子供、高齢者や障がい者が利用しづらいため、普段は失禁しない高齢者や子供たちが、慣れない環境から失禁してしまう。避難所にあるおむつや、届けられるおむつは高齢者用か乳幼児用で、障がい者がよく使う中間サイズがない。

対策は、トイレに必ず洋式便器を用い、女性用を多く設置し、女性に建物内のトイレを優先して使用させる。建物内の使い勝手の良い場所に、手すり等のある優先トイレを設置し、パーテーション・トイレ、おむつや装具交換スペースも設置する等の工夫が必要である。

この提案・解決策にも、コスト面が課題となる。

**感染予防に関連した排泄と清潔**

- ◆排泄
- ✓ 屋外にある 階層を判断しづらい(階段・廊下)・設置が多い
  - ✓ 階層の中でトイレに行くとにぎやかな音や臭い、不安定なトイレ環境(狭い通路)がある
  - ✓ 避難所での性別別への区別が、女性・子供が使用困難(トイレに付けない)
  - ✓ 生理用品のストックを確保できない
  - ✓ 仮設トイレがオストメイト用になって使いづらい
  - ✓ 普段は失禁しない高齢者や子供ながら、慣れない環境から失禁してしまう
  - ✓ 避難所にある、届けられるおむつは高齢者用か乳幼児用で障がい者がよく使う中間サイズ(身長15~18cm用)がない
  - ✓ 敷居がないおむつ受けが設置されていない

**★まとめ**

- 諸問題(優先度の高い順)  
◎他の人と同様のものを食べることができない人が出てくる  
◎手洗いが減る  
○避難所に備蓄・配給がない場合(なくなった場合)  
○炊き出しの経験がない  
○皮膚を清潔に保てない、皮膚トラブルをまねく  
○トイレ環境の整備

この学習・調査を通して、物品の整備に限らず、災害時には避難者全員が、避難生活の中で個々の強みを活かせるよう、話し合い、お互いに理解して、物事に取り組むことのできるような社会づくりが、何より重要だと考えるようになった。

**4. まとめ**

課題	内容	対応	効果
食料	避難所・炊き出しでの食料不足	避難所での食料配給の確保	食料不足の解消
水	飲料水の不足	自販機・コンビニの設置	飲料水の確保
衛生	手洗いの不足	アルコール手指消毒薬の配布	手洗いの促進
排泄	トイレの不足	洋式便器の設置	トイレ環境の改善

災害時の避難者全員がそれぞれ避難生活の中で、個々の強みを活かせる社会づくりが重要

平成 28 年 12 月 26 日

平成 28 年度「地域再生」副専攻「地域活動演習」受講学生による発表会の開催について

大阪府立大学 COC 事務局

平成 25 年度の文部科学省により採択された「地（知）の拠点整備事業」（大学 COC 事業）、本学と大阪市立大学の共同事業「大阪の再生・賦活と安全・安心の地域創生をめざす地域志向教育の実践」の中核である「地域再生（CR）」副専攻の最終科目「地域活動演習」を受講している学生による成果発表会を、平成 28 年 12 月 17 日（土）に開催しました。

当日は、高橋 哲也 学長補佐の総合司会により、石井 実 理事から、開会の挨拶とともに本学の COC 事業の概要と平成 28 年度の CR 副専攻の進捗状況の説明がありました。次に、大学 COC 事業のパートナーである大阪市立大学 都市防災教育研究センター所長 森 一彦 教授から、「コミュニティでいのちを守る」と題し、本学も参加している「コミュニティ防災教育の取組」の基調講演がありました。

その後、本学受講生と大阪市立大学の受講生による成果発表がありました。本学受講生は、堺市危機管理室、堺市南区御池台連合自治会、大阪市大と共同で取組んだ「避難所運営マニュアル」の評価に伴う防災活動を発表したり、堺市消防局と連携した「消防広報のあり方」の提言が発表されました。それぞれの発表に COC 事業の外部評価委員 3 名や地域の自治会役員等から質問が出され、学生が丁寧に回答しました。

すべての発表の後、堺市消防局 大上 仁司 予防部長から講評、本授業の代表教員 山本 章雄 教授からコメントが述べられ、前川 寛和 副学長の閉会の挨拶で終了しました。参加者は、本学、堺市の関連部局、大阪市大、COC+事業で連携する和歌山大学の教職員、学生その他、地域の関係者等、約 60 名、アンケートは「学生のがんばりが印象に残った」等好意的で、今後の取組にも期待する内容が多く寄せられた。

発表会終了後、COC 事業外部評価委員と本学関係者による意見交換会が行われ、外部評価委員から「本日の受講生の発表だけでなく、受講生数、開講クラスの質量ともに評価できる」との評価を得ました。



写真：基調講演、学生の発表と質疑応答の様子

上記の内容は、平成 28 年 12 月 16 日に開催した、地域活動演習学生発表会の報告を、本学ホームページに掲載したものです。

## 【大阪府立大学「地域活動演習」防災グループ】

堺市南区御池台小学校区の防災活動  
—大学コンソーシアム大阪 地域連携 学生フォーラム—

平成29年10月1日

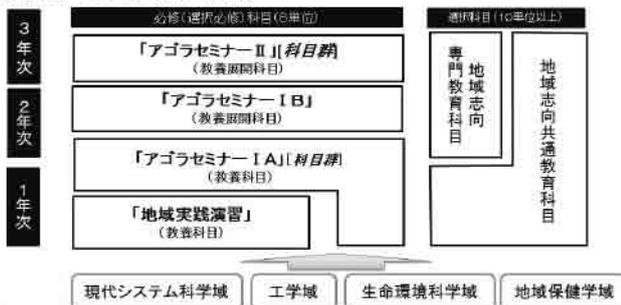
大阪府立大学地域保健学域看護学類 4年  
辻 優子

## 本日の発表目次

1. 本学COC事業と地域再生(CR)副専攻の概要
2. 堺市と本学の関係、防災活動への参加経緯
3. 堺市南区御池台小学校区の防災活動
4. 「地域活動演習」防災グループの紹介
5. 自分のテーマとその選択の理由
6. 地域活動演習他で学んだこと
7. 自分のテーマの問題点整理
8. その問題点を解決するための提案と評価
9. まとめと感想
10. 参考文献・資料

## 1. 本学COC事業と地域再生(CR)副専攻の概要

○大阪市大と本学が、共同で平成25年度「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)に採択



## 2. 堺市と本学の関係、防災活動への参加経緯

○堺市と本学の関係 平成20年4月から包括連携協定

⇒ 平成27年度から、堺市の防災活動への協力依頼が本学へ  
☆堺市の防災活動

小学校区自治会を中心とする「避難所運営マニュアル」「校区カルテ」の作成、運営の展開

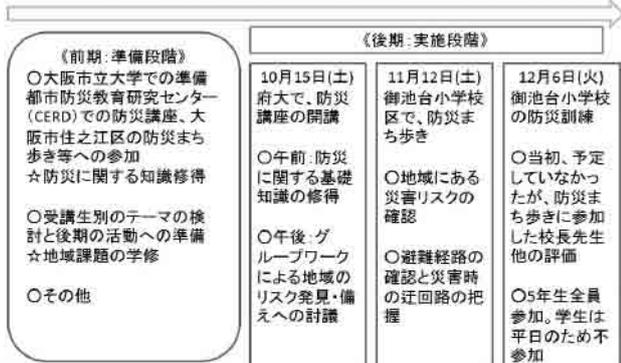
平成27年度から開始し、93校区から10校区を選出し、先行実施。

○大阪市大からの防災活動での協力依頼

☆「地区防災教室ネットワーク構築」事業への協力依頼

◎堺市南区御池台小学校区の防災活動へ本学、大阪市大が参加

## 3. 堺市南区御池台小学校区の防災活動



## 4. 「地域活動演習」防災グループの紹介

○「地域活動演習」の目的

「地域再生(CR)」副専攻で学修した「地域の課題を解決する」能力・技術等をまとめ、各自の課題について調査・研究し、発表すること(卒業研究のイメージ)

○防災グループの構成

現代システム科学域環境システム学類 1名、  
生命環境科学域緑地環境科学類 1名、  
地域保健学域看護学類 1名、  
地域保健学域教育福祉学類 2名 以上 5名

○他のメンバーのテーマ

「防災とまちづくり」「防災と食の備え」「防災と学校教育」「防災と福祉避難所」

## 5. 自分のテーマとその選択理由

テーマ:

障がい児・者から見た避難所のあり方について  
—避難所備蓄・運営の見直し—

選択理由:

障がいをお持ちの方々の生活に  
深く関わる職場で働いていきたい

→今までに学んできた

看護師・保健師・養護教諭・助産師 の視点から  
防災について改めて考える機会とした。

## 6. 地域活動演習等で学んだこと

◆座学の授業で知ったこと

- ✓ 避難所となる学校では、エンシュアリティの備蓄が十分でない事が多い (養護教諭論)
- ✓ 妊婦さんや小さなお子さんのいるお母さんたちへの支援について地域の取り組みはまだ十分に整備されていない。(COC)

◆TV、Web等で知ったこと

- ✓ 食物アレルギーのある方が、十分にアレルギー食を手に入ることが出来ず、低栄養に陥る方が出たり、アレルギー反応が出る事を承知で食べられる、といったケースがある。
- ✓ 仮設トイレに車椅子で入れない。
- ✓ 避難所ではハンドマイクで食事時間や入浴時間の連絡があるため、聞こえない方が食事・入浴出来ないこともある。

## 7. 自分のテーマの問題点整理

災害時の障がい児・者の生活を送る上での必要な配慮や備え、  
その為の事前の避難所備蓄や地域の中での対策について



課題はたくさんあり、そのすべてを議論することはできない。  
以下の2つの点に着目して検討を行う。

生命維持のための物資  
水・食料

感染予防のための  
排泄・清潔

## 8. その問題点を解決するための提案と評価

### 【生命を維持するための物資の供給】

◆水:

飲料水はペットボトルの普及により、比較的不足しない。

◆食料:

配給・炊き出しによって賄われる。  
⇒炭水化物中心(おにぎり・パン・麺等)



身体的・精神的に他の人と同様のものが  
食べられない人がいる

EX...

高齢者 / 経鼻・経管栄養を行っている人 / アレルギーがある人  
精神障がい者 / 発達障がい者

## 8. その問題点を解決するための提案と評価

### 【感染予防に関連した排泄と清潔】

◆清潔

現代では蛇口をひねると水・お湯が出る環境である  
→手洗いガートルなどなく、一人では手すら洗いがたい。  
災害時は水を節約しようという意識がある。



この結果...



手洗いが減る・体の清潔保持が出来なくなる



温感ウェットティッシュ



## 8. その問題点を解決するための提案と評価

### 【感染予防に関連した排泄と清潔】

◆排泄

- ✓ 屋外にある、階段を利用しないといけない、狭く・暗く・段差が多い
- ✓ 集団の中でトイレに行くことに羞恥心を持ちたり、不衛生なトイレを嫌い我慢する子供がいる。
- ✓ 避難所での性被害への恐怖から、女性・子供が夜間仮設トイレに行けない。
- ✓ 生理用のナプキンを捨てる場所がない。
- ✓ 仮設トイレはオストメイトにとって使いづらい。
- ✓ 音は失禁しない高齢者や子供たちが、慣れない環境から失禁してしまう。
- ✓ 避難所にある、届けられるおむつは高齢者用か乳幼児用で障がい者がよく使う中間サイズ(体重15~35kg用)がない。
- ✓ 断水しているせいで排せつ物を流せない。



## 学生発表⑦

活動テーマ	授業の一環での地域貢献活動
活動場所	八尾市、東大阪市
連携先	NPO 法人河内木綿藍染保存会
活動主体	大阪経済法科大学 BLP 特別演習 呉ゼミ

### 1. 活動概要

私たちは、本学が位置している八尾市の伝統文化であり、伝統産業であった「河内木綿」を現代のニーズに合わせて、世界に発信することを通じて地域に貢献することを目指し、活動しています。

### 2. 年間計画

2017年度活動テーマ

- プロジェクトオリジナルブランドの立ち上げ
- 支援いただいている団体の支援

### 3. 活動成果

2016年 2月 NHK 総合テレビ「学校発見バラエティーあほやねん！すきやねん！」出演  
3月 八尾市内の小学校にて伝統体験実施  
2017年 7月 ベトナム人学生に伝統体験実施  
プロジェクトブランドターゲット決定

### 4. 地域からの評価

--

### 5. 参考WEBサイト

大阪経済法科大学 BLP 特別演習河内木綿プロジェクトページ  
<http://www.keiho-u.ac.jp/close-up/seminar/ohchihyon01/>  
河内木綿プロジェクト Facebook ページ  
<https://www.facebook.com/keiho.kawachimomen/>

### 6. 活動メンバー

経済学部 経営学科	3年	笠井樹希、牧内信、森田孝幸、山口竜樹
	2年	奥村友香、西徹太
経済学部 経済学科	3年	関千裕
	2年	植原諒

## 7. 担当教員

国際学部 呉志賢教授

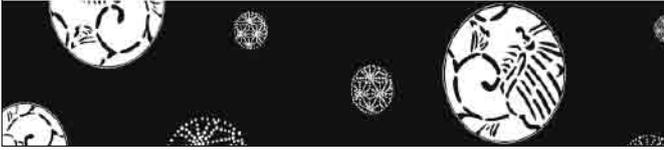
## 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪経済法科大学	
所属先・職名	経済学部経営学科	
氏 名	笠井樹希	
連絡先	電 話	
	メー ル	

## 9. 活動の様子

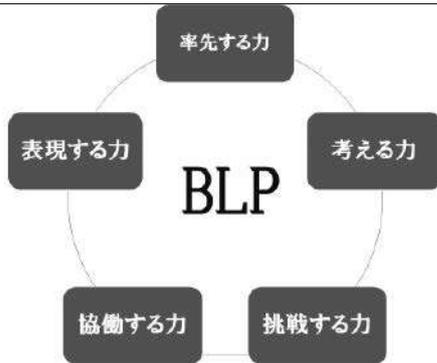


大阪経済法科大学  
河内木綿プロジェクト



BLP  
Business Leader Program

社会で通用するビジネス知識、実践力を  
身に着けるプログラム



河内木綿プロジェクト



新規SNS	情報発信	製品開発	保存会
インスタ グラム の開設	取材投稿 動画投稿	市場調査	NPO法人 河内木綿藍 染保存会 の支援

河内木綿とその歴史

- ・河内地方(現八尾市周辺)で生産されていた木綿
- ・糸が太く、生地が厚く耐久性に富んでいる
- ・江戸時代に最盛期を迎える
- ・明治時代に安価な海外の綿花に押され衰退

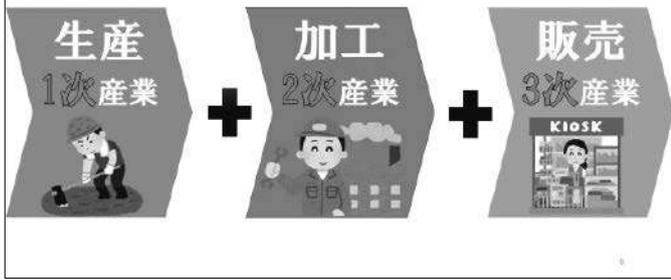
伝統産業が無くなると

日本のいいものが  
なくなってしまう！

伝統産業を  
復活させるためには？

6次産業化を確立させ  
利益が生まれるようにする！

# 6次産業化



# 6次産業化のサイクル



## 製品開発

若い世代に売れる  
河内木綿製品



新規性が必要

河内木綿の特徴

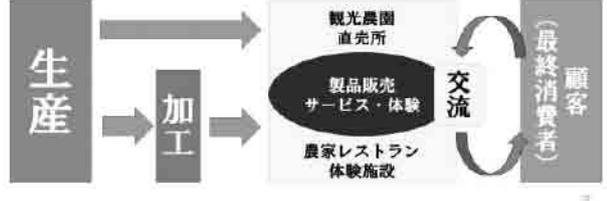
現代的な衣類・  
雑貨



新規性

## 製品販売

交流タイプ  
⇒「人（顧客）を招き入れて、そこで商品販売やサービス提供を行う」



## 製品販売 サービス・体験



## 情報発信



ホーム ページ情報 写真 動画 サービス

河内木綿プロジェクト  
カワチ

478人が「いいね！」を言っています  
7月22日 21:09

友達に「いいね！」をリクエスト

同じようなページ

河内木綿プロジェクトさんが写真3件を追加しました。

「河内木綿と久宝寺！」  
7月21日(金)に、大阪で一番古い木造建築である、久宝寺寺内町の願証寺へ取材してまいりました！

住職の近松照後さんから、久宝寺寺内町や願証寺の成り立ちやどういった場所か、また仏教の教えや人生の教訓などたくさんのお話を丁寧に教えていただきました。  
久宝寺寺内町は江戸時代に経済特... 続きを読む

## 国際交流



## 藍染体験



河内木綿  
プロジェクト  
での6次産業化

伝統産業の  
6次産業化の  
モデルケース

## 学生発表⑧

活動テーマ	川西市黒川エリアの古民家を活用したコミュニティカフェの運営
活動場所	兵庫県川西市黒川エリア
連携先	近畿大学 総合社会学部 田中晃代研究室
活動主体	近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 田中ゼミ

### 1. 活動概要

少子・高齢化が進む川西市黒川エリアの古民家は、昭和20年に建設され、蔵と広い続き間、縁側、日本庭園がある。現在、所有者は別地域にお住まいで、空き家の状態になっている。そこで、所有者の協力のもと、こうした古民家を活用して、地域活性化の一助とするものである。カフェ以外にも黒川で採れた野菜などを低価格で販売する予定。今後は、市街化調整区域内での古民家活用の参考事例となればと考え企画。カフェ開設前に庭園の除草や家具の修理などから始め、学生と地域住民、市民などの地域交流の場になることを目指す。

### 2. 年間計画

平成29年（2017年）7月22日（土）、29日（土）、30日（日）、8月26日（土）、9月23日（土）、10月21日（日）、11月25日（土）の10：00から16：00の間で川西市民やハイカーなどを対象に、日本一の里山で知られる川西市黒川の古民家の一角でカフェを実験的に開設する。

### 3. 活動成果

里山カフェの開設によって学生やハイカーと地域住民との交流ができ、また地域住民同士が集まり意見交換の出来る場を提供することでコミュニティの活性をはかることができた。

### 4. 地域からの評価

黒川の魅力に地域の人自身が気付くきっかけとなった。

### 5. 参考WEBサイト

<https://mainichi.jp/articles/20170723/ddl/k28/040/214000c>

### 6. 活動メンバー

総合社会学部3年 昇・谷口・渡邊・坂倉・寺村 他、田中晃代ゼミ多数

### 7. 担当教員

総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 准教授 田中晃代

## 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	近畿大学	
所属先・職名	総合社会学部総合社会学科環境 まちづくり系専攻 准教授	
氏 名	田中晃代	
連絡先	電 話	06-4307-4207
	メー ル	t-Kiyo@socio.kindai.ac.jp

## 9. 活動の様子 活動写真



図 1



図 2



図 3

# 学生古民家カフェすみっこ

～兵庫県川西市黒川エリア～



## メンバー

近畿大学 総合社会学部  
環境まちづくり専攻 田中晃代ゼミ  
昇・谷口・渡邊・坂倉・寺村 他多数



## 目次

- ①黒川とは・・・
- ②カフェを作る過程
- ③里山カフェすみっこ
- ④地域とのつながり
- ⑤今後について
- ⑥次回のすみっこ

## 黒川地域とは・・・

古くから引き継がれてきた自然豊かな里山

## 黒川地域は兵庫県川西市の最北部(☆印)

大阪梅田から車で約1時間ほどの距離  
比較的都会と近い地域に位置する里山



豊臣秀吉にも献上していたとされる  
菊炭が名産

## 黒川が抱える問題



山・森林など自然資源の  
管理力の低下

## 里山caféを開設するまでに・・・

黒川祭り  
1日里山café・古写真展

料理教室

黒川産の野菜を使った料理を  
地域の方々に教わる



お祭りへの参加  
古写真展やcaféの開催  
料理教室  
↓  
黒川を知る  
地域の方々とコミュニケーションをとる

地域の方々と学生が  
黒川の将来を一緒に考える

## 里山カフェ“すみっこ”



## すみっこの由来

- ①黒川名産の菊炭の「すみ」 
- ②川西市の「すみ」に位置する 
- ③黒川に新たな家族に住んでもらいたい

## すみっこのこだわり

- ・築70年の古民家を活用 
- ・黒川ならではのメニューを提供  
菊炭を使って学生自ら焙煎したコーヒー  
釜で炊いたごはんと川西特産無花果のカレーなど



## 目的

- ①古民家活用の参考事例に！ 
- ②学生と地域住民、市民との交流の場に！



## これまでの活動



●ミーティング



●焙煎



●販売

DATE 7/16 草刈り



DATE 7/30  
第3回  
カフェ



DATE 7/30



DATE 8/26



## 地域との関わり



### みさご珈琲 向井 務さん

宝塚市にあるコーヒー焙煎工房。  
焙煎講座を開催し、  
コーヒーの輪を広げようと  
尽力していらっしゃる方。

ゼミ時間に焙煎技術を  
伝授してもらいました♪

## 地域との関わり



すみっこのチラシを  
数人のゼミ生が協力して  
一から作り上げました！



その結果…

約1000枚のチラシを地域に配布できることに！！  
公民館やキャンプ場、最寄り駅に設置しています。

## 活動の成果

学生と地域の人、  
地域の人同士が関わる  
交流の場づくりができた



黒川の魅力に地域の人自身が気付くきっかけとなった



## 今後は

観光客やハイカーの方にも  
立ち寄ってもらいたい!



黒川の魅力を感じてもらい、  
移住を促進!

10/21, 10/29, 11/25  
『すみっこ』にて  
お待ちしております!



## “里山カフェ すみっこ”とは

このカフェは、オーナーさんのご厚意により開設した古民家カフェです。築約70年の木造平屋住宅で、店名は黒川で有名な菊炭にちなんでつけました。

1日店長を筆頭に、ほっとひと息できるカフェを学生たちが作ります。

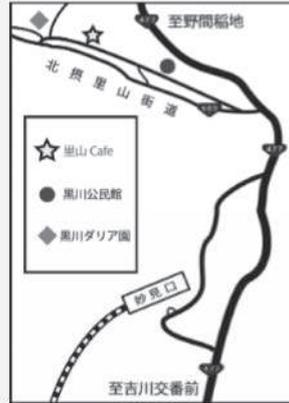
### MENU

- ◎炭火焙煎珈琲（ホット・アイス）
- ◎紅茶（ホット・アイス）
- ◎ヤーコンサイダー
- ◎自家製レモネード
- ◎オレンジジュース
- ◎ウーロン茶
- ◎ビール



13時から15時まで、黒川を知るワークショップを行う予定です。こちらにも興味があればぜひご参加ください！

### ACCESS MAP



### 里山カフェ すみっこ

兵庫県川西市黒川  
(能勢電鉄「妙見口駅」から徒歩約30分)



☕ みさこ珈琲 × 近畿大学学生

## 里山カフェ すみっこ

### 開店日時

2017年8月26日(土), 9月23日(土),  
10月21日(土), 29日(日), 11月25日(土)  
すべて10:00~16:00



## 里山カフェ すみっこ 3つのこだわり



### こだわり①



みさこ珈琲さんより焙煎技術の指導を受けた学生たちが心をこめてコーヒーを提供します。黒川の炭と水を使って焙煎したコーヒーは格別です。



### こだわり②



日本一の里山と称される川西市黒川。春はエドヒガン、夏は青々とした里山、秋は紅葉を楽しみ、冬は菊炭の窯出しが行われます。歴史と自然を今も受け継ぎ、地域のつながりも深い地域です。



### こだわり③

古民家は、昭和20年(1945年)頃建てられたもので、蔵と広い続き間、そして縁側に、日本庭園があります。すみっこでは、みんなが気軽に集える憩いの場を作りました。



学生発表⑨

活動テーマ	北条鉄道利用応援キャンペーンの展開
活動場所	兵庫県加西市、大阪府東大阪市
連携先	加西市役所、北条鉄道株式会社、北条鉄道沿線のレストラン・飲食店舗
活動主体	近畿大学 経営学部 キャリア・マネジメント学科&李ゼミ

### 1. 活動概要

北条鉄道株式会社は、昭和60年4月に第3セクターの鉄道会社として設立された。小野市粟生駅～加西市北条町駅間の13.6kmをディーゼル列車1両が22分で結ぶ。沿線では県立フラワーセンター、五百羅漢、玉丘史跡公園等、歴史や自然を満喫できる。また、かぶと虫列車やサンタ列車など季節限定のイベント列車も運行。しかし、このような利用客増加対策にも拘らず、設立以来赤字経営が継続している。

北条鉄道の事業環境、過去の収益改善策等の調査結果から、当チームがPBLとして取り組むとすれば、投資を伴わない比較的短期間で終わるプロジェクトが適切と判断。加西市民が北条鉄道を利用し、沿線のレストラン・飲食店に足を運んでもらう方法として、乗車すれば協力店舗で使える期間限定のサービス券を発行する方法を考案。加西市民が北条鉄道を自分たちの魅力的な財産と考え、結果的に存続するようという願いを込めて、観光シーズンの10月1ヶ月月間で取り組むこととなった。

### 2. 年間計画

- 4～7月 授業10回と6・7月2回の加西市訪問を通して、加西市の現状と抱える地域課題を学修。テーマ選定・活動内容（案）作成へと繋げた。
- 8月 8/7の加西市関係者来学が台風で中止。取り組みの方向・作業内容等を確認できず。
- 9月 9/1～10合宿。候補店舗と折衝し、チラシ・サービス券等の準備を行う。中下旬、残る準備を実施。
- 10月 キャンペーン実施。
- 11月 利用客数を確認し、集客効果を検証する。併せて、これまでの支援活動の評価を行う。

### 3. 活動成果

当初、企画から成果のフォローアップまでを一貫して行う進め方を考えたが、東大阪市から加西市は遠隔地であること、台風接近で8/7の加西市関係者との打合せが流れたこと等から、9月上旬の合宿では、管理のサイクルPDCAの内Planのみに取り組むこととなった。

10月1ヶ月間の北条鉄道とサービス券の利用実績は、期間終了を待つ必要があるが、それまでの準備状況はほぼ及第点の進捗と考えている。また活動プロセスは、チームが成熟していく段階を追うことができるものとなった。

数量的・経済的成果は、10月のサービス券適用期間明けを待って確認することとした。

#### 4. 地域からの評価

沿線の割引指定店舗候補となるレストランや地元新聞社や市役所関係者には、9月合宿時に折衝。また、サービス券を利用する加西市民や市外利用者の反応・評価は、11月以降に得られる。そのため、地域からの評価は、今回の取り組み後となる。

#### 5. 参考WEBサイト

<http://www.city.kasai.hyogo.jp/04sise/12serv/pdf/2017/09/1709.pdf>  
(上記は「広報かさい 2017年9月号」のURL)  
10月1日に「広報かさい 2017年10月号」掲載予定。

#### 6. 活動メンバー

経営学部2年 井出崎 竜、大鞭 洋輝  
——キャリア・マネジメント学科の「アドバンスト・インターンシップ（地域課題解決）」の履修者として参加  
経営学部3年 谷下 康平、増澤 亮佑  
——李超ゼミのゼミ活動の一環として参加

#### 7. 担当教員

経営学部キャリア・マネジメント学科 教授 辻 隆久、講師 李 超

#### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	近畿大学
所属先・職名	経営学部キャリア・マネジメント学科・教授
氏 名	辻 隆久
連絡先	電 話 080-6155-0351
	メー ル ta_tsuji1951@yahoo.co.jp

#### 9. 活動の様子



2017.09.02 北条鉄道会議室内で、進め方の方向を確認する



2017.09.06 加西市内の和食レストランで、協力要請

## 北条鉄道利用応援キャンペーンの展開

近畿大学 経営学部

増澤亮佑 谷下康平  
井出崎電 大糠洋輝

## PBLとは

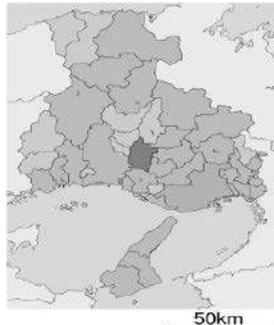
Project (Problem) Based Learning

(課題解決型学習)

自ら設定した課題、または与えられた課題を解決していく過程で、さまざまな能力を育成する学習

## 加西市とは

- ・人口 44,765人  
(2017年8月31日現在)
- ・ハリマ王にんにく、ぶどう
- ・北条鉄道



## 北条鉄道とは

(下図の引用元: www.yline-w.com)

北条町～粟生(8駅)  
全長13.6km



## 全体のスケジュール



## 事前学習(4月～7月)



## 北条鉄道の課題

年間約1,500万円の赤字



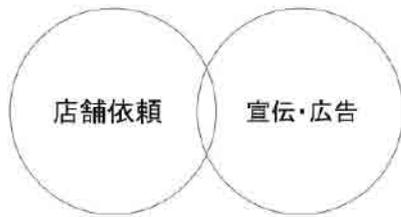
普段、鉄道を利用しない加西市  
民の年1回乗車で解決

➤ 普段、北条鉄道を利用しない市民に  
乗車を促進できるようなキャンペーンの実施

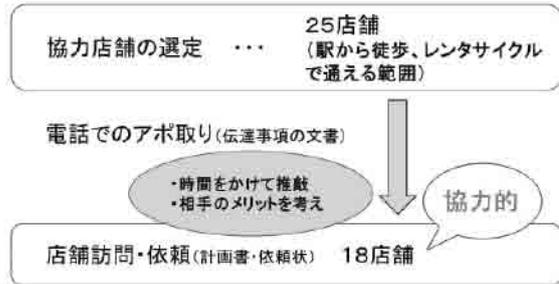
## 内容 実施期間 10/1～10/31

- ① 北条鉄道車内にてサービス券が入った箱を設置。
- ② 乗客の方にサービス券を取って頂く。
- ③ サービス券を対象店舗に持っていきと店舗に応じたサービスを受けることができる。  
(例、ワンドリンク無料、お菓子をオマケ)

### 合宿中にしたこと



### 店舗依頼



### 宣伝・広告

チラシをデザインし、2,000枚作成  
→隣保回覧、駅構内など掲示の必要枚数

サービス券をデザインし、6,000枚作成  
→北条鉄道の利用者数が約12,000人(2016/10)

神戸新聞に取り上げてもらい、記事になる。  
今後も記事になる可能性あり

チラシ



(裏面 店舗名とサービス内容)

近畿大学×北条鉄道 利用促進キャンペーン  
おトクに乗ってク！  
**サービス券**

※北条鉄道をご利用の方、お一人様一枚につき一回有効です。  
サービス内容は各店舗により異なります。  
本券は、必ず注文時にご提示ください。  
他の割引券・クーポン券との併用はできません。

キャンペーン期間  
10/1～10/31

北条鉄道株式会社

(裏面 店舗名)



### フォローアップ

#### 合宿後からの準備

- ・市役所にチラシの掲示や隣保回覧を依頼
- ・北条鉄道(株)にサービス券のBOX、POPの設置を依頼

#### キャンペーン後のフォローアップ (11月)

- ・各店舗を訪問し使用済みサービス券を回収
  - ・鉄道利用客が増加したか調査
- 予想・・・サービス券利用率20%、乗車率が前年度比110%

キャンペーン実施

### 店舗の声

地域での若者の活躍機会を

利便性に問題がある

・店の方は問題を認識  
しかし  
市民の問題意識は？  
意識変化につながるか？

北条鉄道は残すべき

一過性に過ぎないのでは？

## 学生発表⑨

活動テーマ	NPO 法人原始人会の知名度アップと環境整備
活動場所	兵庫県加西市、大阪府東大阪市
連携先	加西市役所、NPO 法人原始人会
活動主体	近畿大学 経営学部 キャリア・マネジメント学科&李ゼミ

### 1. 活動概要

NPO 法人原始人会は、平成20年度に加西市万願寺地区の町おこし事業として立上げられた。以降、再生古民家「大谷山荘」・農家レストラン「土一七日屋台」の運営、どぶろく・甘酒「女切峠」の製造販売、市民農園「しあわせ食材づくり隊」の貸出等を行っている。しかし、万願寺地区は山間地域であるため、車でないとアクセスできない。加えて原始人会の知名度の低さが、季節毎のイベントや集客のネックとなっている。

そこで、人々に広く知られるよう、SNS で発信しながら「NPO 法人原始人会の知名度アップ」を図り、新規顧客を呼び込めるような仕組みづくりをすることを、活動の主目的とした。

「SNS の活用」では、合宿中、土一七日屋台のマスコットのウサギに因み、「近大生インターン日記ウサギ店長」として SNS を継続発信。また、合宿後も原始人会だけで運営できるよう、関係者に SNS を伝授。その他、メニュー見直しや店舗改装、里山整備等を実施した。

### 2. 年間計画

- 4～7月 授業10回と6・7月2回の加西市訪問を通して、加西市の現状と抱える地域課題を学修。テーマ選定・活動内容（案）作成へと繋げた。
- 8月 8/7の加西市関係者来学が台風で中止。取り組みの方向・作業内容など確認できず。
- 9月 9/1～10の間、加西市研修センターと「大谷山荘」に合宿し、市内外潜在顧客への知名度向上（SNS 発信、その仕組みの構築）、土一七日屋台の魅力度アップ（メニュー見直しや店舗改装、里山整備等）を実施。
- 10月 適宜フォローアップを行う。

### 3. 活動成果

現地を訪問し、NPO 法人原始人会の関係者から説明を受けることで、活動や収益状況を把握。集客ネックとなっている原始人会の知名度を高めるため、大きな投資を伴わずに短期間で成果が現れる「SNS の活用」を中心に取り組むこととなった。

その結果、SNS 発信には、予想を上回る反響があった。□Instagram フォロワー 61/50、いいね トータル597/320 □Facebook フォロワー 81/50等。しかし、実習中、SNS を見ての来客はなく、集客へ繋げることの難しさを実感。今後、SNS 発信が利用客増に繋がることを期待している。

また、土一七日屋台の環境整備も確実に進んだと考えている。

#### 4. 地域からの評価

SNSの活用は若者が得意で、NPO法人関係者の多くの中高齢者が不得意とする領域である。それだけに、合宿中に実施してみせ合宿後は関係者だけで運営できるようにマニュアルを準備し教育する取り組みは、若者視点での環境整備同様、原始人会メンバーから喜ばれた。成果としての集客、関係者や加西市民、市外利用者の反応・評価は、今後得られることとなる。

#### 5. 参考WEBサイト

2017.09.05 Instagram アカウント開設 ID:doinaka\_kasai  
2017.09.07 Facebook アカウント開設 ID:@doinakakasai

#### 6. 活動メンバー

経営学部2年 横山 励  
——キャリア・マネジメント学科の「アドバンスト・インターンシップ（地域課題解決）」の履修者として参加  
経営学部3年 高嶋 修平、高橋 理宏、津吹 大佑、戸井 一希  
——李超ゼミのゼミ活動の一環として参加

#### 7. 担当教員

経営学部キャリア・マネジメント学科 教授 辻 隆久、講師 李 超

#### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	近畿大学
所属先・職名	経営学部キャリア・マネジメント学科・教授
氏 名	辻 隆久
連絡先	電 話 080-6155-0351
	メー ル ta_tsuji1951@yahoo.co.jp

#### 9. 活動の様子



2017.09.05 土一七日屋台であった、新たな出会い



2017.09.08 土一七日屋台で、原始人会メンバーと

## NPO法人 原始人会の知名度アップと環境整備

近畿大学 経営学部

横山 勳
高橋 修平
高橋 理宏
津吹 大佑
戸井 一希

## NPO法人 原始人会とは？

- ・ 少子高齢化・人口減少などの地域課題を自分達で何とかしようと思った非営利団体。
- ・ 「地域が家族の町づくり」という理念の下、日常生活の利便性を図る「はっぴーバス」活動など、地域の高齢者をはじめとした住民に気軽に利用して頂けるサービスを提供している。
- ・ 「食し農園」「農家レストランの運営」といった取り組みを通して都市の方に自然の美しさ、収穫の喜びなどを感じて田舎生活に興味を持ってもらおうという活動を行っている。

今回は農家レストラン「土一七日(どいなか)屋台」で課題解決型の実習をさせていただきました



## 実習前にわかった土一七日屋台の課題

- ① お店のコンセプトがはっきりとしておらず、利用者のニーズを掴みきれていない。
- ② 良い設備、コンテンツを所有しているが、効果を発揮できていない。うまく外部への発信が行われていない。
- ③ 周辺地域全体に人材、特に若者が足りていない。

→発信しながら人を呼び込めるような仕組みづくりが必要では？



## 10日間で取り組んだプロジェクト内容

- ・ SNSを使った内外へのプロモーション

地域外、市外の潜在顧客に向けてInstagram

地域内、ある程度近くに住む人間に向けてFacebook を使用

- ・ 店舗改装

SNSで県外からの利用客獲得を目指すとともに、若者目線、都会目線からの

店舗改装によって地域外の方からも「続けて利用していただける」サイクル作りを実践

先方がどこまで変化を望んでいるのかわからなかった。  
実習開始前に入念な意見のすり合わせ  
→好感触だったため実践



## プロジェクトの進め方

- I • 作業内容を箇条書き  
• 必要に応じて責任者に確認・提案
- II • 最終的なプロジェクトの着地点（ゴール目標）を決定
- III • 10日間のスケジュールに落とし込み
- IV • 実行しながら修正、変更



## ① SNSを用いた情報発信

### ① SNSを用いた情報発信 概要

1. アカウントの取得から始め、投稿の実践、引継ぎまでを行う。
2. 引き継いだ後も投稿のクオリティを維持するため、写真の撮り方やアイデアをまとめたマニュアルを作成する。

### ① SNSを用いた情報発信 ゴール目標

マニュアルを用いた引継ぎの完了  
年末までにSNSの効果で来客1日10人以上  
実習最終日までにSNSを見ての来客1組以上

Instagram  
10日でフォロワー50人

Facebook  
10日でフォロワー50人

10日でトータル「いいね」数320



## 今回のインターンシップから学んだこと

・ 具体的な物事の進め方 イメージを具現化していくプロセス

・ 仕事をやり通す上での責任感

・ チームワーク

（個々に得意、苦手がありそれを互いに補い合う。一人では解決できないこともチームで挑戦し解決できる）

今後の就職活動や、社会に出た際に必要となる  
スキルを実際の活動から学ぶことができた

ご清聴ありがとうございました。

## 学生発表⑩

活動テーマ	キッズシティきんらん
活動場所	千里金蘭大学、dios 北千里
連携先	千里北センター株式会社、dios 北千里専門店会（協力）
活動主体	キッズシティきんらん実行委員会（主催）千里金蘭大学地域共創センター、千里金蘭大学児童教育学科、吹田市教育委員会（後援）

### 1. 活動概要

子どもが街の住人となって、「キッズシティきんらん」という1つの街をつくりあげる、というイベントを企画し、開催しました。元になるモデルはドイツの「ミニミュンヘン」です。キッズシティでは、大人が考えた職業ではなく自分たちがやってみたいと思う仕事を設定するため、子ども同士の関係性が重要となります。店舗、店の目標、紙幣のやり取り、開店準備、街の運営を子どもたちが考えます。具体的には、「子どもが街の住人として仕事をして、給料をもらい、買い物をする」という内容になっていて、子どもたちがその擬似経済活動を体験しながら創造力や協力する楽しさを育むことのできるイベントを目指しました。私たち学生は子どもが安全に自由に遊べる場の提供、学生スタッフの募集、子どもの募集、個人情報の管理、子どもへの援助、保護者の対応、全体計画の考案・共有、流れなどの詳細を決めるなどの活動を行いました。

### 2. 年間計画

11月下旬に企画書を提出。  
12月に学生ボランティアの募集。  
12月中旬に学生スタッフを募集するため、学生に向けてイベントの目的・概要等をお話する説明会を開催する。  
12月下旬に参加する子どもを募集するため、DM・チラシ等を配布する。  
1月に全体でイベントの内容の共有、企画の詳細を話し合い、決定する。  
2月にイベント開催に向けて準備物を用意。  
イベント約3週間前から、子どもが主体となってイベントについて話し合う子ども会議を定期的で開催する。子ども会議一回目（自己紹介・仕事決め）、子ども会議二回目（店舗の内容・目標・ねがい）、子ども会議三回目（当日の流れの確認）、子ども会議四回目（前日準備）。3月19日イベント当日。

### 3. 活動成果

イベント後、参加してくれた子どもたちから「楽しかった」「参加してよかった」などとたくさんの声をいただきました。  
今回の活動の学生へのメリットとしては、イベントの企画・運営する方法や技術を学べる、子どものやる気・考える時間をどのようにサポートしていくのかを実感できる、仕事について子どもが現時点でどのように考えているのかを実感できること等が挙げられました。  
また、イベントを通して子どもたちからアンケートを取り、将来の夢、イベントの感想、子どもたちの考えなどのデータを得られました。これらをこれからの教育活動に生かしてまいります。

#### 4. 地域からの評価

--

#### 5. 参考 WEB サイト

<https://www.kinran.ac.jp> 内の児童教育学科 infomation

#### 6. 活動メンバー

生活科学部児童教育学科	4年	18名
(内、代表 入口加菜 丸山萌 野口遥香 岩橋美幸 大町真音 山中友加里)		
生活科学部児童教育学科	3年	2名
看護学部看護学科	2年	3名

#### 7. 担当教員

生活科学部児童教育学科	講師	谷村綾子
	講師	江南健志

#### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	千里金蘭大学	
所属先・職名	生活科学部児童教育学科 4年	
氏 名	入口加菜	
連絡先	電 話	080-5704-6223
	メー ル	c1412006@cs.kinran.ac.jp

#### 9. 活動の様子 「キッズシティきんらん」の活動風景



こ　　しゅやく　まち　ぜんぶ　きみ　しだい　　まち  
子どもが主役の街。全部が君たち次第。どんな街をつくる？

ことし　　でいおすきたせんり　　はつ  
今年はdios北千里と初コラボ！



# キッズシティきんらん

でいおすきたせんり  
in dios北千里

さんかしゃぼしゅう  
キッズリーダー・イベントキッズ参加者募集！

対象：小学4～6年生

対象：小学1～6年生

## 2/10(金) 募集締め切り

主催：キッズシティきんらん実行委員会 協力：千里北センター株式会社、DIOS 北千里専門店会  
後援：千里金蘭大学地域共創センター・児童教育学科、吹田市教育委員会 イラスト：津嶋裕美

## キッズシティきんらんって何？

子どもだけでつくる街でいろいろな仕事をしてお給料をもらおう！  
もらったお給料で買い物や遊ぶこともできるよ！

※お給料はキッズシティきんらんで使えるお金です。

○保護者の方へ

子どもたちが街の住人として仕事をし、給料を得、買い物をするという疑似経済活動を体験しながら、創造力や協力する楽しさなどを育むプログラムです。



### キッズリーダー

対象:小学4~6年生

募集人数:30名

参加費:無料

持ち物:お弁当、水筒

### イベントキッズ

対象:小学1~6年生

募集人数:70名

参加費:300円 または ゆめシール30枚

持ち物:お弁当、水筒

日程	時間・場所	参加できる人
2月25日(土) 子ども会議① 街に必要な仕事を考えよう	10:00~15:00 (受付開始9:30) 千里金蘭大学内	キッズリーダー
3月4日(土) 子ども会議② 街のルール、市長を決めよう	10:00~15:00 (受付開始9:30) 千里金蘭大学内	キッズリーダー
3月11日(土) 子ども会議③ お店や商品を作ろう!	10:00~15:00 (受付開始9:30) 千里金蘭大学内	キッズリーダー
3月18日(土) 前日準備 お店や商品を作ろう!	10:00~15:00 (受付開始9:30) dios 北千里	キッズリーダー
3月19日(日) キッズシティきんらん本番! みんなの街をオープンします!	9:30~16:00 (受付開始9:00) dios 北千里	キッズリーダー イベントキッズ

## dios 北千里コラボ企画

DIOS 北千里専門店会とコラボ実施中!

J:COM、FM 千里とのコラボも!

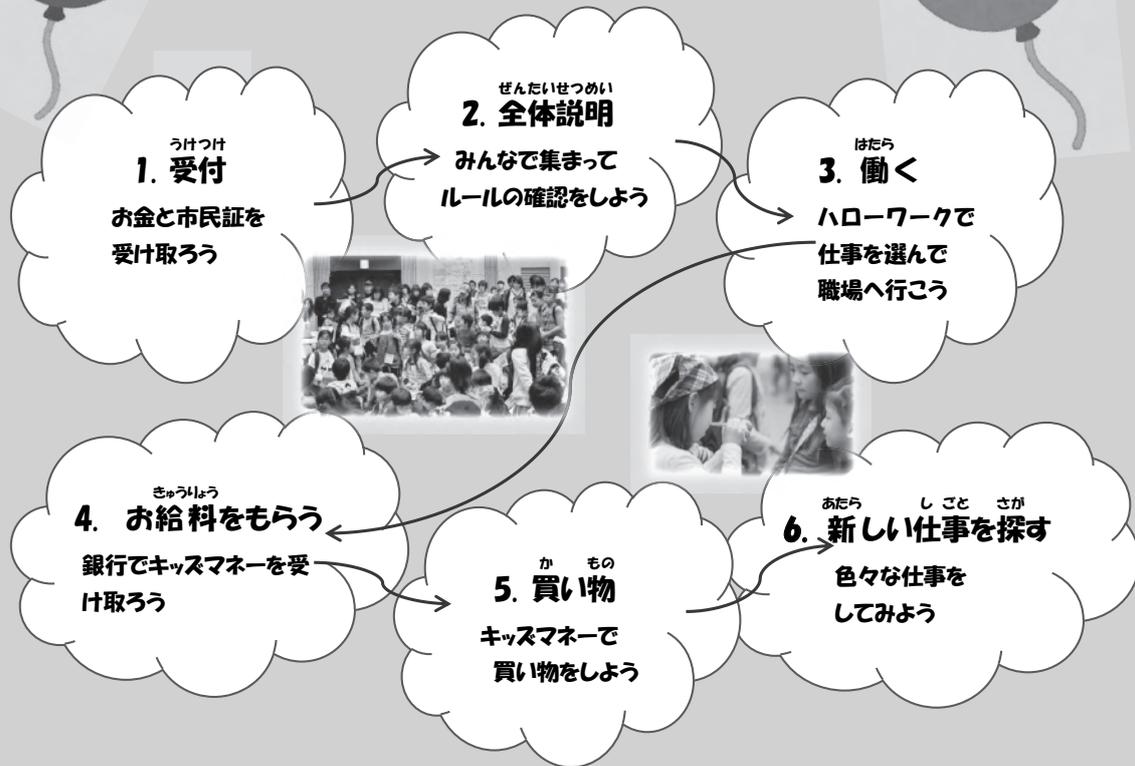
参加された方だけのお得な情報や

地域防災情報など多数得点あります♪

ディオンちゃんが  
くるよ♪



# 「キッズシティきんらん」ってどんな街？ ～1日の流れ～



## Q&A

Q1. 当日会場に行って参加することはできますか？

A1. 定員満了の際は、受付を終了しております。ご了承ください。

Q2. 参加費はいつ払うのですか？

A2. 体験学習当日の受付でお支払いをお願いします。

※キッズリーダーは当日も無料です。

Q3. イベントの途中で外に出ることは可能ですか？

A3. 途中で外に出ることはできません。

お子様の安全確保のため、緊急時および帰宅時以外は外に出ることはできません。

Q4. 昼食はどうするのですか？

A4. 昼食・飲み物などを各自ご持参ください。

●申込み方法：

以下の申込書に記入し、ファックスまたは郵送（2月10日必着）でお申込みください。

**FAX : 06-6872-7894** 〒565-0873 大阪府吹田市藤白台5丁目25番1号 千里金蘭大学児童教育学科  
 ※2月17日(金)までにご案内の封書が届かない場合は実行委員入口（080-8704-6223）までご連絡ください。

キッズリーダー・イベントキッズ参加申込書

お子さまのお名前と学年		保護者氏名
お名前 ( 小学校 年)		
お名前 ( 小学校 年)		
連絡先	住所	〒
	TEL	FAX
参加希望に○	A. キッズリーダー ※全日程参加可	*参加できる日に○をつけてください。 ・2月25日(土) ( )    ・3月4日(土) ( ) ・3月11日(土) ( )    ・3月18日(土) ( ) ※参加日が多い方を優先とさせていただきます。 ※申込者多数の場合は抽選の上、Bでの参加となる場合がありますのでご了承ください。
	B. イベントキッズ ※最終日のみ参加可	*3月19日(日)のみの参加となります。 ※申込者多数の場合は抽選となる場合がありますのでご了承ください。

※ご記入いただいた個人情報におきましては、本学からの案内、キッズシティの案内以外には使用いたしません。

MAP



●千里金蘭大学

〒565-0873  
 大阪府吹田市藤白台  
 5丁目25番1号  
 TEL : 06-6872-7797  
 (児童教育学科)

- ・阪急電鉄阪急千里線「北千里」駅 徒歩で約10分
- ・地下鉄御堂筋線「千里中央」駅 阪急バスで約10分

※このイベントに関するお問合せ

キッズシティきんらん実行委員会 入口まで ( Tel : 080-5704-6223 Mail : kidscitykinran@gmail.com )

# キッズシティきんらん

in dios北千里

子どもが考える、  
子どもだけの街



千里金蘭大学  
キッズシティきんらん実行委員会

## キッズシティとは



子どもたちが街の住人として仕事をし、給料を得て、買い物をするという模擬経済活動を体験しながら協力する楽しさなどを育むプログラムです。

## なぜこのイベントを開催したのか

キッズシティすいたでは、150人の子どもたちと大学内で一つの街を作り上げました。

平成27年3月28日・29日に、千里金蘭大学内で行われた「キッズシティすいた」の経験から、もう1度開催したい、学生主体でイベントを行いたいと考え、児童教育学科現4年生の有志が集まり企画しました。

## 私たちの活動した場所



## 「キッズシティきんらん」の目的

- ① 子どもが自由に考え、創造する場の提供
- ② 商店街とのコラボ
- ③ 学生が主体的に活動する試み



子ども・地域社会・大学（学生）  
3者の協働という実践

## ①企画・運営

- ・ 学校の先生方、事務局の方にイベント開催の相談
- ・ バックアップの援助を頂く
- ・ 学校でのプレゼン
- ・ 商店街の会議への参加

学生自らの考えを取り入れたイベント活動に！

## ②参加者募集の案内作成

- ・ 学校内でのチラシ配布・ポスター設置・説明会の実施
- ・ 公立小学校（3校）へのチラシ配布  
→吹田市教育委員会からの後援
- ・ 「キッズシティすいた」参加者へのDM発送
- ・ DIOS北千里専門店会の各店舗にチラシの設置
- ・ 委員会メンバーによるFM千里ラジオでのPR

キッズリーダー18名・イベントキッズ83名  
の子どもたちが、集まりました

## ③商店街とのコラボ

子どもたちとDIOS北千里専門店会とのコラボで  
仕事を体験しよう！

- ・ FM千里（ラジオ番組）に生出演
- ・ J:COM（テレビ）とのコラボの実施
- ・ DIOS北千里専門店会のアピール（クーポン配布）
- ・ DIOS北千里にあるイベントホールでの実施
- ・ 「ゆめシール」の参加費への代用

dios北千里の活性化！賑わいに！

## ④その他イベントに必要であった活動

- ・ ①参加者個人情報の管理
- ・ ②子どもたちが自由に使える材料の寄付
- ・ ③会議の内容や会場の設置（レイアウト）
- ・ ④後援や資金等の資料作成

学生メンバーどの活動も初経験、  
自身のスキルになりました！

## ⑤こども会議

<第1回目>  
キッズシティのテーマ  
「笑顔の街」

子どもたちは  
元気よく手を挙げて  
自分の意見を伝えていました。

街のルールを決める

子どもたちは真剣に考え、  
笑顔の街とは  
なんだろうという  
テーマに沿って話し合っています。

<第2回目>  
お店の決定  
<第3回目>  
売るものの決定  
市長の選出

## ⑥前日準備の様子

- <こどもたちと>  
○こどもたちと会場の確認  
○お店の準備  
○市役所で育つ  
「みんなの木」の設置



- <学生>  
担当の確認  
受付等の把握・準備  
荷物の搬入

本番に向けてワクワクしながら  
一生懸命店づくりをしていました。

## ⑧DIOS北千里とのコラボ

○J:COM

○ゆめシール

・会場には、ざっくうと  
撮影の方が来場してくだ  
さいました。

・子どもたちには、メモ  
帳と絆創膏のプレゼント  
がありとても喜んでいま  
した。

・ゆめシールとは、DIOS  
北千里でお買上・ご利用  
200円ごとに1枚お渡  
のシールです。

・イベントでは30枚で  
300円の参加費として  
利用して頂きました

## ⑧DIOS北千里とのコラボ

### OFM千里ラジオ

・千里ニュータウン地域のコミュニティFM局です。周波数83.7MHz

・今回は、北千里のスタジオで子どもたちが1時間の間交代で出演しました

結果

<子どもの反応>  
ラジオに出演して  
自信がついた！  
仕事について  
学ぶ機会ができた！

・子どもはイベントを通して  
地域をよく知るきっかけ  
となった

## 本イベントから得たもの

### 子ども

- ・主体的に活動しようという意欲の向上
- ・仲間と協力し物事を成し遂げる良さを実感
- ・試行錯誤し作り上げることの達成感
- ・自分の意見が言えることによる自己肯定感の育成

### 学 生

- ・イベントを企画・運営する方法、技術の学び
- ・子どものやる気・考える時間のサポートの実施
- ・子どもの抱く仕事観を実感

### 地 域

- ・若者がdios北千里を知って利用する一助
- ・地域課題の解決のきっかけ

101人の子どもたちと地域・学生のもので一つの  
「キッズシティきんらん」という街が誕生しました

## 学生発表①

活動テーマ	地域の魅力発見と発信、地域の皆さんのコミュニケーション作り
活動場所	大阪府豊中市、大阪府泉大津市
連携先	大阪府豊中市、大阪府泉大津市
活動主体	大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース

### 1. 活動概要

地域をリサーチし、その特徴や住民の皆さんの地域への思いや課題などを見つけ、そこに芸術を学ぶ学生としてアートの中でアプローチを試みる。

- 豊中チームは、公園に仮設の銭湯を出現させ、そこに集い、幅広い世代の初めてそこで会う人同志の交流を図った。普段見慣れた公園が学生の手によって異空間に生まれ変わることで「ごっこ遊び」的な体験に難なく入りこむことができ、銭湯特有の「裸の付き合い」を展開できる、ということを実現した。2017年度も継続して活動を展開中。
- 泉大津チームは、地域の特色である織物産業に着目しその素材を生かすことと、仮設の物語の中で、子供たち一人一人が楽しんで自分のもの作り（帽子制作）ができるワークショップを実施した。場作りやキャラクター、ストーリー作りを綿密に行い、非日常の時間、空間の中でのもの作りワークショップは参加の子供たちの制作意欲を高揚させ、多くの個性的な作品が制作された。

### 2. 年間計画

2016年7月 豊中市・泉大津市の担当者よりの今年度のアートイベントの概要説明（本学にて）  
2016年9月～10月 現場リサーチ（計4回）実施。実施予定の内容のプレゼンテーション（本学にて）  
2016年11月 豊中市庄内の公園および泉大津市シルクピアにおいて、アートイベント実施  
2017年1月 活動成果の展示と報告会（両イベント合同で大阪府立江之子島文化芸術創造センターにて）  
2017年2月 成果報告冊子制作  
2017年4月～ 豊中市での新たなアートプログラムのスタート。  
2017年4月～6月 リサーチ、テーマ設定、撮影、編集作業等  
2017年7月 展示と映像の上映（表現教育コース3年生展において、大阪府立江之子島文化芸術創造センターにて）

### 3. 活動成果

- 豊中市での活動のテーマは、「想像（創造）しながら楽しむ」場を作ることであったが、その意図が参加者にどの程度伝わるのかが成果に繋がる判断材料であったが、思いの外、子供から大人まで多数の参加者が仮設の銭湯でのすべての体験を抵抗なくこなし、そこでの学生や他の参加者との会話を面白がり楽しむ状況が確認された。銭湯が多い地域の特徴をベースにしながらか非日常的景色を形造ることができた。
- 泉大津市での活動は、地域の産業、特産物を生かしながら、子供の想像力をかき立て、意欲的に造形活動に取り組んでもらうことであった。用意した素材や、そのセッティングのために用意した舞台装置、また学生が扮するキャラクターが誘う物語の世界の中で子供たちはその意図に応じて、充実した活動を行ってくれた。多数の参加者がありそれぞれに思い入れがありこだわりのある作品が制作された。

#### 4. 地域からの評価

- 銭湯が多いこの地のコンテキストも読み取った作品が小さな公園にインストールされた。学生のキュレーショナルな視点に先生方のご指導も相俟って、ともすれば制約として作用しがちな現地の樹木や遊具などの要素が作品の構造に見事に活かされサイトスペシフィックな滋味が増幅された。子どもから高齢者まで集い語らう様に、参加型アートとしての豊かな関係性の生起と深化が見られた。(豊中市魅力創造課)
- イベント当日は個性的な帽子をかぶった子どもたちが楽しそうに過ごす姿が会場に溢れ、会場を盛り上げてくれました。その雰囲気と学生の姿を見て主催する市民グループのマインドに大きな変化があったことは今後の文化祭実施に当たり非常に重要なことであった。(泉大津市教育委員会事務局)

#### 5. 参考WEBサイト

なし

#### 6. 活動メンバー

芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース 3年生  
岩元遥奈、大久保朱音、久保涼香、小西健太、廣坂慎也、湯澤龍一、松浦有佳、米塚キアラ  
芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース 4年生  
清水絵理香、塚本亜海、中村和花、林飛鳥、宗定寿莉、松原悠香

#### 7. 担当教員

芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース  
大手裕子、八木遼蒼、森野晋次、高坂玲子、藤原昌樹

#### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪成蹊大学	
所属先・職名	芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース 教授	
氏 名	大手裕子	
連絡先	電 話	06-6195-2831
	メー ル	ote@osaka-seikei.ac.jp

9. 活動の様子

なんちゃって銭湯  
そうぞうの湯



平成 28 年 11 月 26 日

大阪成蹊大学 芸術学部 表現教育コース

## グループ紹介

### 銭湯千尋とは・・・？

大阪成蹊大学 表現教育コースの2・3年生で構成されたプロジェクトチームである。平成28年度前期までは各学年で活動してきたが、後期は2・3年生混合の2チームに分かれた。その一つが銭湯千尋の豊中チームである。

銭湯千尋とは、「銭湯」+「千と千尋の神隠し」を合体させたチーム名である。なぜ千と千尋の神隠しなのかというと、そのアニメの中で銭湯に入っているシーンがあることや、「銭湯」と「千と」という部分の語感が似ていることから、その名前に決定した。



## プロジェクトの企画

なんちゃって銭湯そぞろの湯とは・・・？

平成 28 年 11 月 26 日（土）に豊中市内で行われた「きむらとしろうじんじん野点 in 庄内+豊中プチ妄想屋台」にて『なんちゃって銭湯そぞろの湯』を行った。"服を着たまま裸の付き合い"をコンセプトに、混浴の湯船・洗い場・サウナなどで老若男女関係なくコミュニケーションを取ってもらい、想像（創造）しながら楽しんでもらうことができるワークショップを目指した。なぜ銭湯にしたのかというと、11月26日は「いい風呂の日」ということと、庄内にはたくさんの銭湯があるということがわかったので、『なんちゃって銭湯そぞろの湯』に決定した。実際に庄内の銭湯の方から桶をお借りするなど、庄内の地元の人との関わりを持てるように企画をすすめた。



3

## 準備

### 視察

私たちは豊中プチ妄想屋台を作るにあたって数回豊中市庄内へ視察に行った。豊中市の担当の方からのお話を伺い、さらに庄内に住んでいる方々にインタビューを実施した。



### 重の井温泉

庄内にある銭湯や温泉から実際に使われているものを使いたいと思い「重の井温泉」に協力していただくことができた。ご主人から重の井温泉の歴史や思いを聞いた。

## なんちゃって銭湯作業開始！

作るものの担当を決めて、約2ヶ月間で作っていった。大きいものから細かいものまであったが、それぞれの得意分野を活かし、制作した。



### 湯船

設計図を描いて採寸をし、その採寸通りに木材を切って組み立てた。



### 番台

段ボールを切って組み立てて、イベントカラーで塗った。



### 流し台

段ボールを切って組み立てて、イベントカラーを塗った。



### サウナ

骨組みを完成させた後に、ベニヤ板をはった。



### 牛乳瓶を入れる箱

段ボールを切って組み立てて、イベントカラーを塗った。



### タオル

シルクスクリーンプリントで、タオルに青と赤色で「そうぞうの湯」を刷った。



### 下足箱

段ボールで鍵やそれを入れる所を作った。

5

## イベント当日

天気にも恵まれ、たくさんの方に来ていただいた。神様が子どもたちに怖がられるのではと心配したが、私たちが思っている以上に受け入れてもらえ、楽しんでもらったのではないかと思います。一回だけでなく何回も来てくれた方もいて、老若男女関係なくコミュニケーションがとれる場所になったのではないかと思います。

### なんちゃって銭湯の入り方

#### 番台



最初にここで入浴方法を聞き、バスタオルを服の上から巻いてもらう。そして、なんちゃって銭湯そぞうの湯オリジナルのタオルをプレゼント。入浴料の代わりに番台さんとハイタッチしたらいよいよ入浴である。

#### 湯船

のれんをくぐると湯船には落ち葉が敷き詰められており、お客さん同士で落ち葉の掛け合いをしていた。おもちゃのアヒルを使ってごっこ遊びをしたり、綺麗な落ち葉を探したりしていた。



6



### 流し台

入浴が終わったら、洗い場へ行く。しっかりと頭や体を洗う動作をしたり、背中を流している方が多く、お客さんとたくさん笑い合っ楽しむことができた。

### サウナ

流し台が終わったら、サウナへ行く。そこには熱く焼けた石にみたてたオブジェがあり、それを触ったら「熱い！やけどしちゃった！」と笑いながら楽しんでいた。



### 神様

サウナを楽しんだ後は、神様だ。下駄箱のかぎを模した木札に願い事や感想などを書いて神様に届けると、それを読んだ神様がリアクションやアドバイスをくれる。子どもたちが何回も来てくれ、楽しんでもらえた。

### かぎ

神様に届けた木札を、この下駄箱の所にさす。そこにはカメレオンや靴が隠れていたりなどの工夫がされており、子どもたちも喜んでいました。



### 飲み物

最後に入浴後には欠かせない、(本物そっくりの)牛乳を飲んでいる真似をして、記念撮影をした。



## 振り返り

今回初めて2・3年生で協働したということもあり、戸惑う部分が多かったです。しかしそれぞれの学年の良さや特徴が分かって、それを活かしたワークショップになったのではないかなと思います。作業では大きいものを作るのが得意な人、細かい作業をするのが得意な人など、一人ひとりの得意分野が活かされたのではないかなと思います。

今回のワークショップは、「きむらとしろうじん じん野点 in 庄内+豊中プチ妄想屋台」の企画の一部として参加させていただきました。私たちの「なんちゃって銭湯そうぞうの湯」は、想像（創造）しながら楽しむというものでしたが、当日までお客さんが想像（創造）していただけるのかどうか不安でした。しかしその不安を吹き飛ばすように、老若男女関係なく想像（創造）していただいて嬉しかったです。そしてお客さんが銭湯に落ち葉を入れたり、鍵に葉っぱをつけたりなど、私たちでは思いつかなかったことをして、お客さんの発想があったからこそ、より良いワークショップになったのではないかなと思います。

今回のワークショップの目標である「混浴の湯船・洗い場・サウナなどで老若男女関係なくコミュニケーションを取ってもらい、想像（創造）しながら楽しんでもらう」ということが、まだ少し不足している部分はあると思いますが、達成できたのではないかなと思います。

表現教育コース2年 岩元 遥奈

## 関係者からの言葉

芸術学部美術学科の学生さんとは、本市主催「きむらとしろうじんじん 野点」での出展などで関わらせていただき、本年度で3年目のお付き合いです。本年度は開催会場である本市庄内の公園において、ワークショップ「そうぞうの湯」を出展していただきました。

「そうぞうの湯」は、シャワーのノブやサウナ室の内外装などきめ細かいところまで作りこんだ作品でした。さらに、学生さんたちが子どもたちにより喜んでもらおうとする工夫（落ち葉浴槽、神の出現など）が随所に見られ、ひとつひとつの質の高さが光っていました。

1か月あまりの短期間でこれだけの作品を完成させる学生さん、そしてご指導された先生方のご苦労されたと思います。そして、企画立案から完成までのプロセスにおいて、学生さんの純粋でまっすぐに作品に取り組む姿勢には感動しました。本当に素晴らしいチームでした。ありがとうございました。

豊中市 都市活力部 魅力創造課  
浜田元帥

晩秋の陽射しが穏やかな11月26日（土）の庄内。「いい風呂の日」という語呂合わせだけでなく、銭湯が多いこの地のコンテキストも読み取った作品『なんちゃって銭湯 そうぞうの湯』が小さな公園にインストールされました。ディテールの造作にもこだわりを見せた湯船や洗い場の現出が見慣れた日常を変異させ、内部空間と外部空間が溶融する想像と創造の場が立ち現われました。学生の皆さんのキュレーショナルな視点に先生方のご指導も相俟って、ともすれば制約として作用しがちな現地の樹木や遊具などの要素が作品の構造に見事に生かされ、サイトスペシフィックな滋味が増幅されます。会場に隣接する共同住宅の住人から贈られた花や、貴学建学理念の「桃李成蹊」に因んで「アート成蹊」とでもいいおおせるほどに、引きも切らず子どもから高齢者まで集い語らう様に、参加型アートとしての豊かな関係性の生起と深化が垣間見られました。貴重な創作の現場に与らせていただきありがとうございました。

豊中市 都市活力部 魅力創造課  
加藤 隆司

なんちゃって銭湯 そうぞうの湯  
きむらとしろうじんしん野点 in 庄内  
+ 豊中プチ妄想屋台 × 銭湯千尋

日時 | 平成 28 年 11 月 26 日 (土)

会場 | 豊中市幸町 3 丁目公園

メンバー | 塚本亜海  
林飛鳥  
槇野彩音  
岩元遥奈  
大久保朱音  
久保涼香  
廣坂慎也  
松浦有佳  
湯澤龍一

協力 | 豊中市都市活力部魅力創造課  
室田泉  
水野摩利枝

編集 | 林飛鳥 岩元遥奈

発行 | 大阪成蹊大学芸術学部  
造形芸術学科表現教育コース  
(平成 29 年 2 月 9 日発行)

## きみの帽子屋さん



平成 28 年 11 月 26 日

大阪成蹊大学 芸術学部 表現教育コース

## グループ紹介

### 「きみの帽子屋さん」メンバー

表現教育コースの2年生4名と、3年生4名の計8名のメンバーで実施しました。当日は1年生4名も手伝ってくれました。

(2年生)

小西健太、檜木璃子、山田ほのか、米塚キアラ

(3年生)

清水絵理佳、中村和花、松原悠香、宗定寿莉



2

## プロジェクトの企画

### きみの帽子屋さん

泉大津市のテクスピア大阪で平成 28 年 11 月 26 日に開催された「ごかんのおまつり」内で、ワークショップ「きみの帽子屋さん」を実施しました。

学生があらかじめ用意した帽子の型に、参加者が布を、「布の泉」や「布の木」から選んで貼り付け、自分だけの帽子を制作してもらいました。

布の種類として、私たちが用意した古着と、「ごかんのおまつり」参加者の方に譲っていただいた泉大津の名産品の毛布を用意しました。

また、制作の途中で、「謎の帽子屋さんコニー店長」に扮した学生が参加者に指導するという設定で、「頑張っているみんなにプレゼント」と称して飾りに使うビーズを手渡しました。



## 開店準備に向けて

### 視察と話し合い

10月4日、テクスピア大阪での帽子屋開店に向けて、私たちは現地へ視察に行きました。しっかりと会場の様子を把握してからは、当日に必要なものなどをチームで話し合い、少しずつ準備を進めていきました。本番は11月26日。短い準備期間でしたが、予定を立てながら計画通りに準備を進めることができました。



4

## 作業の様子

### 開店に向けての制作活動

帽子屋では、参加者の皆さんに帽子の型を渡し、アレンジを加えてもらうため、周辺にある布の森や泉で布を集めてきてもらいます。

自然に囲まれた帽子屋を演出するため、高さ150 cmの大きな木と、120 cmの小さな木を2本ずつ組み立て、さらに、深さにこだわった泉も制作しました。布の泉には、オーロラのような色の布や、透け感のある布、ふわふわの毛布などを入れ、きらきらとした美しい泉を表現しています。また、より帽子にオリジナル性を持たせるために、素材屋というリボンやアクセサリーを揃えたお店も用意しました。これらのすべては厚みのある段ボールで制作し、安全性にも配慮しました。



つばの無いノーマル型、キャップ型、ハット型の3種類から選べる帽子の型も、一つ一つ私たちが作りました。実は、帽子の正体はスチレンカップ。段ボールで作ったつばを付けて、上からベースとなる布を貼ります。好きな帽子の型を選んでもらうことで、参加者の皆さんの「こんな帽子を作りたい」をより形にできるようにしました。



ベースの布が見えなくなるまで、古着を貼ったりアクセサリーをつけるとかっこよく仕上がります。

6

## プロジェクト当日

### 当日の様子

11月26日、会場は朝から大勢の人でにぎわい、第1回が実施された10:30頃には5人程度だった参加者も、第3～5回の実施時にはたくさんの方に参加していただき、席が足りなくなったこともありました。子どもはもちろん、大人の方にもたくさん参加していただき、当日は大盛況となりました。





ワークショップは1回45分のタイム制で行なわれ、参加者の皆さんは熱心に取り組んでくれました。持参の古着などを持ってきてくれた方もいて、皆さん帽子づくりを楽しまれていました。



8

## 振り返り

今回のワークショップ、『きみの帽子屋さん』は、2、3年生双方にとって初めての他学年との合同ワークショップとなりました。

今回、最も良かった点は、子どもたちの創作意欲が高く、こちらも驚かされるような作品を制作してくれたことだと思います。要因として、まず、コンセプト・対象が明確であったこと。次に、こみち幼稚園さんで事前に試作版のワークショップをさせていただいたことによって、子どもの制作ペースや、ある程度の出来上がる作品の予想ができていたこと。最後に、帽子の基礎がシンプルで個性が出しやすかったこと。基礎がシンプルであったからこそ、親御さんも一緒に熱中してもらえたのではないのでしょうか。他にも、“幻の帽子屋コニー店長”から途中でビーズを手渡しするという展開の組み方も良い方向へ働いたと思います。作りたくなる雰囲気作りが大切だと感じました。

気付き・反省点としては2つあります。まず、最初の参加者が少数であったこと。回を重ねるごとに参加者は増えていったのですが、1回目のワークショップの際に集客が不十分だったための結果だと思います。次のワークショップでの改善点として意識していきたいです。2つめに、私たちのワークショップだけで完結してしまったこと。『ごかんのおまつり』の他ブースとも関わられるような形になればより良かったのではないかという意見をいただきました。

『きみの帽子屋さん』では、子どもたちに楽しんでもらうだけでなく、私たちも楽しんでもらうことができました。この気持ちを大切に、今後のワークショップに活かしていきたいと思います。

表現教育コース3年 中村和花

## 関係者からの言葉

泉大津市では、「泉大津市文化祭」のプログラムの1つである「ごかんのおまつり」の中で、「1日ハッター体験」をご提供いただきました。まずは各関係の方々にお礼申し上げます。

今回の事業は、昨今、産学官連携、アクティブラーニング、大学の地域貢献などが求められる中で、まさに自治体（地域）のニーズと大学のニーズ（アクティブラーニング）が合致した事業であったと思います。

泉大津市文化祭は、市民に発表機会を提供するために開催されてきましたが、参加者の固定化など多くの課題を抱えていたことから平成27年度にenocoの支援のもと、リニューアルに着手しました。その中で、「次世代育成」というコンセプトに辿り着き、市民グループとともに子どものためのプログラム企画を進めていたところ、「エノコ このこ？アートのごども！！」展にて大手先生とお会いし、今回の事業実施に至りました。

イベント当日は、個性的な帽子をかぶった子どもたちが楽しそうに過ごす姿が会場に溢れ、何よりも会場を盛り上げてくれました。その雰囲気と学生の姿を見て、主催する市民グループのマインドに大きな変化があったことは、今後の文化祭実施にあたり非常に重要なことであったと思います。学生だけでなく、地域の人間にも学びを提供している点で、こういった取り組みは意義深いのではないのでしょうか。

enocoで各々のニーズを知ったことから始まった連携と考えると、まずは互いのコンテンツをよく知り合うことが重要であり、情報を深めることでさらなる展開があることに期待し、継続的に連携できればと考えています。

泉大津市教育委員会事務局教育部 生涯学習課  
大和 宏行、西田 章恵

きみの帽子屋さん  
ごかんのおまつり × Hatter

日時 | 平成 28 年 11 月 26 日 (土)  
会場 | テクスピア大阪

メンバー | 清水絵理佳  
中村和花  
松原悠香  
宗定寿莉  
小西健太  
檜木璃子  
山田ほのか  
米塚キアラ

協力 | 泉大津市

編集 | 中村和花、米塚キアラ

発行 | 大阪成蹊大学 芸術学部  
造形芸術学科表現教育コース  
(平成 29 年 2 月 9 日発行)



## 大阪成蹊大学表現教育コース あそ美 LAB

こんにちは！私たちは、大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース 3年生のチームです。



『一人ひとりが研究者！みんなで美術の楽しさを知る！』をコンセプトに、2016年4月から活動しています。わくわくの化学変化をみんなで起こそう！！

そんな私たち、あそ美 LAB の今までの活動を紹介します！

## ミノオ トノ ソウグウ ～アートで未来を想造する～

平成 28 年 7 月 31 日

箕面公園夫婦橋休憩所

私たちあそ美 LAB は 2016 年 7 月 31 日に箕面公園の夫婦橋休憩所にて『ミノオ トノ ソウグウ ～アートで未来を想造する～』というタイトルでワークショップを行いました。

このプロジェクトは箕面公園プロジェクト 2016『まちやま/ACADE・MIX』として「人と自然が織りなす風景をつくる」をコンセプトに実施するものです。新しい休憩所などを設計した大阪大学建築工学専攻の学生や箕面公園を管理している管理事務所と協力しながら 2016 年の春、リニューアルした夫婦橋エリアにアートと建築による新しい箕面の風景を生み出すべく、活動を始めました。

今回の『ミノオ トノ ソウグウ ～アートで未来を想造する～』は、箕面の風景の素晴らしさを目に焼きつけてもらいたい、今までにない体験で心に残る一日を、人とヒト、自然とヒト、箕面とヒト、などのつながりをアートの力で生み出したい、という 3 つのテーマをもとに企画したものです。ワークショップや箕面の自然を通して参加者に 10、20 年先の未来はどうなっているのかを『想像』し『創造』してもらうことを目指しました。

そこで考えたのが、UFO です。誰も見たことがない UFO をシンボルにすることにより、本当に存在するのか？この先 UFO はどうなるのだろうか？と、参加者に自由に想造してもらえるのではないかと考えました。



## むしのおまもりやさん

平成 28 年 9 月 18 日、10 月 16 日、11 月 20 日

箕面公園昆虫館

箕面公園昆虫館と協力しての 3 回に亘りワークショップを行いました。このワークショップでは、昔から様々なことに活用されているという『玉虫』を題材に玉虫色のおまもりを参加者の方たちと作っていました。

どのようなワークショップにするかを館長さんと協議していきながら、昆虫が好きな子も、昆虫が苦手な子も、親しみを持ってもらえるような内容を考えていきました。

### ○作り方○

#### 1. おまもりくじを引く

(タマムシ：幸運 カブトムシ：健康運 チョウチョ：恋愛運…全 8 種類＋シークレット)

#### 2. くじで引いた昆虫を黒く塗りつぶす

#### 3. マーカーで色を塗る

#### 4. 好きな玉虫色を選ぶ

#### 5. レジン液を塗って UV ライト当てる

#### 6. レジン液が乾いたら完成！



## なんちゃって銭湯 そうぞうの湯

平成 28 年 11 月 26 日

豊中市庄内

このプロジェクトでは、表現教育コースの現在3年生4年生の混合の2チームで活動しました。その一つが豊中市で行ったこの活動です。ワークショップを行った豊中の庄内にはたくさんの銭湯があり、昔から利用者さんたちのコミュニケーションの場としても活躍していました。そこで、ワークショップが行われる11月26日を「いい風呂の日」とかけて準備を進めていきました。実際に、豊中市庄内にある銭湯の桶をお借りするなど、地元の人とも関わりが持てるようにしました。

「なんちゃって銭湯 そうぞうの湯」では“服を着たまま裸の付き合い”をコンセプトに、混浴の湯船、洗い場、サウナなどで老若男女関係なく、コミュニケーションを取ってもらい、「そうぞう」してもらうことを目指しました。



## きみの帽子屋さんワークショップ

平成 28 年 11 月 26 日

泉大津市

きみの帽子屋さんは平成 28 年 11 月 26 日に泉大津市、テクスピア大阪で開催された「ごかんのおまつり」内で実施したワークショップです。

2 年生 4 人 3 年生 4 人（平成 28 年度）でこの企画を進めていきました。



学生があらかじめ用意していた帽子の型に「布の泉」や「布の木」から布を選んで貼り付け、自分だけの帽子を制作してもらいました。布の種類として、私たちが用意した古着と「ごかんのおまつり」に参加された方から譲っていただいた古着や、泉大津市の名産品である毛布を用意しました。

また、制作の途中で「謎の帽子屋さんコニー店長」に扮した学生が参加者に指導するという設定で「頑張っているみんなにプレゼント」と称して飾りに使うビーズを手渡しました。

自然に囲まれた帽子屋を演出するために布を歩いてとってもらうための泉や木を制作し、より帽子にオリジナル性を持たせるために、素材屋というリボンやアクセサリーをそろえたお店も用意しました。これらのすべては厚みのある段ボールで制作し、安全性にも配慮しました。

帽子のもととなる素材はスチレンカップで、つばのないノーマル型、キャップ型、ハット型の 3 種類があり、段ボールで作ったつばを付けて上からベースとなる布を貼りました。好きな帽子の型を選んでもらうことで、参加者の「こんな帽子を作りたい」をより形にできるようにしました。



当日、会場は朝から大勢の人でにぎわい、序盤は 5 人程度だった参加者も中盤にかけてたくさんの方に参加していただき、席が足りなくなったときもありました。子どもはもちろん、大人の方にもたくさん参加していただき、当日は大盛況となりました。ワークショップは 1 回 45 分のタイム制で行われ、参加者の皆さんは熱心に取り組んでくれました。持参の古着などを持ってきてくれた方もいて、皆さん帽子づくりを楽しまれていました。

## 土曜なのに早起き

平成 29 年 7 月 11 日～16 日

今回のプロジェクトでは豊中市活力部魅力創造課の方達と連携し、豊中市の魅力を伝えるため『土曜なのに早起き』という映像作品をつくりました。作品をつくっていくにあたって、豊中市をリサーチし、豊中市の人たちにインタビューをし、さまざまな人たちにお話を聞き、関わっていきました。

この作品では、

- ・マチカネくんのしっぽを触ると本当に幸せになれるのか？
- ・豊中市のすみっこはどこなのか？
- ・『ロマンチック街道』はなぜ『ロマンチック街道』というのか？

など豊中市についてのさまざまな疑問について調査し、あそ美LAB なりに楽しく解決しました。豊中市についてよく知っている人、あまり知らない人など、さまざまな方にこの映像を通して知っていただけるように工夫しました。



## まとめ

美術が身近に感じられるツールになってきている  
身近になっているから他のものに関連させることができるようになった  
アートが地域や人とのかかわり、社会と共存できることに気付いた

私たちが地域と連携し WS を行うことで地元の人々が新たに気付けることや、その他の方々にその地域を知ってもらいきっかけづくりができたと思う

私たちがアートを通じた WS の企画し、行うことで地元の方同士だけではなく、はじめて訪れた方が地元の人たちと交流することもできた。



## 学生発表⑫

活動テーマ	デザインのでじもとの課題を創造的に解決する
活動場所	大阪府大東市
連携先	大阪産業大学 デザイン工学部
活動主体	大阪産業大学 地元のEもんAとこづくりプロジェクト

### 1. 活動概要

地元のEもん・Aとこづくりプロジェクトは、「じもとで活躍できる人材を育成する」ことを大きな目標として考え、デザインのでじもとの課題を創造的に解決し、じもとを魅力的にするプロジェクトです。

「じもと」とは、住んでいるまちとイメージされがちですが、「大学があるまち」「バイト先のあるまち」「好きな店のあるまち」等々「住・学・働・遊」といった個々人の生活スタイルにより様々に捉えることができると考えます。

自分の身近な環境＝「じもと」を持ち、それらを良好な環境に変えることができれば、生活環境全体が少しずつ魅力的なものになります。学生の力でじもとの停滞した動きを活発にしていくことを目指します。

### 2. 年間計画

4月 新入生ガイダンス	10～12月 学会発表
5月 新入生歓迎会	1～2月 活動冊子制作
9月 第8回ザ・夕涼み	3月 成果発表会

### 3. 活動成果

2016年度ECOデザインコンペティション 1次審査通過  
公園・夢プラン大賞 入選  
笑福亭晃瓶のほっかほかラジオに出演 ー第7回「ザ・夕涼み」の紹介・PRー  
土木学会 第10回景観・デザイン研究発表会 ポスター発表  
学長表賞受賞

### 4. 地域からの評価

「深北緑地パートナーズ 学生功労賞」を2年連続受賞

### 5. 参考WEBサイト

<http://fukakita-yusuzumi.net/>

## 6. 活動メンバー

デザイン工学部 建築・環境デザイン学部

岡部大和 河上健人 谷垣有克 平瀬 耕 前田恵那 渡辺貴士 伊藤彩香  
篠坂亮介 邨橋政哉 浅野洋斗 乾 和美 上林由佳 池田 誉 植田健太  
咲花利彦 高田洸希 豊田佑輝 平瀬 耕 藤田誉仁  
リザル インディルワン シレガル 守田有希

## 7. 担当教員

建築・環境デザイン学部 教授 川口将武

## 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪産業大学	
所属先・職名	デザイン工学部 建築・環境デザイン工学部 3回生	
氏 名	渡辺貴士	
連絡先	電 話	090-5040-5446
	メー ル	osu.edd.news@gmail.com

## 9. 活動の様子



いい ええ  
地元のEもん・Aとづくり  
プロジェクト



大阪産業大学  
発表者：渡辺貴士

大阪産業大学  
OSAKA SANJO UNIVERSITY

## プロジェクト共育

### 社会人基礎力を磨く

自主性・創造性・自己学習能・コミュニケーション能力

専門分野の  
枠組みを越える

学部、大学院の  
学年を越える

学生、教職員の  
協働で課題を越える



地元のEもん・Aとづくり  
プロジェクト(EAプロジェクト)とは？

「地元」で活躍できる人材を育成する  
デザイン力で「地域」を魅力的にする

「地元」=自分の身近な環境

### 発表内容

- ・これまでの活動
- ・野外映画祭 ザタ涼み
- ・つながり企画
- ・活動を通して得たこと



### これまでの活動

- ・だいどうのええもんショッブ
- ・竹姫納豆
- ・川中邸パンフレット制作
- ・グリーンフェスタ
- ・スノーマンフェスタ
- ・タ涼み

## ええもんショップ・竹姫納豆

ええもんショップ



地元住民のコミュニケーションの場をデザイン

竹姫納豆



大東市で増えすぎた竹を再利用した

## 川中邸パンフレット



完成したパンフレット

川中さんを交えて会議を何度も行った

川中邸の価値を広めることのできる、内容に仕上げた



## グリーンフェスタ・スノーマンフェスタ

グリーンフェスタ



つながり企画の二次利用

スノーマンフェスタ



葉っぱと木のワークショップ

## 第8回 ザ・夕涼み

大阪府宮深北緑地  
9月23日

自然の中での映画祭

家族や友達との  
地域の思い出づくり



## 夕涼みとは

私たちは「みんながつながる機会」を創りたい



## 夕涼みでの学生の役割

- ・チラシ制作
- ・缶バッジ、来場者シール
- ・ポップサイン計画
- ・会場演出
- ・ワークショップ

## チラシ制作

映画とイベントの雰囲気を表現



2015



2016



2017

## 缶バッジ・来場者シール

缶バッジ



チラシデザインと統一感を持たせた

来場者シール



遠くからでも目立つ色を使用

## ポップ・サイン計画

会場案内マップや店舗ごとのポップサインをデザイン



## 会場演出 - 竹灯籠 -



帰り道を照らす動線

オブジェクトの役割も果たした



## 会場演出 - 竹ベンチ



会場の雰囲気づくり

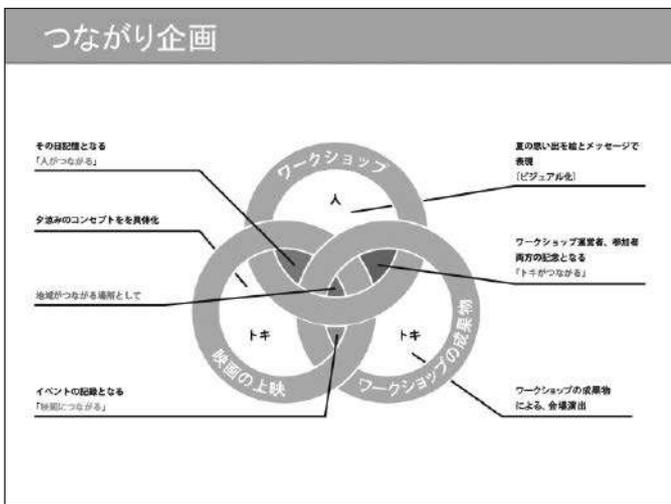
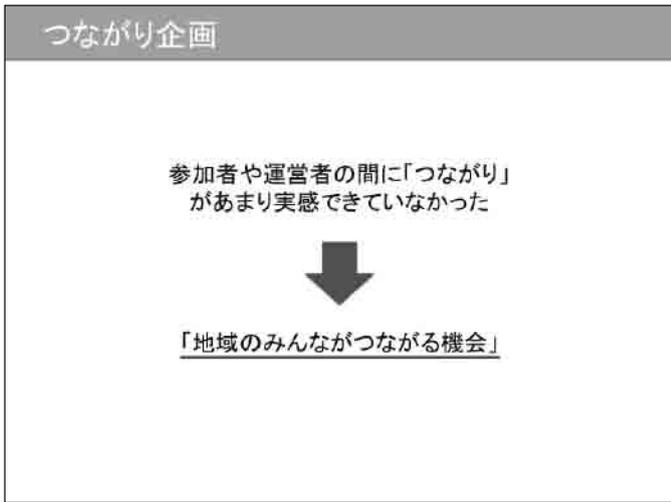
地元の竹を用いて制作



## ワークショップ

学生が企画するワークショップ  
「つながり企画」





第1回つながり企画 -短編映像作品-

夏の思い出をバトンする  
来場者同士をつなげる

短編映像作品

第1回つながり企画 -短編映像作品-

ザ・夕涼み  
みんなてつなげる  
えんていんぐ

長編から短編映画へ  
現地で編集を行い  
エンディングに上映した

短編映像作品

企画書

第2回つながり企画 -ランチョンマット制作-

何度も会議を行い  
企画を固めた  
映画にちなんだデザインに  
仕上がった

ランチョンマット

### 第2回つながり企画 -ランチョンマット制作-



ステンシル型枠

#### ステンシルワークショップ

同じランチョンマットを会場で  
広げる風景を作り出した。



### つながり企画の改善点

規模が小さく、つながりが薄い



今年度の企画は会場を大きく使い  
会場全体の一体感を意識した

### 第3回つながり企画 -仮装ワークショップ-



仮装短編映像

子どもたちが虫に仮装  
冠とマントを制作



### 第3回つながり企画 -仮装ワークショップ-



クイズや撮影ブースを設け  
会場を駆け回るよう仕掛けた

会場の写真をスライドで上映



### 活動を通して得た力

- ・コミュニケーション能力
- ・企画力
- ・チームワーク、共同力
- ・デザイン能力

### 学生が得た力によって地域に与えた影響

- ・場の雰囲気づくり
- ・学生ならではの発想
- ・団体間でのつながりの形成
- ・地域を魅力的な場へ



ご清聴

★ ありがとうございました！



学生発表⑬

活動テーマ	言語発達に遅れがある子どもたちの発達援助
活動場所	ことばときこえの発達支援センター（大阪人間科学大学 C号館内）
連携先	摂津市内の保育園、幼稚園、小学校、摂津市役所、近隣の医療機関
活動主体	大阪人間科学大学 人間科学部 医療心理学科 言語聴覚専攻 宮地ゼミ

## 1. 活動概要

発達障害児の認知件数は増加の一途をたどっているが、その受け皿となる地域の発達支援機関は飽和状態にある。こうした社会的ニーズに応えるべく、2015年に本学付属の「ことばときこえの発達支援センター」は開設された。

言葉の発達や聞こえの問題を抱える地域の子どもたちと言語聴覚士を目指す学生が、共に学び、共に成長する場として学内に設置され、専門性を活かした発達援助という形で、地域医療、地域福祉に貢献している。

当該施設において、学生はセンター業務の全過程に携わり、言語聴覚士に必要な評価、訓練、援助技術を実践的に学び、同時に“一人の患者様を担当する”という医療従事者としての責任の重みを自覚していく。

現在、北摂地域在住の12名の幼児、児童が利用しており、自閉症やダウン症、学習障害、構音障害、吃音など、一人ひとりのニーズと障害特性に応じた発達援助を提供している。

## 2. 年間計画

### 4月初旬

先輩学生から担当ケースを引継ぐ、または初診の場合、発達経過および現状の問題点をアセスメントにより明らかにする。

### 4月下旬

検査報告書を作成し、ご家族に検査結果を報告する。訓練が必要と判断された場合、保護者の同意を得て訓練を開始する。訓練頻度は2週間に1回、1人1時間を基本とする。

### 6月下旬～7月初旬

連携している幼稚園からの委託を受け、園児80名の聴覚スクリーニング検査を実施。

### 8月、9月

夏期休暇などを利用して、希望があれば園や小学校の先生とコンサルテーションを行う。

大阪府言語聴覚士会が主催する勉強会、症例報告会に参加する。

### 翌年2月

担当ケースの再評価を行い介入効果を検証するとともに、訓練の継続、方向性等について再検討する。

### 3. 活動成果

- 地域の社会資源として認知され、現在は摂津市以外からも多数の申し込みがあり、新規の予約は現在順番待ちをして頂いている状況にある。
- 地域の自治体や他大学からの視察や保育園や幼稚園からの相談などを通して、地域との連携の輪が年々広がってきている。
- 学生の学習意欲が高まり、授業外での自主学習時間や学業成績が飛躍的に伸びている。また、実習や就職先の医療機関からも高い評価を得ている。
- 今年度のセンターでの活動を通して得られた知見や研究成果は、平成30年6月の第19回日本語聴覚学会にて、数名の学生が発表する予定である。

### 4. 地域からの評価

#### 「近隣幼稚園の園長先生から頂いたコメント」

“発達障害”という言葉がニュースなどで取り上げられるようになり、障害に関する社会的関心が高まる中で、子育て中の保護者が我が子の発達に不安を感じられることは多い。「ちょっと発音がおかしい」、「ちょっと言葉の発達がゆっくり」など、実際には、こうした子どもたちがたくさんいるが、専門的な医療機関や発達支援センターにつなげることは難しい。当該センターは地域の相談窓口として、また必要な発達援助が受けられる専門機関としての役割を果たしており、現在の福祉、医療サービスでは手が届きにくい子どもたちを非常に上手くフォローしている。

### 5. 参考 WEB サイト

[https://www.ohs.ac.jp/for\\_visitor/kotobakikoe.html](https://www.ohs.ac.jp/for_visitor/kotobakikoe.html)

### 6. 活動メンバー

人間科学部 医療心理学科 言語聴覚専攻 3年  
浦田菖、置田彩香、出村鼓美、北村真実、片山舞、佐治恭介、林快士、金淳喜、乾祐実、藤井彰大

### 7. 担当教員

医療心理学科 言語聴覚専攻 助教 宮地ゆうじ

### 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪人間科学大学	
所属先・職名	人間科学部 医療心理学科 助教	
氏 名	宮地ゆうじ	
連絡先	電 話	06-6381-3000
	メー ル	y-miyachi@kun.ohs.ac.jp

## 9. 活動の様子



「ことばときこえの発達支援センター」  
における地域連携と学びについて

大阪人間科学大学  
人間科学部 医療心理学科 宮地ゼミ  
発表者 出村 鼓美 浦田 菖

センターの目的

大学

- 新たな学びの形を築き、本学の教育・研究の一層の充実を図る

地域

- 高度な専門機関として、地域医療、地域福祉の一翼を担う

学生

- 障害のある地域の子どもたちと共に学び、共に育ち、より専門性の高い言語聴覚士を目指す

活動の内容

- 言語聴覚療法  
(子どもたちの発達検査、支援計画の作成、訓練、ご家族に対する養育支援など)
- 就学前児のグループ指導
- 園児を対象とした聴覚スクリーニング検査
- 関係機関との共同研究

言語聴覚療法の指導形態

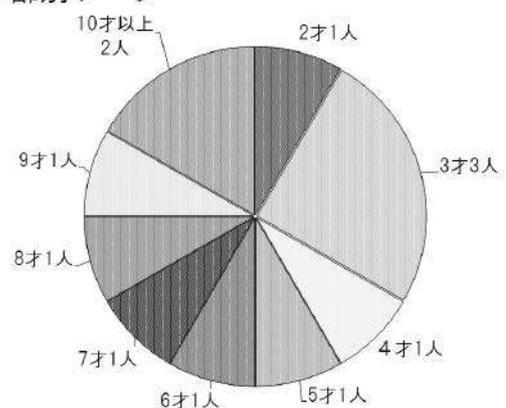
- 毎週金曜13:00~18:00
- 専門医、ST指導教員、担当学生2名がチームを組んで、1人の子どもを担当する。
- 1セッションは60分、完全個別の訓練を基本とする。  
※母親への養育支援を行うため、基本的には母親は同席して頂いている。
- 一人ひとりの障害特性や発達段階に応じて、訓練室内を構造化し、子どもたちに応じたアプローチを行う。

今年度の運営状況について

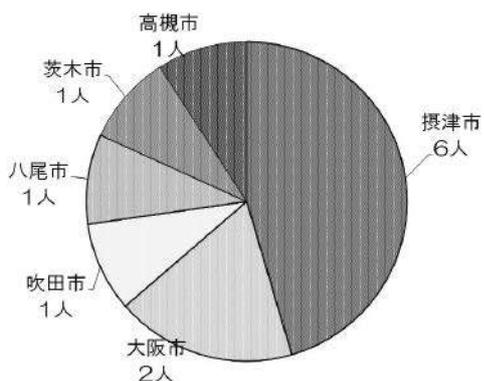


- 現在、3歳から16歳の子どもたちが利用
- 北摂地域の方が中心で、遠方の方の利用もある
- 利用頻度は、月に1~3回
- 様々な発達障害を併存している子が多い

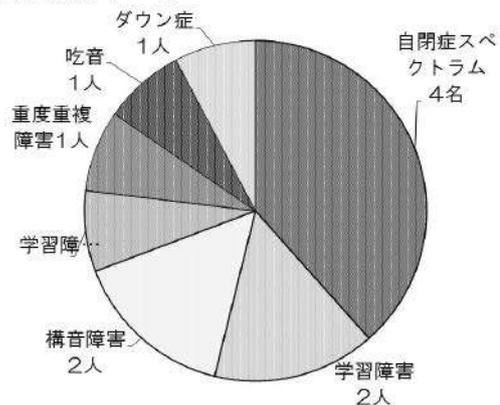
年齢別データ



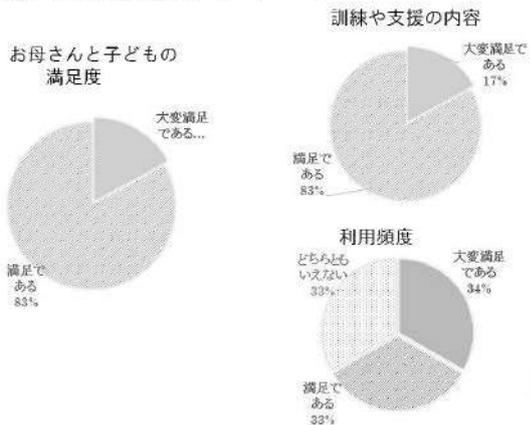
### 地域別データ



### 障害種別データ



### 利用者の満足度アンケート



### 今後の展望



大阪人間科学大学付属  
ことばときこえの発達支援センター

お問い合わせ先  
 所在：大阪府摂津市正雀1-3-30 C号館2階  
 TEL：06-6105-2227  
 Mail：[kotoba@kun.ohs.ac.jp](mailto:kotoba@kun.ohs.ac.jp)  
 (大学HPより、お気軽にお問い合わせください)

担当窓口 言語聴覚専攻 宮地ゆうじ

## 学生発表⑭

活動テーマ	アルティメットを活用した地域親善大使事業
活動場所	大阪市住吉区
連携先	山之内スマイル協議会
活動主体	大阪市立大学 アルティメットサークル 颯和

### 1. 活動概要

大学周辺の山之内地区で地域のお祭りに出店する。また、毎月第一土曜日にスマイル協議会が主催する「子供食堂」にボランティアとして参加する。お祭りでは安全面に配慮して柔らかいフライングディスクを使用し、的を通している。「子供食堂」とは山之内小学生を対象に12:00~16:00の時間で食事（主にカレー）、勉強（宿題）、運動の3つをメインにやる。私たちは運動の時だけでなく、食事の時には一緒にご飯を食べて交流を深めたり、勉強の時には小学生の宿題をみてあげたり、アドバイスをしたりする。アルティメットを通じて多くの小学生と交流し、その交流を通じ地域と大阪市立大学を結ぶ。

### 2. 年間計画

7月16日（日）に山之内小学校で行われた「あいあい祭り」に出店  
10月28日（土）に住吉区役所周辺で行われる「すみよし区民まつり」に出店  
毎月第一土曜日、12:00~16:00にボランティアとして活動する。

### 3. 活動成果

7月16日に行われた「あいあい祭り」では来場して下さる方が152人と予想していたが、実際は予想の2倍の約300人のお客さんが来場して下さり、とても高評価をいただいた。

### 4. 地域からの評価

「あいあい祭り」での活動が評価され、地域の活動団体である、山之内スマイル協議会様に要請されて「子供食堂」にボランティアとして参加することになった。

### 5. 参考WEBサイト

[twitter.com/ocuult](https://twitter.com/ocuult)

## 6. 活動メンバー

経済学部	1回	大平航暉、山田大成、守護岳斗、藤本美貴
商学部	1回	石原翔馬、山崎沙綾、井阪春貴
工学部建築学科	1回	四村 啓
法学部	1回	和田優志
工学部都市学科	1回	両国彰人、土屋拓海
工学部機械工学科	1回	植松香帆、坂本結香
理学部数学科	1回	野村有輝

## 7. 担当教員

--

## 8. 本活動に関する連絡先

大 学 名	大阪市立大学	
所属先・職名	経済学部 1年生	
氏 名	大平航暉	
連絡先	電 話	
	メー ル	

## 9. 活動の様子



地域連携 学生フォーラム in 大阪 2017

# アルティメットを活用した 地域親善大使事業

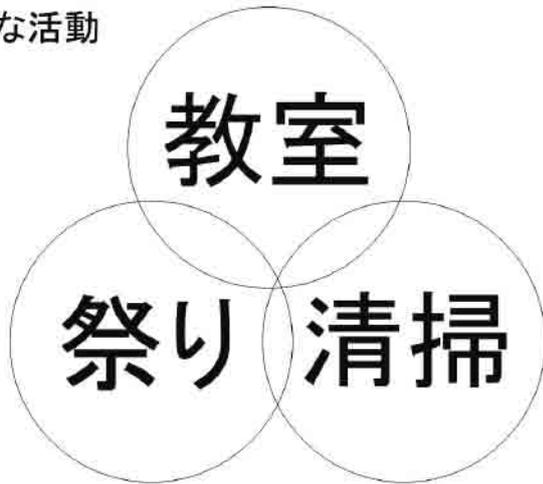
2017年10月1日  
大阪市立大学 颯和

## 地域貢献



1

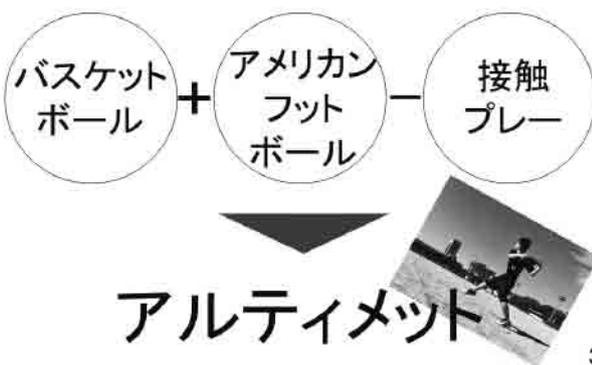
## 主な活動



2

- アルティメットとは
- 現状報告
- 事業内容

## アルティメットとは



3

## アルティメットとは

フライングディスクを落とさずに味方へパスをつなぎ、コート両端のエンドゾーン(ゴールエリア)内でパスをキャッチすれば得点となるスポーツ。

他の球技にはないディスクの飛行特性や、走力、持久力を必要とすることから文字通り“究極”(Ultimate)という名前が付けられた。



飛行特性



走力

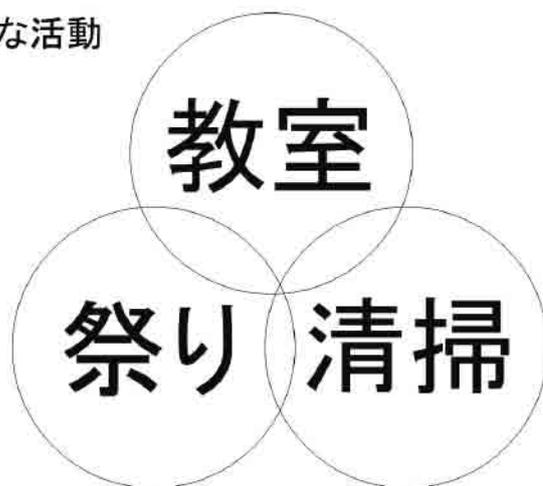


持久力

4

- アルティメットとは
- 現状報告
- 事業内容

主な活動



5

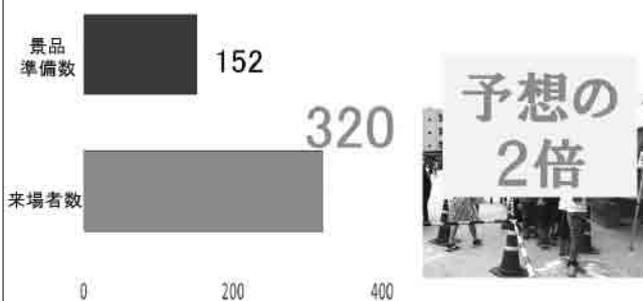
①お祭り出店

あいあいあまつり 報告



6

あいあいあまつり 報告



7

③清掃活動 第1回報告



8

③清掃活動 第2回報告



9

- アルティメットとは
- 現状報告
- 事業内容

## 事業内容

- ①お祭り出店
- ②アルティメット教室
- ③清掃活動

10

### ①お祭り出店 事業概要



目標・目的	・地域イベントへの参加 ・地域との架け橋になる
具体的内容	ドッチビーを使用した通し 三角形、円形、ハート型をくりぬいた的を用意して、的から数メートル離れた場所からドッチビーを投げて的の中を通してもらう
期待する効果	広くアルティメットの魅力を伝えられる 地域の方へ大阪市立大学の広告塔として宣伝できる
対象	大阪市立大学周辺の地域の方々
スケジュール	年2、3回(夏期、秋期、冬季)

11

### ①お祭り出店

#### すみよし区民まつり スケジュール

内容	9月		10月		11月	
	前半	後半	前半	後半	前半	後半
第43回 すみよし区民まつり	9/9 打ち合わせ	9/26 打ち合わせ	準備	10/28 実施	反省会	

12

### ドッチビー



### フライング ディスク



13

### ②アルティメット教室 事業概要

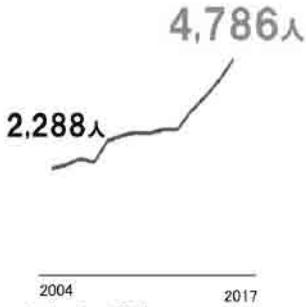


目標・目的	アルティメットの楽しさをより伝える アルティメットだけでなく学習支援などもする
具体的内容	12:00～食事 13:00～勉強(宿題)のお手伝い 14:30～アルティメットなどの運動を一緒にやる 16:00 終了予定
期待する効果	アルティメットを教え魅力を伝えるだけでなく、一緒に食事をしたり勉強面のサポートをしたりすることでお互いの距離が近くなり、大阪市立大学に興味を持ってもらえるようになる
対象	山之内小学校の生徒
スケジュール	毎月第一土曜日(10月7日から)

14

# アルティメット普及

日本競技者数推移

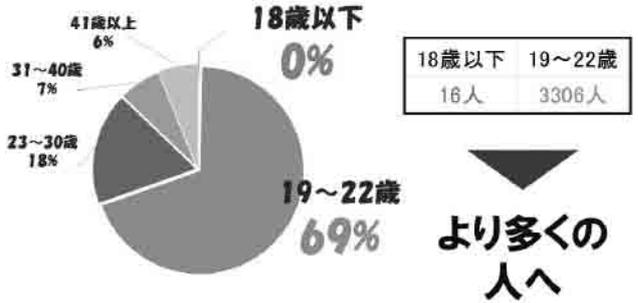


**ここ最近  
急増**

2017年2月28日現在

# アルティメット普及

日本競技者数推移



2017年2月28日現在

# 五輪の可能性

1960年代アメリカで発祥

世界75か国で競技される

2028年  
米五輪で正式種目になる可能性大

# ③清掃活動 事業概要



目標・目的	日頃の感謝の気持ちを示す 地域の美化活動に貢献する
具体的内容	地域の公園や大学など、アルティメットの練習場所としてお借りしている場所やその周辺を清掃する。
期待する効果	市大のアピールも同時にできる
対象	
スケジュール	月1回 2~3時間程度

# 全体スケジュール

内容	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
肉之内 あいあいあい祭り	実施								
第43回 住吉区民まつり			準備	実施					
アルティメット普及			打ち合わせ 準備	実施	実施	実施	実施	実施	実施
清掃活動	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施	実施

# 大阪市 スポーツ推進

大阪市スポーツ振興計画(概要版)

スポーツが心の豊かさを創ぐ、まち大阪  
— 10年後をめざして！ —

**<方針1>** スポーツによる健康増進  
— 市民生活の向上 —

**<方針2>** スポーツによる地域活性化  
— スポーツ振興の推進 —

**<方針3>** スポーツによる地域・経済活性化  
— スポーツによるまちづくり —

**<基本理念・施策の方向性>**

1. 市民生活の向上  
2. 地域活性化  
3. 経済活性化

## 大阪市 スポーツ推進

**大阪**

**目標**  
スポーツ実施率 65%  
(週に1回以上、運動・スポーツをする成人の割合)

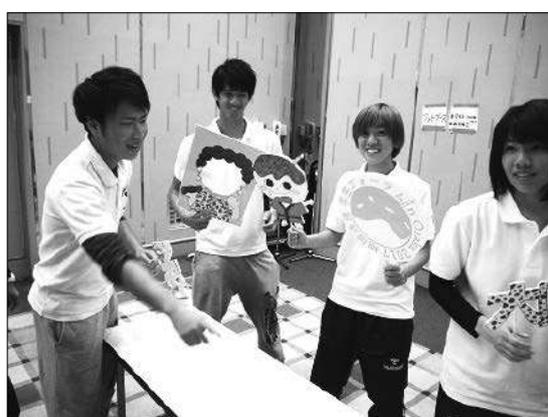
**<方針3>**  
**スポーツによる地域・経済活性化**  
～ ソーシャル・キャピタルを稼ぐ  
スポーツ産業で稼ぐ ～

地域のつながりが希薄になるなかで、ソーシャル・キャピタルは、人が生活を送るうえで、非常に重要です。  
スポーツをすることで、地域社会とつながり、社会参加のきっかけづくりとします。  
また、スポーツ産業で市場を拡大させる(稼ぐ)ことにより、経済の活性化に貢献します。

21

ご静聴ありがとうございました。

## 当日の風景



## 地域連携 学生フォーラム 企画メンバー 活動の様子

### 活動スケジュール（実績）

第1回 ミーティング	6月15日	キックオフ／フォーラム概要検討
第2回	6月23日	フォーラム概要検討
第3回	7月6日	広報手法の検討
第4回	8月2日	事前交流会の内容検討
第5回	8月22日	事前交流会の内容検討・準備
第6回	9月11日	事前交流会（当日準備） フォーラム詳細検討
第7回	9月22日	フォーラム詳細検討
第8回	10月20日	反省会

### 参加学生メンバー（ミーティングに1回以上参加した学生を記載）

NO	氏名	大学	所属先	学年
1	谷住 あかね	大阪府立大学	現代システム科学域 マネジメント学類	3
2	彦坂 悠衣	大阪府立大学	地域保健学域 総合リハビリテーション学類 栄養療法学専攻	1
3	大山 紗奈	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	2
4	菅 彩乃	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	1
5	芝 南々帆	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	1
6	高津 地世	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	1
7	巽 美寿紀	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	1
8	寺田 奈央	大阪音楽大学	音楽学部 音楽学科 ミュージックコミュニケーション専攻	1
9	戸田 悠平	関西大学	法学部	2
10	畑 明日香	関西大学	社会学部 社会学科 メディア専攻	2
11	小林 健太	関西大学	環境都市工学部	1
12	野坂 優太	関西大学	化学生命工学部 科学・物質工学科専攻	1
13	ハン ドウギ	関西大学	システム理工学部	1
14	堀 雄貴	関西大学	化学生命工学部 科学・物質工学科専攻	1
15	前川 翔平	関西大学	化学生命工学部 科学・物質工学科専攻	1
16	前田 遼介	摂南大学	理工学部、住環境デザイン学科	3
17	花本 彩乃	千里金蘭大学	生活科学部 食物栄養学科	3
18	溝口 結子	千里金蘭大学	生活科学部食物栄養学科	3

## 活動の様子

初回キックオフ



初めての顔合わせで、みんな緊張した様子でした。様々な大学の学生が集まり、自己紹介と今後のプロジェクトの取り組みについて意見交換しました。

さあ、みんなで頑張るぞ！

ミーティングの様子



この回は広報の手法について検討しました。

会員大学からの学生発表者をいかに集めるか、学生ならではのアイデアをちりばめたチラシにしようと真剣に議論しました。

心に響く言葉や写真の使い方など、細部にわたって調整しました。

発表者事前交流会（9月11日）



みんなで作ったチラシと募集要項を見て集まった学生発表者がスムーズに当日のフォーラムを迎えられるよう、交流会を企画しました。自己紹介ゲームやフォトブースをみんなで作ったりと企画メンバーを含め、あっという間に仲良くなりました。



フォーラム当日（10月1日）



いよいよ本番！終日の開催で長い一日でしたが、これまでの企画メンバーの努力が実り、大変有意義なフォーラムとなりました。また、交流会も学生ならではの企画で大いに盛り上がりました。このフォーラムを発表会のみならず「学生交流」まで発展させることができました。発表学生の今後の地域での活動、大いに期待しています！

メンバーの皆さん、お疲れさまでした！



広報用チラシ (参考)

**地域連携**

**学生フォーラム**  
**in 大阪 2017**

2017年10月1日 (日)

**「学生発表者募集！」**

Twitter: **コンソ大阪学生フォーラム @ConsoForum2017**



**エントリー締切**  
2017年8月25日 (金)

発表当日会場  
大阪国際交流センター(さくら東・西)

**入場無料**

**対象者**  
大学コンソーシアム大阪  
会員大学の学生・大学院生

**お問い合わせ先**  
特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪  
〒530-0001 大阪市北区梅田 1-2-2-400  
大阪駅前第2ビル4階 キャンパスポート大阪  
TEL.06-6344-9560 FAX.06-6344-9561

メールアドレス: [chiren@consortium-osaka.gr.jp](mailto:chiren@consortium-osaka.gr.jp)  
HP: <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

**メリット①**  
大学や分野を超えて、  
たくさんの仲間と交流できる！

**メリット②**  
他大学や他グループの  
取り組みで得たノウハウを  
今後自ら活動に活かすことができる！

私たちは、学生フォーラムの  
企画メンバーです！



## 学生たちよ、今年は、祭りだア！

2016年参加者アンケート

「とても参考になった43%」

- ・自分たちの活動を発表するだけでなく、人の発表を聞いて参考になる部分がたくさんあった。
- ・学生のチームで協力することや、プレゼンの練習になったりと、社会へ出る前の良い取り組みになった。
- ・相手にわかりやすく説明をするために、みんなで協力することができた。

## 発表といっても、お堅いイメージではない！

「参考になった50%」

- ・学生が自分たちの活動を振り返るいい機会だと思う。
- ・数々の地域連携の方法や考え方を知ることができた。
- ・発表する力を得ることができた。

楽しいな雰囲気の中、

みんなで交流を図り、

親睦を深めて、

## 「大阪ならではの」の演出盛り上げに、期待せよ！

### 趣旨

学生が地域と関わりながら取り組む研究活動について発表を行い、フォーラムを通じて他大学の学生と交流することによって地域連携に取り組む意欲の高揚を図ります。

また、地域との連携を行う上での配慮ポイントやノウハウを会員大学や自治体等で共有、また発信することにより、今後の地域連携活動の活発化を目指します。

### 魅力ポイント

1. プレゼンの経験、技術が身につく！
2. 他大学の活動も知ることで、可能性が広がる。
3. 「伝える」ことのきっかけづくり。
4. 連続出場大学多数！

### エントリー方法

応募要項を確認し、エントリーシートに必要事項を記入の上、メール添付にて下記アドレスへ送付してください。

・メールアドレス：chiren@consortium-osaka.gr.jp

・HP：http://www.consortium-osaka.gr.jp/

新たな可能性を広げよう！

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪

学生たちよ、  
今年は祭りだよ  
大阪ならではの  
発表会に期待せよ



**日時** 10/1 (日) 10:00-16:30 (開場 9:30~)

**場所** 大阪国際交流センター

地下鉄谷町線「谷町九丁目」駅 5番出口 徒歩7分  
地下鉄谷町線「四天王寺夕陽ヶ丘」駅 1番出口 徒歩6分  
近鉄線「大阪上本町」駅 14番出口 徒歩5分

**定員** 200名 (事前予約制) / 参加無料



学生フォーラム  
@ConsoForum2017



●開催趣旨●

大学コンソーシアム大阪 会員大学の学生が取り組む地域の課題解決に関する研究活動（ゼミ等）について、発表交流会を開催します。

「地域連携活動」に取り組む学生の意識の高揚と活動の情報を会員大学や自治体関係者等と共有・発信する機会とし、地域連携の活発化を目指します。

●申込方法● メールにてお申込みください： 9月28日（木）締切

・本文には次の内容を記載してください

①氏名（フリガナ含む）、②所属先・職名（学生は大学名・学部・専攻・学年）、③電話番号、④メールアドレス

・メール送信先： chiren@consortium-osaka.gr.jp

・件名： 「学生フォーラム参加申込」と記載してください

主催：特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪 <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

詳しくはホームページで！

発表内容（予定）＊大学五十音順で掲載

大学コンソーシアム大阪

検索

大阪市立大学 アルティメットサークル 颯和	アルティメットを活用した地域親善大使事業	大阪市住吉区
大阪府立大学 「地域活動演習」防災グループ	堺市南区御池台小学校区の防災活動	堺市南区御池台小学校区
追手門学院大学 北摂総合研究所 「見山の郷商品開発プロジェクト」	追手門学院大学生の地域連携活動として 「見山の郷の課題解決」に参加する	茨木市 見山地域 他
大阪経済大学 人間科学部 人間学科	スポーツツーリズム	大阪府
大阪経済法科大学 BLP 特別演習 河内木綿プロジェクト	授業の一環での地域貢献活動	八尾市、東大阪市
大阪産業大学 地元のEもんAとこづくりプロジェクト	デザインのかでじもとの課題を創造的に解決する	大東市
大阪成蹊大学 芸術学部 造形芸術学科 表現教育コース	地域の魅力発見と発信、 地域の皆さんのコミュニケーション作り	豊中市、泉大津市
大阪電気通信大学 地域連携プロジェクト入門	ねやファーム (寝屋川市の農家と学生を結ぶマッチングサイト)	大学内
大阪人間科学大学 人間科学部 医療心理学科 言語聴覚専攻 宮地ゼミ	言語発達に遅れがある子どもたちの発達援助	ことばときこえの 発達支援センター (大学内)
関西大学 人間健康学部 安田ゼミ	KELP(関大型体験学習研究会)による 地域での活動について	堺市、田辺市
近畿大学 経営学部 キャリア・マネジメント学科 李ゼミ	「北条鉄道応援キャンペーンの展開」 「NPO 法人原始人会の知名度アップと環境整備」	兵庫県加西市、東大阪市
近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境・まちづくり系専攻 田中ゼミ	川西市黒川エリアの古民家を活用した コミュニカカフェの運営	兵庫県川西市黒川エリア
千里金蘭大学 生活科学部 児童教育学科他	キッズシティきんらん	千里金蘭大学、 DIOS北千里専門店会
森ノ宮医療大学 メディカルスポーツトレーナー研究会 「MST」	ジュニアスポーツ選手のサポート	舞洲スポーツアイランド、 大和高原ボスコヴィラなど



当日は学生有志の企画メンバーが  
一緒に会場を盛り上げます！

●お問い合わせ先●

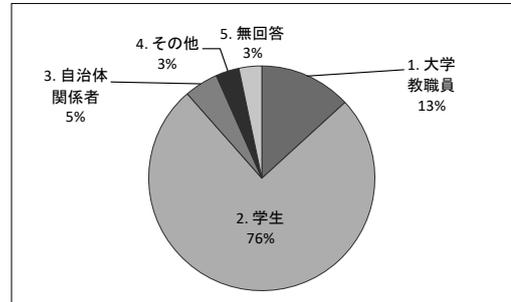
特定非営利活動法人 大学コンソーシアム大阪  
TEL:06-6344-9560  
MAIL: chiren@consortium-osaka.gr.jp  
HP: <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>

# 地域連携 学生フォーラム in 大阪 2017 参加者アンケート 集計結果 (n=61)

## 1. 所属先について

1. 大学教職員	8
2. 学生	46
3. 自治体関係者	3
4. その他	2
5. 無回答	2
合計	61

\*その他：民間企業勤務 1名

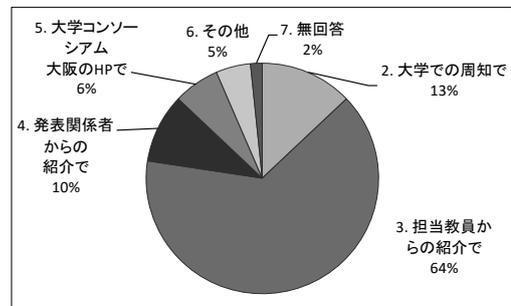


## 2. このイベントを知ったきっかけ

1. チラシを見て	0
2. 大学での周知で	8
3. 担当教員からの紹介で	40
4. 発表関係者からの紹介で	6
5. 大学コンソーシアム大阪のHPで	4
6. その他	3
7. 無回答	1
合計	62

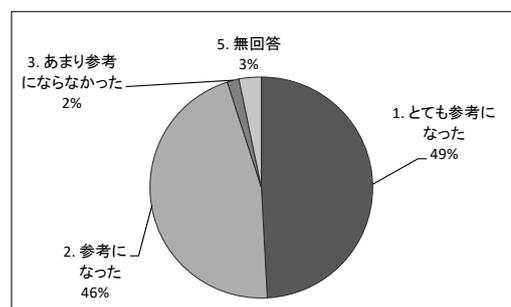
※複数回答あり

\*その他：強制参加、ゼミ生、教員の紹介



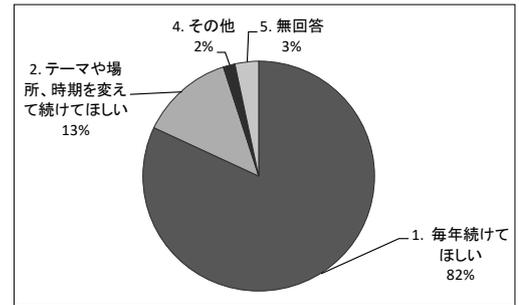
## 3. 今後の研究や地域連携の取り組みの参考になったか

1. とても参考になった	30
2. 参考になった	28
3. あまり参考にならなかった	1
4. その他	0
5. 無回答	2
合計	61



#### 4. イベントの継続について

1. 毎年続けてほしい	50
2. テーマや場所、時期を変えて続けてほしい	8
3. あまり続けてほしいと思わない	0
4. その他	1
5. 無回答	2
合計	61



##### \* 希望する場所、テーマ

- 大阪のリッツカールトン、リーガロイヤルホテル大阪、太閤園、他
- テーマがバラバラだったので、色々な側面からの話を聞いて良かったのですが、やはりテーマを決めてそれにのっとった方が参考になると思いました。
- テーマは少し絞った方がディスカッションを深められるのではないかと思います。
- 発表の種類か取り組み内容の種類で発表をまとめると分かりやすい。

##### \* 希望する時期

- 長期休みのとき（夏・冬・春）などの開催を希望。
- 後期開始の時期でもあり、学校での活動が忙しいこともあるので、少し時期を変えて開催されるとういきたいと思います。

## 5. 特に関心をもった発表について (その内容)

### 1. KELP (関大型体験学習研究会) による地域での活動について：10名

育教×地域起こしをしていたので参考になった。  
とても活発なプロジェクトだったから。  
プロジェクトの内容、全てのレベルが高くて素晴らしかったです。楽しそうであり、地域連携にもしっかり貢献していて参考になる点が多かったです。  
楽しさや笑顔を大切に、活動されていることや様々なことにチャレンジしているところが素敵だと思いました。  
地域との実践活動の内容が豊富だった。  
堺市と田辺市を連携し、活動しているということで、様々な活動をしているから。  
KELPを活かした活動に惹かれたから。  
一つの団体が様々な取り組みをしているから。他にはないと感じたため。  
地域の課題に、学生ならではの発想力と行動力が見受けられて良かった。

### 2. ねやファーム (寝屋川市の農家と学生を結ぶマッチングサイト)：7名

日本での農業の人口が減っている中で、学生を農家につなげる取り組みはとても素晴らしいと思いました。  
ご近所の大学ということもあり、関心を持って発表を聞かせていただきました。  
私の実家が農業をしていることから、農家の後継者探しについての課題に向き合う内容だったので、身近に感じました。  
本市が取り組もうとしている事業に非常に役立つと思ったため。  
私は自治体関係者なのですが、地域と行政との連携の方策について、現在模索しています。そのような中、マッチングサイトというツールを用いて行くことにとても魅力を感じました。  
農業について学ぶ機会が少ないので参加したいと思いました。  
地域高齢化、農家減少という、これからの日本の問題、課題となるものをテーマにしている、とても画期的だと感じたから。

### 3. ジュニアスポーツ選手のサポート：17名

競技側の人間なので、選手とサポート側の考えや思いに関心が湧いた。  
スポーツ関連の発表は、これからスポーツ界を担うジュニア世代に焦点を当てた面白い内容でした。  
スポーツをしない自分にとって、「人にこういう形でサポートができるんだ」と知ることができたことは、大きな収穫だった。  
すごく分かりやすかった。弟がスポーツをしているので参考になった。  
普段から人前で話す機会が多いので、話し方がとても上手であった。内容がスムーズに頭に入ってきた。聞きやすかった。  
活動に関する意欲がとても感じられるプレゼンテーションでした。楽しみながら行っているのだろうな、ということが発表から伝わりました。  
これからの未来を担うジュニア選手が活躍できるようにサポートして行くことは、とても大切だと思いました。  
ずっとスポーツをしてきたが、このような講座があればいいなと思ったから。  
スポーツをしてきたので、未来を担うアスリートを支える活動を知り、どんどん広がって行って欲しいと思いました。  
学科の内容と実践活動がinput、outputの関係になっており、活動内容も興味深いと感じた。  
ジュニアスポーツでの問題で、アスリート育成という点について、そのスポーツ専門の育成についてもっと知りたい。  
子どもの未来をサポートするという点で、とても夢のある素敵な活動だと感じました。  
明確な目的のための、ジュニアサポートや地域連携が本格的で素晴らしいと思いました。

実際に地域と連携し、貢献できているプロジェクトでは一番すごかったと思う。もっと中学校などでの講座を多くしてほしいと思った。私が中学生のときに来てほしかった。

#### 4. 見山の郷商品開発プロジェクト：10名

6次産業化、製品の開発など、自分たちも学んでいる内容だったため関心が持てた。製品の開発や、販路の開拓が面白かったです。指導教員とゼミの学生の活動が活発だから。似たような活動をしているので、活動に対する姿勢や考え方などを知ることができて良かったです。地元自治体の特産品をもっと商品開発し、地域ブランド力の向上に寄与していく手法には、とても感慨深く思いました。地域活性化と高齢化に対し、若者に的を絞り、商品開発を行っていることに興味が湧いたため。難しそうだが面白そうだった。商品を作るのは貴重だと思えた。

#### 6. 堺市南区御池台小学校区の防災活動：5名

防災に関してたくさんの知識が紹介されていておもしろかったです。勉強になったため。自治体（堺市）、他大学（大阪市大）、住民（御池台自治会）としっかり連携し、防災に取り組んでいくことがよく分かった。防災はこれからもっと考えるべき課題であると思いました。一人で、とてもしっかりした発表をしていて、内容もとても良かったため。

#### 7. 授業の一環での地域貢献活動：3名

ビジネスとして商品開発が楽しそうだったから。努力が見受けられたため。

#### 8. 川西市黒川エリアの古民家を活用したコミュニティカフェの運営：15名

中山間地域における（抱える）問題と、学生の実践とが本フォーラム中で最も合致していたので。「古民家カフェ」という分野で行ってみたいと思ったし、コミュニティカフェは、私自身がやってみたいと感じた。「カフェ」を軸に地域と連携していて非常に興味のわくものであった。加西市の課題と似ていたので参考になった。里山の自然がとても感じられる発表だったので、プライベートで行ってみたいと思いました。古民家を使って運営している、ということで行ってみたいなと思った。カフェ（若者に人気）と、田舎（お年寄りが多い）をつなげるために難しい経営を頑張っているのだと感じたから。古民家カフェひとつでは、今後の目標である移住を促進させることは難しいと思う。やっていることはすごく面白いと思う。このままではありがちな古民家カフェなので、大学生がしているという若い強みをもっと大きく打ち出して良いと思った。活動の内容が具体的で分かりやすかった。地域での学生のカフェ運営に関心があったから。駅から徒歩30分という土地で、古民家カフェの運営を行うことに大きなチャレンジ精神を感じました。大赤字だそうですが、頑張ってください。企画の計画、実施計画について、地域の方と一緒に取り組まれていると、強く感じたため。

9. 北条鉄道利用応援キャンペーンの展開／NPO 法人原始人会の知名度アップと環境整備：7名

地域（地方）創生、そのものの活動だった。  
古民家カフェを経営しているのがすごいと思いました。  
自分たちの活動を SNS を積極的に活用して発信している点が、とても参考になったため。  
大変わかりやすいプレゼンで、参考にしたいと感じたため。  
企画の計画、実施、評価がしっかりされていると思ったため。  
知名度が低いローカル線ですが、このような活動がされていると知り、北条鉄道に乗ってみたいと思いました。  
鉄道応援キャンペーン活動に興味があったから。

10. キッズシティきんらん：15名

子どもがお店屋さんごっこを通じて社会に興味を持ったり、自分たちでルールを考えたり…。とても良いなあと思った。  
子どもたちが自分で考えたり、お金を取り扱ったりするのが、すごく面白かったです。  
子どもたちの自立や社会性、キャリア教育としても良かった。  
学生と地域、子どもなど、様々な人が関わりあう活動であり、参加する人それぞれにメリットがあると感じたため。  
イベントに協力したので。  
子どもたちで模擬経済活動を行うという内容が、大変興味深かったです。社会の仕組みを分かりやすく体験できる良い機会だったと思います。  
やっている「キッズシティ」という内容が良かった。子ども目線で考えられている企画だった。大人から見たとしても楽しそうと思える良い企画だった。  
楽しそうで、子どもたちも満足する内容だと思った。  
プラネタリウムとか作っているモノが素敵だなと思った。  
子どもへの好影響大。  
子どもたちの考えで町づくりをする企画に、とても関心が持てた。子供たちの将来に役立つ企画だと思った。  
想像しやすく、子どもと共に作り上げるイベントは、とても達成感が味わえると感じた。  
自分たちと少し似ているところがあり、興味が湧いたし勉強になりました。  
私自身が「キッズシティきんらん」に行ってみたいと思った。

11. 地域の魅力発見と発信、地域の皆さんのコミュニケーション作り：18名

自分の地元である豊中市のことが取り上げられていたから。  
楽しそうでした。活力を感じました。  
「アート」と聞くと身近でない感じがしていたが、様々な形で地域とつながっていて素敵だと感じたから。  
何かを作ることが好きなので、楽しそうな取り組みに惹かれた。  
他の大学の発表とは違い、動画や劇を取り入れてあったので興味深かった。  
アートが地域、人々と調和していた  
ものづくりをする時には準備や企画するのはとても時間がかかり大変だと思うが、成功されていて良かった。  
雰囲気明るく、芸術のイメージが変わった。  
芸術学部の方がこんなに面白そうなイベントをしていることに驚きました。  
幼少期に良い教育をしていたので共感できた。  
アートの力を地域に活かすワークショップは、非常に興味深かった。  
パフォーマンスが上手だった。質疑応答のときの言葉の選び方がとても上手だった。  
それぞれの個性を大切に、今までにない楽しさを考えるところにも面白味があるように思いました。  
子どもが興味を持ちそうな企画がたくさんあって楽しそうだと感じた。  
もともと芸術に興味があったが、芸術の捉え方、また活動内容に興味を持った。

12. デザインの力でじもとの課題を創造的に解決する：13名

デザインを活かした地域づくりが魅力的  
大学がある東大阪のことを良く知ることができたから。  
大変充実した企画だと思いました。  
「つながり」というテーマで積極的に多様なアプローチをしており、映像からも参加者の満足度が伺えたため。  
竹灯籠のお祭りに、企画する側としてもお客さん側としてもぜひ参加したいと感じさせられるような、素晴らしい地域連携だと思ったから。  
分かりやすく、聞き取りやすい話し方だった。Good！  
地元愛が強くなりそう。いろいろなワークショップがあり参考になった。  
若者や子供に注目し、祭りや地域事業から未来の社会創りをしていると感じた。  
地元（大学付近）にものをPRするという面で、共感できる部分がありました。  
映画を通して地域貢献につなげるのが面白いと思った。雰囲気一統のための工夫が大変興味深かった。  
すごく親しみやすく、笑顔でつながる良い活動だと思いました。

13. 言語発達に遅れがある子どもたちの発達援助：10名

感動しました。発達障害の子どもたちやその親御さんに笑顔を与える活動を、大学生がしていることがとても素晴らしいと思いました。  
実際の参加者の方々の思い、実施した成果が分かりやすく示されていると感じたため。  
子どもに関する内容については、とても勉強になったと思う。  
発達障害がある子供に対して、様々なアプローチをしていくことの重要性を感じることができました。  
実際にどのようにアプローチしているのかを動画で観られて勉強になった。  
支援センター活動への参画が素晴らしい。  
大学でも実際に言語聴覚士のような活動が行われているのは知らず、すごいと思った。  
家族に障害を持っている人がいるので、こういうものがあると心強いと感じました。たくさんの人に知ってほしい。  
学生ですが、実際のお子さんたちを相手に活動し、保護者に感謝されている点が良かった。

14. アルティメットを活用した地域親善大使事業：13名

アルティメットに関しての豆知識がとても多くて良かったです。  
私自身、アルティメットの普及に興味があり、今後、協力団体として繋がれたらと思ったからです。  
一回生でサークルを発足して、外部での活動を成功されていて素晴らしいと思った。  
アルティメットでの活動はあまり聞き慣れないから、これからの期待感があった。  
スポーツを通じてどのように地域と関わっているかが、とても分かりやすかったです。  
実際、(他の企画で)アルティメット界のレジェンド的存在の方を招いてセミナーをさせていただきタイムリーだし、マイナースポーツをサポートし、地域でも関わって行くのは良いと思いました。  
体育会系のイメージがあったが、地域の子供たちと密に関わっていて意外だったから。  
面白かったです。地域のために、という思いが伝わりました。  
純粋に興味を持ったため。  
アルティメットというスポーツが、ドッチビーを使うことによって安全性が高められ、全世代の人が楽しめるように考えられている点に関心を持ちました。  
アルティメットは楽しいですね。

その他：どの発表も実に興味深い内容であったため、甲乙つけ難いものでした。

## 6. フォーラムの感想や意見

### ○感想

このようなイベントを開催していただきありがとうございます。とても良いイベントだったと感じています。
自分たちの活動の課題が他の団体の課題と似ている部分があり、解決策を聞くことができとても参考になりました。
自分たちが行ってきたこと、今後のビジョン発信などができて成長につながりました。また、他団体の発表で自分たちももっと頑張らないといけないという意識が芽生えました。
他大学でも様々な地域との連携活動が行われていて、とても興味深いプロジェクトであったり、いいなと思うものもたくさんあって参考になりました。
あまり他校に興味がなかったため、「こんなことをしているんだ」、「これも面白そうだな」と他を知れるきっかけになった。
他大学さんの活動を知ることができました。発表を聞くことによって、もっと私たちが頑張ろうと思えました。ありがとうございました。
色々な活動を知ることができて勉強になりました。それと、スタッフさんが優しくてやりやすかったです。ありがとうございました！
学部や学科によって、様々な地域との連携の仕方があるんだなと思った。どこの大学がどんな活動をしているかよく知らなかったのも、自分たち以外にもたくさん活動しているところがあって参考になった。
今まで自分たちの専門のことしか知らなかったのも、とても参考になりました。違う大学、違う専攻コース、それぞれの特色がかなり分かりやすく、違う視点で考えられているので面白かったです。写真を撮るところ、すごく良かったです！思い出の一枚が撮れました。学生企画メンバーさん、お疲れ様でした！
他の大学の活動を知ることができ、良い刺激となりました。
自分の知らない分野の活動、例えばスポーツ・医療関係のプロジェクトは大学生がやっているとは思えないほど魅力的で素晴らしいです。参考になる点が多く、ぜひ持ち帰りたいと思います。
人文系、芸術系学部・学科の活動がよく分かった。
目的とするところがまだ明確ではないところもあると感じましたが、いろいろできていい機会になると感じました。
席がバラバラだったので、グループ別に決めた方がいいように思いました。しかし、色々な大学の発表を聞いて、たくさんの方々が様々な活動をされているのを知ることができて良かったです。
思っていたよりも参加者が意欲的で、とても楽しい会だった。
堅苦しい雰囲気がなく楽しかったです。自分たちが地域連携をしているからこそ、他の大学の取り組みについて興味があり、発表について知れて良かったです。良い機会でした。
想像していたより自分の身になる話が多くて、いい経験になった。地域のことを活性化するために、こんなに多くの方が頑張っているのだと知れて、自分だけが大変なのではないとわかって良かった。
スタッフが積極的に声かけをしてくださって、昨年以上に学生が作り上げる雰囲気を感じられて良かったです。地域連携についての発表でしたが、その中でも、人と人のつながりを楽しみながら行っているという内容が多く、同じ気持ちで活動しているのだと再認識できました。
他の大学の面白いプロジェクトが知れて、自分の価値観の良い刺激になりました。
全体的にパワーポイントや作成書類に関しては力が入っている。様々な学生の活動を見ることができておもしろいと感じた。
地域と連携して活動している他団体の取り組みを知ることができて、とても良かった。また、交流会で情報交換をすることができ、とても有意義な時間を過ごせた。
テーマの地域連携について、また、各発表大学の様々な分野についても知ることができ、楽しめて学べる大変有意義なイベントでした。

自分の知らない分野についても知ることができました。同じ大学生の方々が様々なイベント・プロジェクトをしていて、皆で考えを出し合えば素晴らしいものができるなど感じました。
先輩や他大学の活動の集大成を見る事ができて良かった。来年は私たちが発表する側として、様々な活動をし、拡張していきたいと思った。
素晴らしい発表ばかりでした。
お疲れさまでした！ありがとうございました。
企画メンバーの方々、お疲れ様でした。貴重な機会をありがとうございました。せっかくの貴重な機会ですし、どの大学も興味深い取り組みをされていたので、実際の地域の方々に今日の内容を伝える機会があればいいなと思いました。
1) 進行タイム対応までご苦労様です！ 2) 司会者、うまい進行でした。 3) 声の小さい発表学生は、マイクの音量アップの対応を！ 4) 各報告者は、なぜその地域かの関係性を説明をしてほしかったです。
・メンバーの方は同じユニフォームを着ているのでわかりやすかった。 ・誘導がスムーズだった。 ・今が何の発表か、スライドの表示があつて良かった。 ・名刺大の用紙は、はじめ何を書けばいいのかわからなかった。(再度説明してもらったのでわかった。ありがとうございました。)
休憩時間の取り方や、プログラム進行については大変満足でした。しかし、一つ残念だったのがフォトコーナーのクオリティの低さ。少し残念に思いました。
本日の企画をしてくださった、コンソーシアム大阪の方々へ！今日は本当にありがとうございました。今回参加をしてみて、自分の考えていること以外の地域連携の形を知ることができました。今後の自分の活動の引き出しを、一つ作れたと思います。企画メンバーの皆さま、お疲れさまでした。事前交流会から楽しく、本日もスムーズに進行していただき、参加して良かったと思いました。
学生企画メンバーが大変精力的に頑張ってくれていたのも、発表者は気持ちよくプレゼンすることができました。(それと、自分の授業を受けたことのある学生がメンバーにいてびっくりしました。)
司会の方のコメント、話し方、進行…。すべてがとても良く、気持ちよかったです。
質疑応答は、推進委員を中心に聞いてから質問をうながせばスムーズな司会進行になるのではないかと。
様々な活動内容を聞いて、いい刺激を受けた。学生企画メンバーの方、お疲れ様でした。
様々な学校の行っている活動を知ることができて、とても良い刺激になった。学生企画メンバーの方々はとても雰囲気も良く、親切でした。
学生にとってやる気につながると思うので、もっと多くの人に参加してもらえそうなイベントにしてください。頑張ってください。

○ 意見など

非常に色々なテーマになっていたのも、テーマ別に日を替えて実施してもらおうと参加するのに選択ができる。
発表に対する質問は、事前準備であらかじめ一つの学校と決めておいてはどうでしょうか？1問目は聞きにくいので、あらかじめ調整し、2問目以降は自由としたら活発な意見交換ができると思います。
自治体職員が仕事として出席できるよう、平日に開催していただけると助かります。
学生の皆様の熱意をととても感じました。勉強になりました。今後は行政と大学の間の垣根を低くし、相互にコミュニケーションを密にすることで地域に貢献する方法を模索して行ければと考えています。また、参加させていただきます。

## 7. 大学コンソーシアム大阪への意見

この場で出会った人たちとコミュニケーションをとって、今後の活動につなげて行ければ良いと思います。
今回素晴らしい発表がたくさんありましたので、私たち発表者以外に、一般の方にも知ってもらいたいと感じました。
こうした活動を今後もお願いします。
これからも他分野の発表を継続して行ってほしいと思います。
これからも活動領域を広げながら頑張ってください。
取り上げた内容を、自治体や地域に引き継ぎができる仕組みがあればいいと思います。
他大学との情報交換を行い、相互作用による能力向上。
様々な取り組みや情報の共有、活発な前進的な意見の交換、地域への還元
本フォーラムへの参加大学の増加が、もっとあれば良いですね！
大学生が企画・運営する上で、大変な準備を要したと思う。大学生ならではの若さとパワーでこれからも頑張ってもらいたい。
イベントの拡大
もっと学生の力を、もっと信じてみてはどうか？
学生の活動に社会が注目すること。
他団体との交流。
オリンピックムーブメント教育。単位認定講義としてスポーツボランティア講座を大学コンソーシアム大阪で実施してほしい。また、オリンピックムーブメント（また関西 WMG）普及啓発イベントを実施してほしい。
私は現在、吹田市役所の自主研究会グループの一員として、大学と地域連携について研究しています。吹田市と貴コンソーシアムとの間で連携することにより、地域連携をさらに進めて行くべく、お知恵をお借りしたいと考えています。
昼食付であるといい。

特定非営利活動法人  
大学コンソーシアム大阪

大阪市北区梅田 1-2-2-400 大阪駅前第 2 ビル 4 階

TEL : 06-6344-9560 FAX : 06-6344-9561

MAIL : [chiren@consortium-osaka.gr.jp](mailto:chiren@consortium-osaka.gr.jp) (事務局 地域連携担当)

URL : <http://www.consortium-osaka.gr.jp/>